



RYUKOKU
UNIVERSITY

You, Unlimited

Ryukoku University

Course Guide

履修要項

Faculty of Letters
文学部

入学生用
2024

龍谷大学文学部
2024年度入学生用

履修要項

『履修要項』は卒業まで使用しますので、大切に保管し、活用してください。

また、『履修要項』配付後に発生した変更、学年暦、各種日程、各学部窓口事務及び学部共通の各教育プログラム・諸課程については、履修要項WEBサイトを通じてお知らせします。

〈履修要項WEBサイト〉

<https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です
(お気に入り登録しておくと便利です)。



《目 次》

はじめに	4
学生のみなさんへ	
学年暦	
龍谷大学の「建学の精神」	
龍谷大学の教育理念・目的	
文学部の教育理念・目的	
各学科・専攻の教育理念・目的	
文学部の卒業認定・学位授与の方針	
文学部の教育課程編成・実施の方針	
学生支援の方針	
ガイダンス	
大学からの連絡・通知	
休講・補講・教室変更情報	
度牒（写し）の提出	
第1部 履修の心得	13
I 履修をはじめるとにあたって	14
1. 長期的な履修計画を立てること	
2. 系統的に科目を履修すること	
3. 自主的に学修をすること	
4. オフィスアワー	
II シラバス	16
1. シラバスとは何か	
2. シラバスに記載されている情報	
3. シラバスの利用方法	
III 単位制度と単位の認定	17
1. 単位制度	
2. 履修登録制度	
3. 授業科目の履修	
4. 授業時間	
5. 卒業要件単位および学士号	
6. 入学前に修得した単位の認定	
IV 授業科目の開設方法	21
1. セメスター制	
2. 授業科目の開講形態	
3. 週2回授業科目の開講方法	
4. オンライン授業について	
5. 授業科目と授業テーマ	
6. 先修制	
7. グレイドナンバー制	
8. 科目ナンバリング	
V 履修登録	28
1. 履修登録手続スケジュール	
2. 履修登録制限単位数	
3. 予備・事前登録	
4. 履修登録要件	
5. 履修辞退制度	
6. 配当セメスターの考え方	
VI 成績評価	33
1. 成績評価の方法	
2. 成績評価の基準	
3. GPA制度	
4. 成績疑義	
5. 筆答試験の時期	
6. 受験資格	
7. 受験の注意事項	
8. 答案の無効	
9. 筆答試験における不正行為	
10. レポート試験における不正行為	
11. 追試験	
12. 筆答試験時間	
第2部 教育課程.....	39
I 教育課程の編成方法	40
1. 授業科目の区分	
2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目	
3. クラスの編成	
4. カリキュラム概念図	
II 教養教育科目の教育目的および履修方法	42
1. 教養教育とは (1) 教養教育の理念・目的 (2) 教養教育科目とは (3) カリキュラムマップ	
2. 「仏教の思想」科目 (1) 目的と意義 (2) 履修方法	
3. 言語科目 (1) 目的と意義 (2) 必修外国語科目の履修 (3) 選択外国語科目の履修	
4. 教養科目 (1) 単位認定の方法 (2) 開講方式および履修方法	

5. 教養科目、選択外国語科目の予備登録	
(1) 予備登録の方法	(2) 予備登録できる上限科目数
(3) 予備登録結果発表	(4) 予備登録にあたっての注意事項
(5) 予備登録が不要な科目	
6. 留学生の必修外国語科目（日本語科目等）	
7. 教養教育科目開設科目	
(1) 「仏教の思想」科目	(2) 言語科目
(3) 教養科目	
III 文学部専攻科目の教育目的および履修方法	61
1. カリキュラムマップ・必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧	61
・真宗学科	・仏教学科
・哲学科哲学専攻	・哲学科教育学専攻
・歴史学科日本史学専攻	・歴史学科東洋史学専攻
・歴史学科仏教史学専攻	
・歴史学科文化遺産学専攻	・日本語日本文学科
・英語英米文学科	
2. 選択専攻科目 開設科目一覧	102
3. 随意科目 開設科目一覧	106
IV その他の教育課程・教育プログラム	107
1. データサイエンス・AIリテラシープログラム	
2. 留学／国際交流プログラム・単位互換制度・各種実習プログラム	
・留学／国際交流プログラム	・大学コンソーシアム京都「単位互換制度」
・「放送大学科目」履修制度	・RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム
・大学コンソーシアム京都「産学連携教育プログラム」	
3. 留学の単位認定について	
1) RIP (Ryukoku Intercultural Program) 留学	
(1) 5-week summer program、5-week spring program	
(2) Fall semester program、Spring semester program	
2) 国際文化交流研修	
3) 交換留学・私費留学における単位認定	
4) 海外研修	
第3部 諸課程	115
I 諸課程	116
1. 諸課程	
教職課程	学校図書館司書教諭課程
図書館司書課程	本願寺派教師資格課程
博物館学芸員課程	社会福祉主事課程
本願寺派学階課程	
児童指導員任用資格・児童の遊びを指導する者任用資格	
2. 特別研修講座・各種講座・試験	
第4部 学修生活の手引き	121
I 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室	122
1. 窓口事務	2. 保健管理センター
3. 障がい学生支援室	
II 授業等の休講措置に関する取扱基準	123
III 学籍の取り扱い	124
1. 学籍とは	2. 学籍簿
3. 学生証	4. 学籍の喪失
5. 休学と復学	
6. 再入学	7. 編入学・転入学
8. 9月卒業	
IV 大学院文学研究科・実践真宗学研究科	128
第5部 ルーブリック	129
I 「ルーブリック」とは	130
II 文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック	131
III 卒業論文ルーブリック	132

はじめに

学生のみなさんへ

この履修要項は、龍谷大学文学部において開設されているすべての授業科目を紹介し、みなさんが卒業するまでに履修・修得しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。学期の始めには、履修に関する詳細なガイダンス（履修説明会）が行われますのであわせて利用してください。不明な点があれば文学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

2024年4月

学年暦

学年暦として、大学行事、授業日、休日の授業実施日、定期試験期間、休業期間などの日程を定めています。毎年度変更となりますので、履修要項WEBサイトで必ず確認してください。

〈履修要項WEBサイト〉

<https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です。



龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学の教育理念・目的

建学の精神に基づき「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成する。

〔学部・研究科の「教育理念・目的」と3つの方針 （「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」 「入学者受入れの方針」）策定の基本方針〕

龍谷大学の教育理念・目的を実現するために設置された学部・研究科は、広く社会に貢献できる教養教育・専門教育及びより高度な専門教育・研究を体系的かつ組織的に行うにあたり、各学問分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえた教育理念・目的を掲げ、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を一体的に策定する。

文学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、人文学の知的体系の研究・教授を通じ、現代社会の複雑な変化や諸問題に、自己を見失うことなく積極的・主体的に対応しつつ、社会に貢献できる教養及び専門性を備えた人間を育成することを目的とする。

各学科・専攻の教育理念・目的

学科専攻別開設科目一覧（62～105ページ）に掲載しています。

文学部の卒業認定・学位授与の方針 [学士 (文学)]

文学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生に保証する基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方針を次に掲げる。

〈文学部の学生に保証する基本的な資質・能力〉

①：建学の精神の具現化	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神の意義について理解している。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	<ul style="list-style-type: none"> ・人間社会において「言葉(ことば)」の持つ影響力について深く理解し、人文学の幅広い知識を身につけている。 ・日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝達するための方法を身につけている。 ・外国語運用能力や豊かな教養を身につけている。
③：(④の基礎となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけている。 ・自らが設定した課題について、探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を多角的に身につけている。 ・論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観を認め、言語(ことば)の学修をはじめとした学びを通じて自己の認識を広げ、異なる価値観を受容することができる。 ・他者との交流や異なる価値観の受容を通じて、自己を客観視し、他者と協働することができる。 ・社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。

〈学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法〉

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
3. 卒業年次には、「卒業論文」を提出しなければならない。卒業論文提出後に口述試問を実施し、複数の教員によって厳格な評価を行う。

文学部の教育課程編成・実施の方針

文学部では、卒業時に「教育理念・目的」や、「卒業認定・学位授与の方針」に明示した「学生に保証する基本的な資質・能力」を確実に身につけられるように確かなカリキュラムを編成している。具体的には以下の方針に基づく

〈文学部の教育内容〉

<p>①：建学の精神の具現化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。
<p>②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ・諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。 ・人文学に関する知識・技能を身につけるために「普通講義」を開講する。 ・大学での学びの基本的な方法や、日本語の文章作成のための能力を育成するために「基礎演習」（1・2年次）を配置する。 ・学生が自主的に設定した学修テーマを追究し、問題解決へと至る知識と技能を養成するために、「演習Ⅰ」（3年次）および「演習Ⅱ」（4年次）を開講する。 ・文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。
<p>③：(④の基礎となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を活用して異文化を理解する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の言語科目（英語および英語以外の複数の外国語科目）を開講する。 ・幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当（第3・第4セメスター配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講する。 ・学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表やレポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」（3年次）および「演習Ⅱ」（4年次）を開講する。また、これらの活動を通じて思考力・判断力・表現力を伸張するために「卒業論文」を必修とする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・批判的能力やものごとの本質を見極める力を養成するために「基礎演習」「演習」科目を全学年で設置し、「普通講義」等で学んだ知識を現実の社会で活用できる能力を養成する。 ・人文学の専門領域の研究を通じて見いだされた知見をもとに思考力・判断力・表現力を高めるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。
<p>④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生同士がディスカッションを行う中で、知識を構成していけるように、4年間を通じて開講される「基礎演習」「演習」では少人数のクラス編成を行い、TA、学修支援員のサポートによって学生同士が共に学ぶことの意味を探究させられるようにする。 ・学科専攻の枠を超えた科目履修によって人文学の多様な専門領域を学ぶ学生が共に学べるように選択科目を設定する。 ・社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するために、「キャリア啓発科目」と「キャリア形成科目」を開設する。

〈教育方法〉

<ul style="list-style-type: none"> ・学生が自らの学修目的にあわせて各科目の性格やその科目の開講時期(担当セメスター)を考慮しながら系統的に履修できるよう科目（講義・演習・講読・実技・実験・実習等）を開設する。 ・全ての科目は、講義概要・到達目標・講義方法・授業評価の方法・授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

〈学修成果の評価〉

<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果の有無やその内容を評価するために、科目の特性に応じて、おおよそ次の4種類の方法のうちのひとつまたは複数に合わせて評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①筆答試験による評価 ②レポート試験による評価 ③実技試験による評価 ④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価 ・卒業論文の評価は、論文評価と口述試問評価によって行う。

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援、留学生支援、障がい学生支援の5つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- ・ 修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、学生の主体的な学修を支援するとともに、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- ・ 留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- ・ 障がいのある学生や留学生など、多様な学生の学修が円滑に進むよう支援する。
- ・ 本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生が、正課・課外を通じて豊かな人間性を育むとともに自省利他の精神に基づいて多様な価値観や異なる文化を尊重し、主体的に活動・成長できるように、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な支援を行う。

「生活支援」は、学生生活を安心・安全に過ごすためのメンタルヘルス、トラブル、ハラスメント等に関する支援・相談や啓発等、学生生活に係る様々な支援を行う。

「経済支援」は、修学支援、家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、学業や課外活動等の奨学金の他、短期的な貸付等の支援を行う。

「課外活動支援」は、多様な学生が主体的に取り組むサークル活動、社会活動等の諸活動を通じて、学生一人ひとりが人間的な成長と調和の取れた社会の担い手になるための環境整備と支援を行う。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、建学の精神にもとづき、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことの出来る人間を育成し、社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むことを目的とし、一人ひとりに寄り添った支援を行う。その上で、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現のために、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学のおよび体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部をはじめ各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を早期から育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力や自分らしい生き方を実現するための力が身につくよう取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to face の面談を重視し、それぞれの学生の状況を踏まえたきめ細やかで丁寧な支援を行う。

留学生支援の方針

本学における留学生支援は、学生が国籍、宗教及び文化の違いなどを乗り越え、多様な価値観を認め、世界平和の実現に寄与する人材となり得ることを目的として、本学学生が海外へ渡航する「派遣留学支援」及び海外からの留学生が本学で学ぶ「受入留学支援」を二本の柱として取り組む。

派遣留学支援は、学生の安全を最優先として進める。その上で、海外における外国語学習の効果に加えて、現地で価値観や文化の異なる多様な存在を知り、学び、受け入れる姿勢を身に付けることを目指す。また、経済的な側面で留学を躊躇せざるを得ない学生を支援する補助制度も充実させ、国際交流を志す学生が誰一人取り残されない体制の構築に取り組む。

受入留学支援においては、自国と異なる環境下においても、受入留学生が安心して生活を送り学修に注力できるよう、多様なニーズに応じ得る奨学金や留学生寮の整備を行うとともに、受入留学生に対する多言語での支援を展開する。加えて本学学生が自主的且つ主体的に受入留学生を支援することで双方が異文化理解を深められる仕組みを整える。

障がい学生支援の方針

本学では、誰一人取り残さないという理念のもと、修学の権利の主体が学生本人にあることを踏まえ、学生の要望に基づいた調整を図り、障がいのある学生の内発的主体性を育み、自立と社会参加につながる支援を行う。また、障がいの有無にかかわらず、学生が共に学びやすいインクルーシブな環境づくりに努める。その際、個々の状態や障がいの特性に応じ、適宜改善する姿勢で取り組んでいく。

これらの支援は、学内関係部署や学外の関係機関との有機的な連携に基づき行っていく。

ガイダンス

学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

履修説明会は、履修に関する詳細なガイダンスで、みなさんが学修の計画を立て、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。



その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンス等も開催されます。

これらの連絡は、以下「大学からの連絡・通知」のとおり行われるので十分注意してください。

大学からの連絡・通知

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きポータルサイトで行います。ポータルサイトを見落としのために後で支障をきたさないよう、日頃からポータルサイトを確認するようにしましょう。また、個人への重要な連絡や通知等は大学が付与するメールアドレスに対しても行うことがあります。大学のメールアドレスも定期的に確認してください。

〈ポータルサイト〉

手段	アクセス方法
Web版	龍谷大学ポータルサイト ruis (https://portal.ryukoku.ac.jp/login) からアクセスしてください。 ポータルサイトの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。 
アプリ版	龍谷大学ポータルサイトアプリサポートWeb (https://ru.portal.ac/support/) からアプリをダウンロードしてください。初回利用時には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。 

休講・補講・教室変更情報

本学開講科目にかかる休講・補講・教室変更情報については、ポータルサイト上で公開しています。

〈公開期間〉

内 容		公開期間
休 講		30日後までの情報を公開
補 講		予定している全ての情報を公開
教室変更	臨時変更	30日後までの情報を公開
	恒常変更	前後30日分の情報を公開

<注意事項・補足>

- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。
- ・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。
- ・本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供するポータルサイトの情報を確認してください。
- ・休講、補講、教室変更情報の公開については、メールでの配信サービスも行っています。Web版ポータルサイトの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。
- ・自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無の確認については、「II 授業等の休講措置に関する取扱基準」（123ページ）にて詳細を確認して下さい。

度牒（写し）の提出

対象者：伝道者推薦入学試験により入学した学生

- 1) 入学後に得度を受けた者は「度牒（写し）」を文学部教務課窓口へ提出してください。
- 2) いまだ得度を受けていない学生は、2年次終了までに必ず得度を受け、「度牒（写し）」を文学部教務課窓口へ提出してください。
- 3) 特に、浄土真宗本願寺派（西本願寺）の得度習礼日程、得度講習会日程等が本学の定期試験期間と一部重なります。（例：8月上旬実施の得度習礼）それらの日程に申し込んだ場合、本学の定期試験を受験できない可能性がありますので、必ず学年暦を確認し、定期試験期間に被る日程への申し込みは避けてください。

第1部 履修の心得

I	履修をはじめるにあたって	14
	1. 長期的な履修計画を立てること	
	2. 系統的に科目を履修すること	
	3. 自主的に学修をすること	
	4. オフィスアワー	
II	シラバス	16
	1. シラバスとは何か	
	2. シラバスに記載されている情報	
	3. シラバスの利用方法	
III	単位制度と単位の認定	17
	1. 単位制度	
	2. 履修登録制度	
	3. 授業科目の履修	
	4. 授業時間	
	5. 卒業要件単位および学士号	
	6. 入学前に修得した単位の認定	
IV	授業科目の開設方法	21
	1. セメスター制	
	2. 授業科目の開講形態	
	3. 週2回授業科目の開講方法	
	4. オンライン授業について	
	5. 授業科目と授業テーマ	
	6. 先修制	
	7. グレードナンバー制	
	8. 科目ナンバリング	
V	履修登録	28
	1. 履修登録手続スケジュール	
	2. 履修登録制限単位数	
	3. 予備・事前登録	
	4. 履修登録要件	
	5. 履修辞退制度	
	6. 配当セメスターの考え方	
VI	成績評価	33
	1. 成績評価の方法	
	2. 成績評価の基準	
	3. GPA制度	
	4. 成績疑義	
	5. 筆答試験の時期	
	6. 受験資格	
	7. 受験の注意事項	
	8. 答案の無効	
	9. 筆答試験における不正行為	
	10. レポート試験における不正行為	
	11. 追試験	
	12. 筆答試験時間	

I 履修をはじめるとき

大学では高校までと異なり、履修や学生生活に関するすべてのことが自分の責任に委ねられています。それだけに、各自が履修制度について十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「教養教育科目」と学部専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんは、これら2つの「授業科目の区分」から、卒業するために必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。

1学年間あるいは1学期間に履修できる単位数には上限が設けられており、また、各学期（セメスター）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が教育方針に基づいて配当されています。なお、年度によって開講される科目が異なりますので、履修計画を立てるときには、同時に次学期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

2. 系統的に科目を履修すること

大学における学業は、学部毎に定められた所定の要件を満たすことで完了しますが、その一環として一定の単位数を修得する必要があります（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたには多くの組み合わせがあります）。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修では、たとえ4年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて、各科目の性格やその科目の配当セメスターを考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において、学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取り組み、専門的な視点に立って研究することが肝要となります。「演習」をはじめる前に、「演習」における自身のテーマの研究にとって土台となる知識や思考力、さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に授業を受けるだけでなく、授業そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、授業以外に自主的な学修が必要です。そのため、シラバス（講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したもの）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、授業を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とディスカッションをしたりすることで理解を深めることも大切です。

4. オフィスアワー

教員と面談したい場合、深草キャンパスは6号館（紫英館）1階の面談ホール受付、大宮キャンパスは西翼1階の講師控室を訪れてください。オフィスアワーの一覧表はポータルサイトでお知らせします。

一覧に名前のない先生については、授業の前後に講師控室や授業後の教室にて質問をしてください。

II シラバス

1. シラバスとは何か

シラバス (Syllabus) とは、各科目の講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したものです。

本学で開講されている全ての科目は、あらかじめWeb上に公開されたそれぞれのシラバスに沿って実施されます。

シラバスには、科目名だけでは分からない、詳細な情報が記載されています。学生の皆さんはシラバスを熟読し学修計画を立て、系統的な履修を行ってください。

2. シラバスに記載されている情報

シラバスには、主に次のような情報が掲載されています。

- ① 科目名とサブタイトル
- ② 講義概要
- ③ 到達目標 (目的・ねらい)
- ④ 講義方法
- ⑤ 授業時間外における予・復習等の指示
- ⑥ 系統的履修
- ⑦ 成績評価の方法
- ⑧ テキスト・参考文献
- ⑨ 履修上の注意・担当者からの一言
- ⑩ オフィスアワー・教員との連絡方法
- ⑪ 講義計画 (回数・担当者・学修内容)

※授業時間外における予・復習の指示、参考文献、履修上の注意・担当者からの一言、オフィスアワー・教員との連絡方法、参考URL、資料、講義計画については、授業期間中に変更されることがあります。最新の情報を参照してください。

3. シラバスの利用方法

シラバスはすべてWeb上で公開されています。ポータルサイトからリンクをたどって参照してください。

III 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修は単位制で行われています。

単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修して単位を修得し、定められた卒業要件単位数を満たすことで卒業が認定される制度です。

履修心得
単位制度と
単位の認定

<単位とは>

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1	30時間	15時間	45時間	15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

<単位の計算方法>

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では、単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では、1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では、セメスター型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、通年型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
セメスター型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位
通年型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき） ＝4単位

○外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
セメスター型 授業の場合	3時間（授業2時間+自主1時間） ×15週=45時間	45時間÷45時間（1単位につき） =1単位
通年型 授業の場合	3時間（授業2時間+自主1時間） ×30週=90時間	90時間÷45時間（1単位につき） =2単位

<単位の認定>

1つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- (2) その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- (3) その科目の試験を受け、その成績評価で合格（60点以上）をすること（レポート、論文等をもって試験とする場合があり、必ずしも教室における筆答試験とは限りません。詳細は、シラバスの成績評価の方法で確認してください）。

2. 履修登録制度

履修登録とは、科目を履修するための手続きです。この手続きをしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるようすべて自己の責任において取り組まなければなりません。

<履修登録の方法>

後に説明するセメスター制により、履修登録は、第1学期（前期）、第2学期（後期）の年2回行われます（ただし、4年次生以上は、第1学期（前期）に第2学期（後期）開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。

第1学期（前期）履修登録は、第1学期（前期）開講科目と通年科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。

第2学期（後期）履修登録は、第2学期（後期）開講科目を登録します。なお、第2学期（後期）登録時に通年科目の履修を放棄して別の第2学期（後期）開講科目を登録することはできません。

※サマーセッションで開講される科目は、上述のとおり、第1学期（前期）に登録することになりますが、成績は第2学期（後期）の成績表に反映されます。

3. 授業科目の履修

履修登録をした科目を履修するという事は、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容には、授業形態に応じて、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修（予・復習）とを含んでいます。

このうち、授業時間内における学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、授業時間外における自主的な学修（予・復習）は、「シラバス」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行う学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっていると言えます。

4. 授業時間

本学における1回の授業時間は、後に説明する授業科目の開設方法に関係なく、いずれの場合でも90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して、各講時の時間帯は次のとおりです。

	1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時	6 講時	7 講時
開始時刻	9 : 15	11 : 00	13 : 30	15 : 15	16 : 55	18 : 35	20 : 10
終了時刻	10 : 45	12 : 30	15 : 00	16 : 45	18 : 25	20 : 05	21 : 40

5. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、教育課程（カリキュラム）にしたがって学修し、学部毎に定められた所定の要件を満たすことが必要です。その一環として、124単位以上を修得しなければなりません。

<卒業の要件>

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

(1) 所定在学年数

本学の教育課程（カリキュラム）を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間は所定在学年数に加えません。また、卒業判定が行われる学期に在学していなければなりません。

(2) 所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定しています（詳細は「第2部 教育課程」の「1 教育課程の編成方法」を参照）。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

<卒業論文>

提出方法・提出時期等については別途、ポータルサイト・掲示でお知らせします。

<卒業の時期>

(1) 卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

(2) 9月卒業の取り扱い

教授会が必要と認めるときは、在学期間が4年以上の者について、第1学期（前期）終了時（9月）に卒業を認定することがあります。

(注) 9月卒業を希望する者は、所定の期間に申し出て、所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください。**（本人の申し出がなければ、9月卒業の対象にはならないので注意してください。127ページを参照。）**

6. 入学前に修得した単位の認定

学則第38条にもとづき、1年次の年度始めまたは2年次の年度始めに願い出た者に限り、文学部の認定基準にしたがって、出身大学で修得した科目を、本学文学部の科目として認定することがあります。受付期間・手続方法等については、深草学舎の文学部掲示板でお知らせします。不明な点は、文学部教務課窓口で相談してください。

IV 授業科目の開設方法

1. セメスター制

文学部の授業は、セメスター制で開設されています。セメスター制とは、半年を1学期とするもので、1学年を、原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分し[※]、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)	第1学期 (前期)	第2学期 (後期)
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

履修心得
授業科目の
開設方法

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目（詳細は「第2部 教育課程」の「1 教育課程の編成方法」を参照）が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目は、それを履修し単位を修得しないと卒業することができない科目です。また、選択必修科目も同じ性格を有する科目です。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

※実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分・日程は、毎年度、学年暦によって決定されます。

2. 授業科目の開講形態

各授業科目は、原則として各セメスターを単位として開設されていますが、実際には科目の性格等により次の2つの開講方式をとっています。

①【セメスター型（前期・後期型）】 [学期] → [週1回] (授業15週間)	講義科目	外国語科目	実技科目
	2単位	1単位	
	4単位	2単位	
②【通年型（通年型）】 [学期] → [学期] → [週1回] (授業30週間)	講義科目	外国語科目	実技科目
	4単位	2単位	

[留意点]

(1) セメスター型として開講される4単位の講義科目および2単位の初修外国語科目は、1週間に2回（例えば月曜日1講時と木曜日1講時）の授業を行い、1つの学期で完結す

るものです。このため、一方の授業に出席するだけではその科目を履修したことにはならないので、注意する必要があります。

- (2) 通年型として開講される科目は、原則として同一の授業担当者が1週間に1回の授業を行い、2つの学期（1年間）で完結するものです。
- (3) 同一科目の授業が第1学期（前期）・第2学期（後期）ともに開講される場合があります。この場合は、特に指定のある場合を除き、いずれの学期で履修しても構いません。
- (注1) それぞれの科目には配当セメスターが設定されています。設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示していますが、諸事情により不開講となる場合や配当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。
- (注2) すでに修得した科目（＝既修得科目）の再履修はできません。
- (4) サマーセッションを利用して開講される科目については、下記の取扱となります。

区 分	取扱学期	期間・留意事項
サマーセッション	第2学期 (後期)科目	<ul style="list-style-type: none"> 開講期間については、ポータルサイト等で確認してください。 第1学期（前期）開講科目の履修登録と同時に登録が必要です。

(注) 履修登録できる科目数は2科目までとなります。

授業日程が他の科目と重複する場合は、1科目しか履修登録できない場合がありますので、各科目の開講日程に注意してください。

サマーセッションの開講期間・開講場所などについては、別途ポータルサイト等にてお知らせします。

3. 週2回授業科目の開講方法

セメスター型授業のうち、週2回開講方法をとる授業は時間割上、原則として一定の規則（組合せ）にしたがって配置されています。

この科目は、週2回の授業を所定の期間（セメスター型であれば半年間）継続して受講し、合格することではじめて定められた単位を修得したことになります。

週2回のうち一方の授業時間に、誤って他の科目を履修登録した場合は、それらに関する登録は無効となりますので注意してください。

週2回開講科目の授業組合せ（原則）

月1 — 木1	火1 — 金1	水1 — 土1
月2 — 木2	火2 — 金2	水2 — 土2
月3 — 木3	火3 — 金3	
月4 — 木4	火4 — 金4	

(注1) 見方：「月1」は「月曜日1講時」を示しています。

(注2) 1日に2講時連続で開講される科目もあります。

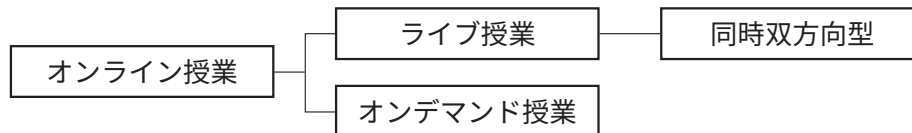
4. オンライン授業について

本学では、対面にて授業を行う科目のほか、一部においてインターネット環境を利用してオンライン上で授業を行う科目があります。

(1) オンライン授業の形態

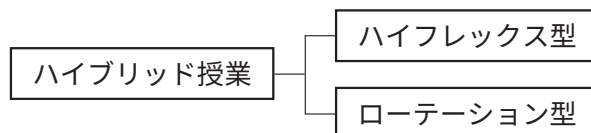
① オンライン授業の実施形態

本学では、次のようにオンライン授業の実施形態を区分しています。



② オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態

オンライン授業と対面授業を組み合わせた形態として、ハイブリッド授業があります。



(2) オンライン授業の定義

① オンライン授業

本学におけるオンライン授業とは、インターネットを介して、文字・音声・静止画・動画等の多様な情報を、当該授業を行う教室等以外の場所にいる学生に対して配信し、設問解答や意見交換などを実施することにより、学修を進めていくもので、標準的な1コマ（1回分）のすべてを上記のような方法を用いて行う授業を指します。

<ライブ授業>

上記オンライン授業の一形態としてライブ授業があります。ライブ授業とは、オンライン授業のうち、同時かつ双方向（教員と学生）で授業を行うものを指します。ライブ授業を詳細に分類すると「同時双方向型」と「同時一方向」に分かれますが、本学においては、双方向性が確保できる「同時双方向型」を指します。

<オンデマンド授業>

上記オンライン授業の一形態としてオンデマンド授業があります。オンデマンド授業とは、オンライン授業のうち、予め収録した授業（動画・音声）や音声付PowerPoint動画等を配信し、あわせて課題指示等を行うものを指します。

② ハイブリッド授業

オンライン授業と対面授業を組み合わせた授業形態としてハイブリッド授業があります。ハイブリッド授業には、2つの形態（ハイフレックス型、ローテーション型）があります。

<ハイフレックス型>

対面授業をライブ配信することにより、オンラインとしても行う授業のことを指します。

（例）対面希望の学生とオンライン希望の学生を2グループに分けて実施する授業。

<ローテーション型>

全開講回数のうち、各回によって対面とオンラインを使い分ける授業のことを指します。

（例）全15回のうち、4回目～11回目をオンラインで実施し、その他は対面で実施する授業。

(3) オンライン授業科目

① オンライン授業科目とは

オンライン授業として実施する科目のうち、オンラインでの授業回数など一定の要件を満たした科目は開講学部等において「オンライン授業科目」として位置づけています。

② オンライン授業科目の履修要件

オンライン授業科目は、60単位を上限に卒業要件単位数として単位認定されます。60単位を超えて修得したオンライン授業科目は随意科目（卒業要件単位数には含まない）として取り扱います。

<龍谷大学学則> (抜粋)

第25条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第34条の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、前項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

※感染症や災害の発生等の非常時において、対面での授業実施が困難（一部のみの対面での授業実施を含む）と大学が判断した場合のオンライン授業科目は、卒業要件単位となる単位数の上限（60単位）に含まないことがあります。

(4) オンライン授業を受講するにあたって

オンライン授業は、以下の情報環境を準備した上で受講してください。

① 自身所有のパソコン等を利用する

本学では、ノートパソコンの所有や自宅等でのWi-Fi環境の整備を推奨しています。

キャンパス内は学内無線LAN（Wi-Fi）が整備されています。ノートパソコン等を持参している学生は、キャンパス内の多くの場所でインターネット接続が可能です。

<ノートパソコンの推奨環境>

- ・ノートパソコン（カメラ・マイク機能付き）

※OSはWindows、Macのどちらでも可。

- ・推奨Webブラウザ：Google Chrome

※本学では、Microsoft社との包括ライセンス契約により、在学中は無料でOfficeソフト（Word、Excel、PowerPointなど）が利用可能です。Office付属のノートパソコンやOfficeのライセンスを用意いただく必要はありません。

② キャンパス内の施設・機器を利用する

キャンパス内の施設や機器を利用し、オンライン授業を受講することができます。

- スチューデントコモンズでノートパソコンの貸し出しを受ける。【学内利用に限る】

深草キャンパス：和顔館1階スチューデントコモンズ(ラーニングサポートデスク)

大宮キャンパス：東翼2階スチューデントコモンズ(PC貸出カウンター)

瀬田キャンパス：智光館地下1階情報メディアセンター

- セルフラーニング室のパソコンを利用する。

深草キャンパス：5号館3階

大宮キャンパス：清風館1階

瀬田キャンパス：3号館地下1階

(5) オンライン授業科目の確認方法

オンライン授業科目はポータルサイト（履修登録画面）及び龍谷大学履修要項WEBサイトに確認することができます。

- ・本学履修要項WEBサイト

(URL) <https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/rishu.html>



5. 授業科目と授業テーマ

「授業科目」は単位を認定する区分を示すものです。この授業科目名のみではどのような内容の授業であるか判断ができないことから、原則として、「授業テーマ」が示されています。

同じ授業科目名で複数クラスが開講されている場合は、特に指定の無い限りどの授業テーマのクラスを履修しても構いません。ただし、単位の認定を受けることができるのは1つの科目に対して1回だけです（授業テーマが異なっていたとしても、同じ授業科目を複数クラス履修することはできません）。

また、「授業科目」を選ぶにあたっては、「シラバス」で講義の進め方、系統的履修の方法等を確認してください。

6. 先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、履修の要件として指定された科目及び単位数の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修制が設定されている科目とその履修の要件として指定された科目を同一学期に履修することはできません。

先修制が設定されている科目は次のとおりです。

<教養教育科目>

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
ドイツ語Ⅱ, IIIA~IIID	「ドイツ語Ⅰ」(2単位)
フランス語Ⅱ, IIIA~IIID	「フランス語Ⅰ」(2単位)
中国語Ⅱ, IIIA~IIID	「中国語Ⅰ」(2単位)
スペイン語Ⅱ, IIIA~IIID	「スペイン語Ⅰ」(2単位)
コリア語Ⅱ, IIIA~IIID	「コリア語Ⅰ」(2単位)
ドイツ語セミナーⅠA~ⅠD	「ドイツ語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
フランス語セミナーⅠA~ⅠD	「フランス語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
中国語セミナーⅠA~ⅠD	「中国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
スペイン語セミナーⅠA~ⅠD	「スペイン語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
コリア語セミナーⅠA~ⅠD	「コリア語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
ドイツ語セミナーⅡA~ⅡD	「ドイツ語IIIA~IIID」(計4単位) または 「ドイツ語セミナーⅠA~ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)

フランス語セミナーⅡA～ⅡD	「フランス語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「フランス語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
中国語セミナーⅡA～ⅡD	「中国語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「中国語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
スペイン語セミナーⅡA～ⅡD	「スペイン語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「スペイン語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
韓国語セミナーⅡA～ⅡD	「韓国語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「韓国語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
ドイツ語コミュニケーションⅡ	「ドイツ語Ⅰ」(2単位) または 「ドイツ語コミュニケーションⅠ」(2単位)
フランス語コミュニケーションⅡ	「フランス語Ⅰ」(2単位) または 「フランス語コミュニケーションⅠ」(2単位)
中国語コミュニケーションⅡ	「中国語Ⅰ」(2単位) または 「中国語コミュニケーションⅠ」(2単位)
スペイン語コミュニケーションⅡ	「スペイン語Ⅰ」(2単位) または 「スペイン語コミュニケーションⅠ」(2単位)
韓国語コミュニケーションⅡ	「韓国語Ⅰ」(2単位) または 「韓国語コミュニケーションⅠ」(2単位)
英語セミナー B1, B2, C1, C2, E1, E2, F1, F2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B)」(計4単位)
英語セミナー D1, D2, H1, H2, J1, J2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B), 3(A), 3(B), 4(A), 4(B)」(各1単位) より4科目(計4単位)
海外中国語研修講座	「中国語Ⅰ, Ⅱ」(計4単位)
ポルトガル語Ⅱ, ⅢA, ⅢB	「ポルトガル語Ⅰ」(2単位)
ロシア語Ⅱ, ⅢA, ⅢB	「ロシア語Ⅰ」(2単位)
ペルシア語Ⅱ	「ペルシア語Ⅰ」(2単位)

<学部専攻科目>

授業科目	履修の要件となる授業科目および単位数
サンスクリット語仏典入門A 2	サンスクリット語仏典入門A 1
サンスクリット語仏典入門B 2	サンスクリット語仏典入門B 1
チベット語仏典入門A 2	チベット語仏典入門A 1
チベット語仏典入門B 2	チベット語仏典入門B 1
パーリ語仏典入門B	パーリ語仏典入門A
教育心理学	人間科学概論
認知心理学	人間科学概論
学習心理学	人間科学概論
日本史学演習Ⅰ【歴史学科日本史学専攻】	日本史学基礎演習ⅠA, ⅠB, ⅡA, ⅡB の合計8単位のうち、4単位以上修得
日本史学演習Ⅱ【歴史学科日本史学専攻】 卒業論文【歴史学科日本史学専攻】	日本史学基礎演習ⅠA, ⅠB, ⅡA, ⅡB の合計8単位
日本語教育実習A, B	日本語教育概論A・日本語教育概論Bのうち いずれか2単位

7. グレイドナンバー制

文学部で開設される授業科目には、グレイドナンバーが付されています。これは、科目のレベルを簡明に表示したものです。学修計画の設計にあたって、これを参考にしてください。

	基 礎	—————→				応 用
グレイド	100	200	300	400	500	

8. 科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。詳細は、ポータルサイトを確認してください。

V 履修登録

1. 履修登録手続スケジュール

履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項WEBサイト (<https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>) で確認してください。



2. 履修登録制限単位数

大学での学修においては、単位制度の趣旨、教育効果（自主的な学修時間の確保）および健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、文学部では次のとおり履修登録制限を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。よく考えて卒業までの履修計画を立てる必要があります。

年次	1～3年次生		4年次生
学期	第1学期	第2学期	通年
履修制限単位数	24単位	24単位	48単位

(注1) 編転入学した者のカリキュラムは、編入学または転入学した年度ではなく、入学を認められた学年の在學生と同様のカリキュラムを適用します。再入学した者については、原則離籍前と同年度のカリキュラムを、復学した者については、休学前と同年度のカリキュラムをそれぞれ適用します。

(注2) 通年科目の単位数は、第1学期（前期）と第2学期（後期）で2分割して計算します。

(注3) この履修制限には、次の科目は含まれないことから、制限単位を超えて履修登録することができます。ただし、単位制度の趣旨および教育効果（自主的な学修時間の確保）や健康管理の点からすれば、制限単位を大幅に超える登録は好ましくありません。

- ① 随意科目
(時間割番号「Z」が含まれる科目)
- ② サマーセッションに開講される科目
- ③ 「海外英語研修」(教養科目)
- ④ 「海外中国語研修講座」(教養科目)
- ⑤ 大学コンソーシアム京都科目 (単位互換科目、産学連携教育プログラム)
- ⑥ 放送大学科目
- ⑦ 文学部専攻科目の内、次の科目

国際文化交流研修、社会活動ボランティア、海外研修、協定型インターンシップ

(注4) 累積GPAが一定の基準に達した学生については、履修登録制限単位数を緩和し、上限を超えて履修できる制度を導入しています。以下の要件に該当する学生は、各学期の履修指導期間に、文学部教務課へ申し出てください

- ① 申請可能となる基準GPA 前学期までの累積GPA3.5以上
- ② 制限緩和となる単位数 各学期2単位を上限とし、年間4単位を上限

- ③ 申請可能となる対象科目 履修登録可能科目のうち、予備登録科目（教養教育科目）・事前登録科目および演習科目を除く。
- ④ 申請期間 每学期初めの履修指導期間
（※詳しくはポータル等でご確認ください）
- ⑤ 申請方法 詳細は、ポータル等でお知らせします

3. 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先だって行われるものです。予備・事前登録手続きの必要な科目は、この手続きをしなければ受講できません。

履修登録 (広義)	1) 予備登録……………	受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。 教養教育科目や言語科目（選択外国語科目）においてこの手続きが必要です。
	2) 事前登録……………	受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより決めます。 必修外国語の再履修や一部の専攻科目等においてこの手続きが必要です。
	3) 履修登録（本登録）… （狭義）	履修する科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む）が確定します。

履修心得

履修登録

4. 履修登録要件

(1) 履修登録要件

有効な履修登録を行うためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- ② 所属年次に配当されている授業科目以外に下級年次配当の授業科目を登録することができます。ただし、諸事情により不開講となる場合や開講セメスターが変更される場合がありますので注意してください。
- ③ 履修登録は授業時間割表に従って登録してください。（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください。）
- ④ 重複登録（同一講時に2科目以上の登録をすること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑤ 二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑥ 各学期（各セメスター）および各年次において、定められている履修登録制限単位を超えて登録することはできません。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、ポータルサイトに掲示します。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、文学部教務課窓口にご相談してください。

- ③ Web履修登録画面から、定められた期間内に必ず登録してください。
履修登録スケジュールは毎年度変更されますので、
履修要項WEBサイト (<https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>)
で確認してください。



- ④ 受講登録確認表の出力による登録確認
登録した授業科目は、登録完了後、各自がその場で「受講登録確認表」を出力し、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、文学部教務課窓口に出してください。また、出力した受講登録確認表は、必ず保管してください。

- ⑤ 深草・大宮学舎間の連続受講について
原則として、深草学舎と大宮学舎間の連続受講は認められません。ただし、次の場合に限り、連続受講が認められます。

- (a) 2講時と3講時の学舎間連続受講（昼休みを含み移動時間が確保されているため）
(b) 演習科目・卒業要件である必修科目・資格取得に関わる必修科目の受講（選択必修科目は除きます）
(c) (b) にかかわらず残りの卒業要件単位からみて選択必修が事実上必修となる科目の受講
(d) その他、文学部教授会において必要であると認められた科目の受講

連続受講となる科目のうち、1つの時間帯の科目（例：3講時・深草、4講時・大宮の場合における、4講時・大宮開講科目）の履修機会が次年度にある場合は、上記の条件であっても大宮・深草学舎間連続受講を許可しません。卒年次生以外は、次年度に履修機会があるので、原則として次年度登録をすることとします。

5. 履修辞退制度 ※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、「授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合」や「受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合」など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正」や「取消」するものであり、以前の履歴は一切残りませんが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履歴が記録として残ります。

受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、『履修要項』および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・課程・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	選択必修科目については、学部（学科・専攻・コース）によって取扱が異なる場合があります。
事前登録が必要となる科目（注）	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習、介護等体験に関する科目	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
サマーセッション科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。

（注）教養教育科目の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は各学期において1週間程度設けられます。履修説明会・ポータルサイト等で確認してください。

(5) 履修辞退の申出方法

履修辞退の申出期間にポータルサイトの「Web履修辞退申請」から申請してください。

受付期間中にポータルサイトを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に文学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目について、第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目の単位数は履修登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に Semester 型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）	前期科目	カウントしません
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期）	後期科目	カウントしません
	通年科目	カウントしません

- ② 履修辞退申し出により授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生および社会人）が、通年科目の辞退を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の授業料は徴収しません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の履修料は理由の如何にかかわらず返還しません。

6. 配当セメスターの考え方

それぞれの科目には配当セメスターが設定されており、設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示しています。

- (1) 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- (2) 配当セメスターにかかわらず、開講期（開講セメスター）は年度により変更することがあります。
- (3) 一部の科目については、配当セメスター以外での履修を行うことができないなどの特性があります。詳細は、文学部教務課窓口にて確認してください。
- (4) 半期休学等の理由により、科目配当に極端な不利益があると判断されるときは、配当セメスターより前の履修を認めることがあります。ただし、履修登録にあたっては予め文学部教務課窓口で相談してください。

VI 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価には、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（＝既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修して成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S (90～100点)	A (80～89点)	B (70～79点)	C (60～69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月中旬、第2学期（後期）分を3月下旬にポータルサイトよりダウンロードできます。日程の詳細は、別途ポータルサイト等でお知らせします。

3. GPA制度

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことであり、従来の修得単位数による学修到達度判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考えられたものです。

GPAは、各教科の評価点（100点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

評点	グレイドポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\Sigma (\text{登録科目のグレイドポイント} \times \text{単位数})}{\Sigma (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「英語総合1（A）」（1単位）80点、「心の科学A」（2単位）40点、「生物科学のすすめ」（4単位）76点を登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = \frac{(2 \times 4) + (1 \times 3) + (2 \times 0) + (4 \times 2)}{2 + 1 + 2 + 4} = \frac{19}{9} = 2.11$$

※随意科目、履修辞退した科目については、ここでいう登録科目には含みません。

※成績を評価点（100点満点）で評価しない科目は算入しません。

4. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、文学部教務課窓口へ提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間および申出方法については、別途ポータルサイト等で確認してください。

5. 筆答試験の時期

定期試験	個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験
追試験	定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験（追試験の項を参照のこと）

6. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- (1) その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- (2) 定められた学費を納入していること。
- (3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- (4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

7. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- (1) 指定された試験場で受験すること。
- (2) 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- (3) 学生証を携帯すること。
- (4) 学生証は写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一、学生証を忘れた場合には、文学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。
- (5) 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- (6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所に置くこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない]
[持ち込み条件が「全て可」であっても、携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等情報端末機器の使用は一切認めない]
- (7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- (8) 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

8. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合
- (2) 指定された場所に提出しない場合
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合
- (4) 受験態度の不良な場合

9. 筆記試験における不正行為

- (1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- (2) 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合

- ② 監督者の指示に従わない場合
- ③ 身代わり受験を行ったとき、または行わせた場合
- ④ カンニングペーパー等を所持していた場合
- ⑤ 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等情報端末機器をかばん等にしまっていない場合
- ⑥ 許可された以外のものを参照した場合
- ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合
- ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合
- ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合
- ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合

10. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等からコピーしたような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定を行わない場合があります。

11. 追試験

（1）追試験の受験資格

追試験は次の各号のいずれかの理由により定期試験を欠席し、所属学部が認めると受験することができます。

- ① 病気、怪我又は試験時における体調不良等
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀への参列
- ③ 公認サークルの公式戦への選手としての参加
- ④ 交通機関の遅延等
- ⑤ 交通事故、災害等
- ⑥ 就職活動（説明会、筆記試験、面接等）
- ⑦ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）の受験
- ⑧ 単位互換科目の試験受験
- ⑨ キャリア実習・実習指導、大学コンソーシアム京都産学連携教育プログラム又は博物館実習への参加
- ⑩ 裁判員（候補者）への選任
- ⑪ 短期大学部における実習等への参加により本学学部の定期試験を受験できなかった場合
- ⑫ その他所属学部が特に必要と認める理由

追試験受験希望者は、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書（WEB発行の証明書可）または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に文学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

なお、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に文学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

(2) 追試験の受験料は、1科目1,000円です。

(3) 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

詳細については、定期試験前にポータルサイトにて確認してください。

12. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験の14日前にポータルサイトにより発表します。試験時間は、次のとおりです。

講時	開始時刻	終了時刻
1講時	9:15	10:15
2-A講時	10:45	11:45
2-B講時	12:15	13:15
3-A講時	13:45	14:45
3-B講時	15:15	16:15
4講時	16:45	17:45
5講時	18:15	19:15
6講時	19:30	20:30
7講時	20:45	21:45

(注1) 教養教育科目のうち、学部提供科目については、当該学部が定める試験時間となります

(注2) 科目の特性によって、試験時間を変更することがあります。

第2部 教育課程

I	教育課程の編成方法	40
1.	授業科目の区分	
2.	必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目	
3.	クラスの編成	
4.	カリキュラム概念図	
II	教養教育科目の教育目的および履修方法	42
1.	教養教育とは	
(1)	教養教育の理念・目的	
(2)	教養教育科目とは	
(3)	カリキュラムマップ	
2.	「仏教の思想」科目	
(1)	目的と意義	
(2)	履修方法	
3.	言語科目	
(1)	目的と意義	
(2)	必修外国語科目の履修	
(3)	選択外国語科目の履修	
4.	教養科目	
(1)	単位認定の方法	
(2)	開講方式および履修方法	
5.	教養科目、選択外国語科目の予備登録	
(1)	予備登録の方法	
(2)	予備登録できる上限科目数	
(3)	予備登録結果発表	
(4)	予備登録にあたっての注意事項	
(5)	予備登録が不要な科目	
6.	留学生の必修外国語科目（日本語科目等）	
7.	教養教育科目開設科目	
III	文学部専攻科目の教育目的および履修方法	61
1.	カリキュラムマップ・必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧	61
	・真宗学科 ・仏教学科 ・哲学科哲学専攻 ・哲学科教育学専攻	
	・歴史学科日本史学専攻 ・歴史学科東洋史学専攻 ・歴史学科仏教史学専攻	
	・歴史学科文化遺産学専攻 ・日本語日本文学科 ・英語英米文学科	
2.	選択専攻科目 開設科目一覧	102
3.	随意科目 開設科目一覧	106
IV	その他の教育課程・教育プログラム	107
1.	データサイエンス・AIリテラシープログラム	107
2.	留学／国際交流プログラム・単位互換制度・各種実習プログラム	108
	・留学／国際交流プログラム ・大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	
	・「放送大学科目」履修制度 ・RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム	
	・大学コンソーシアム京都「産学連携教育プログラム」	
3.	留学の単位認定について	111
1)	RIP (Ryukoku Intercultural Program) 留学	
2)	国際文化交流研修	
3)	交換留学・私費留学における単位認定	
4)	海外研修	

I 教育課程の編成方法

1. 授業科目の区分

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、4年間（8セメスター）にわたっており、その内容は次のとおり構成されています。これらの分類のことを「授業科目の区分」といいます。

- ・教養教育科目（「仏教の思想」科目・言語科目・教養科目）
- ・専攻科目

2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに指定されています。

必修科目	卒業要件を満たすために必ず履修し単位を修得しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。
選択必修科目	指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して単位を修得しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。
選択科目	どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件上、一定の単位数を修得することが義務づけられており、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。
随意科目	主として各種の資格取得にかかわる科目であって、卒業要件とは無関係です。そのため、随意科目は教養教育科目、学部専攻科目の区分の外に置かれます。

3. クラスの編成

(1) クラスとは

クラスとは教育上の効果を考慮して、受講者を適切な規模に分割したものです。

(2) クラスの種類

クラスには次の種類があります。

- ① 必修外国語クラス
- ② 学部専攻科目クラス（基礎演習等）

これらはそれぞれに定員が異なるためクラスの構成員は一致しません。

(3) アドバイザークラス

アドバイザークラスとは1年次、2年次においてみなさんの大学における学修生活の相談相手となる担任がおかれている学部専攻科目クラス（基礎演習）のことです。

ポータルサイトや時間割表での伝達や指示の際に使用されるクラス名はすべてこのアドバイザークラスのことを指します。

4. カリキュラム概念図

〈文学部全体の概念図〉（網掛けは教育学専攻の学生の履修を例にしたもの）

卒業要件124単位					
必修専攻科目	選択専攻科目	フリーゾーン 20単位	教養教育科目		
44単位 (哲学科哲学専攻は48単位) (歴史学科仏教史学専攻は48単位) (歴史学科文化遺産学専攻は52単位)	24単位以上 (哲学科哲学専攻は20単位以上) (歴史学科仏教史学専攻は20単位以上) (歴史学科文化遺産学専攻は16単位以上)		教養科目 20単位以上	言語科目 12単位以上	「仏教の思想」科目 4単位以上
真宗学科開設科目 仏教学科開設科目 哲学科哲学専攻開設科目 哲学科教育学専攻開設科目 歴史学科日本史学専攻開設科目 歴史学科東洋史学専攻開設科目 歴史学科仏教史学専攻開設科目 歴史学科文化遺産学専攻開設科目 日本語日本文学科開設科目 英語英米文学科開設科目	真宗学関係科目 仏教学関係科目 哲学関係科目 教育学関係科目 日本史学関係科目 東洋史学関係科目 仏教史学関係科目 文化遺産学関係科目 日本語日本文学関係科目 英語英米文学関係科目		人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目・スポーツ科学系科目 人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目で設定された、基幹科目から1科目(2単位)以上を修得し、合計20単位以上修得。	必修外国語科目 (英語・初修外国語) 選択外国語科目	必修科目(4単位) 仏教の思想A 仏教の思想B 選択科目 「歎異抄の思想A・B」

説明

1. 必修専攻科目は、所属する学科・専攻の開設科目の中から、履修規定にしたがって、44単位（哲学科哲学専攻・歴史学科仏教史学専攻は48単位／歴史学科文化遺産学専攻は52単位）を修得してください。
2. 選択専攻科目は、所属する学科・専攻にかかわらず、文学部7学科6専攻の全関係科目の中から24単位（哲学科哲学専攻・歴史学科仏教史学専攻は20単位以上／歴史学科文化遺産学専攻は16単位以上）を修得してください。
3. 選択外国語科目の単位を修得した場合は、教養科目の単位として扱われます。
4. フリーゾーンは、選択専攻科目及び教養科目、選択外国語科目から自由に選択して20単位を修得してください。

〈学科・専攻別の詳細図〉

真宗学科 教理史コース 教学史コース 教義学コース 伝道学コース	仏教学科 アジアの仏教と文化コース 日本の仏教と文化コース	哲学科 哲学専攻	哲学科 教育学専攻	歴史学科 日本史学専攻	歴史学科 東洋史学専攻	歴史学科 仏教史学専攻	歴史学科 文化遺産学専攻	日本語 日本文学科 古典文学コース 近代文学コース 情報出版学コース 日本語学コース	英語 英米文学科 英文学コース 米文学コース 英語学コース 英米文化コース
必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 48単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 48単位	必修専攻科目 52単位	必修専攻科目 44単位	必修専攻科目 44単位

選択専攻科目24単位以上(哲学科哲学専攻・歴史学科仏教史学専攻は20単位以上、歴史学科文化遺産学専攻は16単位以上)

- 選択専攻科目として設けられた科目。
- 「44単位(哲学科哲学専攻・歴史学科仏教史学専攻は48単位、歴史学科文化遺産学専攻は52単位)を超えて履修する必修専攻科目。
- 他学科・専攻の必修専攻科目(「基礎演習」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業論文」「1年次または2年次のみ講読」、英語英米文学科開設科目の「English Listening A・B」「English Academic Writing IA・IB」を除く)。

フリーゾーン (20単位)

選択専攻科目と教養教育科目(教養科目・言語科目・「仏教の思想」科目)から選択してください。

【教養教育科目】

教養科目：人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目で設定された基幹科目から1科目(2単位)以上を修得し、合計20単位以上修得。(人文科学系科目・社会科学系科目・自然科学系科目・スポーツ科学系科目)

言語科目：必修外国語科目(英語・初修外国語)(12単位) / 選択外国語科目

「仏教の思想」科目(必修：4単位)：仏教の思想A(2単位) 仏教の思想B(2単位) / 選択科目「歎異抄の思想A・B」

諸課程

- 教職課程
- 学校図書館司書教諭課程
- 図書館司書課程
- 本願寺派教師資格課程
- 博物館学芸員課程
- 社会福祉主事課程
- 本願寺派学階課程
- 特別研修講座

真宗学科 合計 124単位	仏教学科 合計 124単位	哲学科 哲学専攻 合計 124単位	哲学科 教育学専攻 合計 124単位	歴史学科 日本史学専攻 合計 124単位	歴史学科 東洋史学専攻 合計 124単位	歴史学科 仏教史学専攻 合計 124単位	歴史学科 文化遺産学専攻 合計 124単位	日本語 日本文学科 合計 124単位	英語 英米文学科 合計 124単位
---------------------	---------------------	----------------------------	-----------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------	----------------------------

II 教養教育科目の教育目的および履修方法

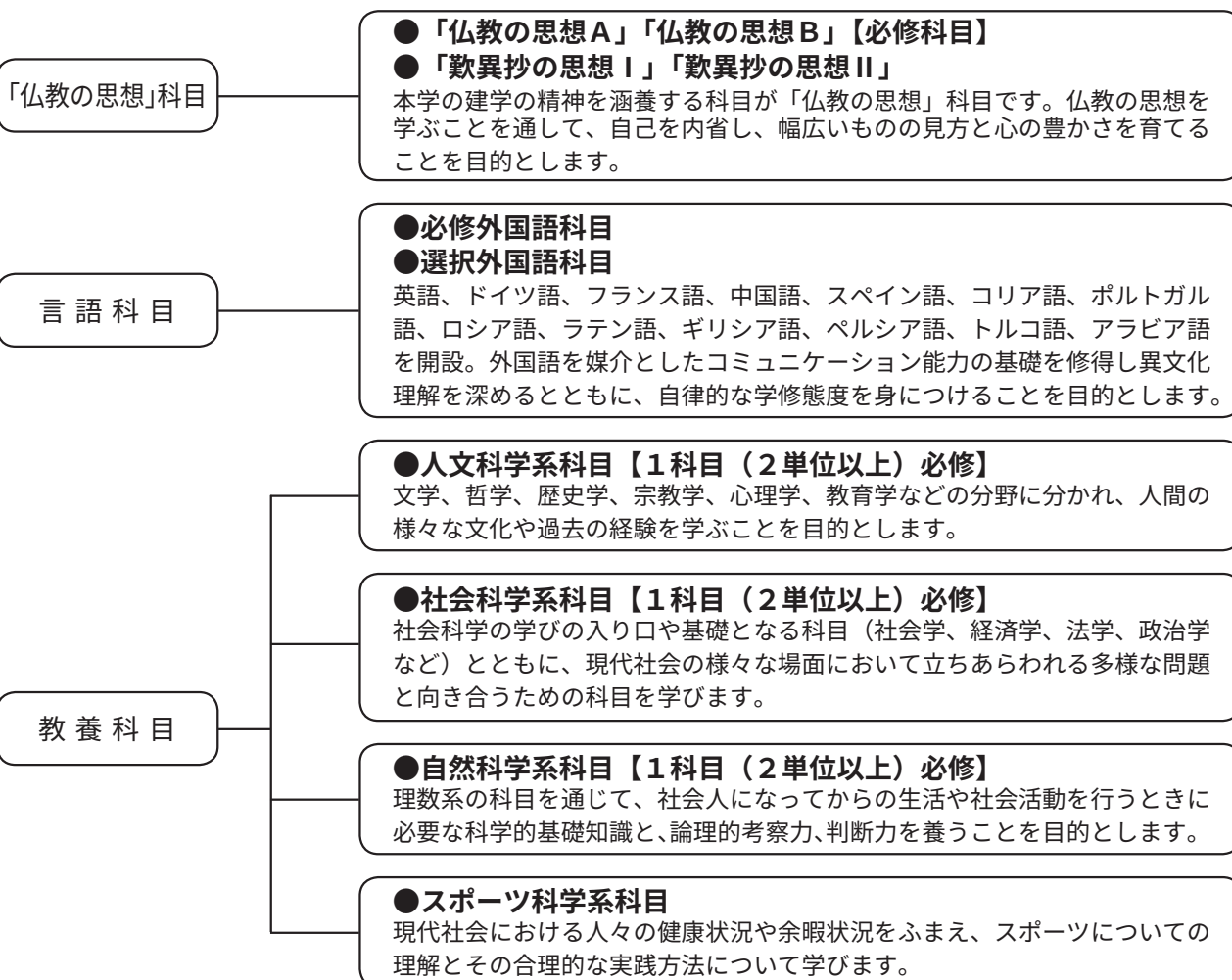
1. 教養教育とは

(1) 教養教育の理念・目的

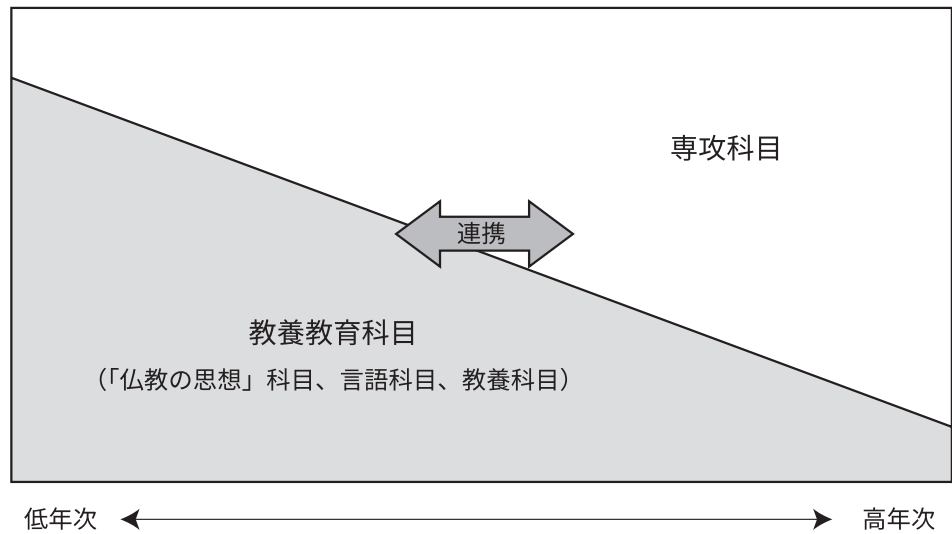
龍谷大学の教養教育は、人間の根源的な問いからその内面を見つめる思考の幅を広げ、人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成を目指して開講されています。このため、建学の精神に基づく高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成、つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力や判断力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する力と、国際的なコミュニケーション能力をもった「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としています。

(2) 教養教育科目とは

本学の教養教育は、「仏教の思想」科目、言語科目、教養科目の3つの科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。



(3) カリキュラムマップ



		配当セメスター							
		1	2	3	4	5	6	7	8
「仏教の思想」科目	仏教の思想等	大学の建学の精神を涵養する							
言語科目	英語科目	外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得し、							
	初修外国語科目	異文化理解を深めるとともに、自律的な学修態度を身につける							
教養科目	人文科学系科目	人間の様々な文化や過去の経験を学ぶ							
	社会科学系科目	現代社会の様々な場面において立ちあらわれる多様な問題と向き合う							
	自然科学系科目	社会人になってからの生活や社会活動を行うときに必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養う							
	スポーツ科学系科目	スポーツについての理解とその合理的な実践方法について学ぶ							

教育課程
教養教育科目

2. 「仏教の思想」科目

「仏教の思想」科目では、1年次の必修科目「仏教の思想A」「仏教の思想B」と、2年次以降の選択科目「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」が開設されています。ここでは「仏教の思想」を中心に説明します。

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶを通して、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に

開講されています。また、入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、次のような教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

(2) 履修方法

① 必修科目

「仏教の思想A」「仏教の思想B」は必修科目です。配当されたセメスターにおいて必ず履修してください。

② 選択科目

「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」は選択科目で、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

③ クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、「仏教の思想A」「仏教の思想B」は同一の授業担当者になります。

学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。

なお、9月入学生については、所属学部教務課の指示にしたがって履修してください。

④ 「仏教の思想A」「仏教の思想B」の再履修

配当されたセメスターで不合格となった場合は、2年次以降に再度履修してください。なお、この場合は、上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。各自、履修登録を行ってください。

年次	セメスター	科目名
2年次～	3	「仏教の思想A」（正規クラスを再履修として履修）
	4	「仏教の思想B」（正規クラスを再履修として履修）
3年次 (注)	5	「仏教の思想A」（正規クラスを再履修として履修） 「仏教の思想B」（再履修クラス）
	6	「仏教の思想A」（再履修クラス） 「仏教の思想B」（正規クラスを再履修として履修）

(注) 3年次以上は、同一セメスターで、A・Bを同時履修することが可能です。

3. 言語科目

言語科目には、必修外国語科目と選択外国語科目があります。必修外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語が、選択外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語・ポルトガル語・ラテン語・ギリシア語・ペルシア語・トルコ語・アラビア語が開設されています。必修外国語科目12単位は必ず修得してください。

(1) 目的と意義

外国語教育では、母語とは異なる言語に接することで、母語に基づいた思考様式とは異なった思考様式に対する認識・理解を深めることができます。また、これにより、外国の文化、芸術、社会におけるさまざまな伝統や価値観をより深く理解する能力も養われます。さらにそれは、日本語を客観的にながめ、自らの日本語能力を見直すよい機会ともなるでしょう。このような意味で、外国語教育は大学生活に必須の学問的基礎訓練の一環となっています。こうした目標を達成するには、地道な努力の継続が欠かせないこと、また、授業時間外における自主的な学修も必要であることを心に留めておいてください。

[英語]

●必修外国語科目・英語（英語総合）の到達目標

標準的な語彙を用いた文字または音声による英語の内容を的確に捉えられるようになります。また、基本的な文法能力や談話能力を身につけたうえで、さらに発展的な高次の学習環境を自発的に創造できるような自律的な学習態度を身につけます。

●選択外国語科目・英語（英語セミナーなど）の到達目標

基礎的な英語運用能力のさらなるレベルアップをはかるとともに、専門分野での学習、海外留学、資格試験対策など、個々の学生のニーズに合わせた知的情報の受信・発信能力のさらなる向上をめざします。

[初修外国語]

本学では、英語以外の外国語で、歴史的・社会的・文化的に見て重要な言語の中から、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語の5言語を「初修外国語」として必修科目に組み入れています。

英語以外の外国語を学ぶことによって、その運用能力を身につけるとともに、言語一般の普遍的構造や機能に対する理解を深め、世界を複眼的に考察する視点を養います。

(2) 必修外国語科目の履修

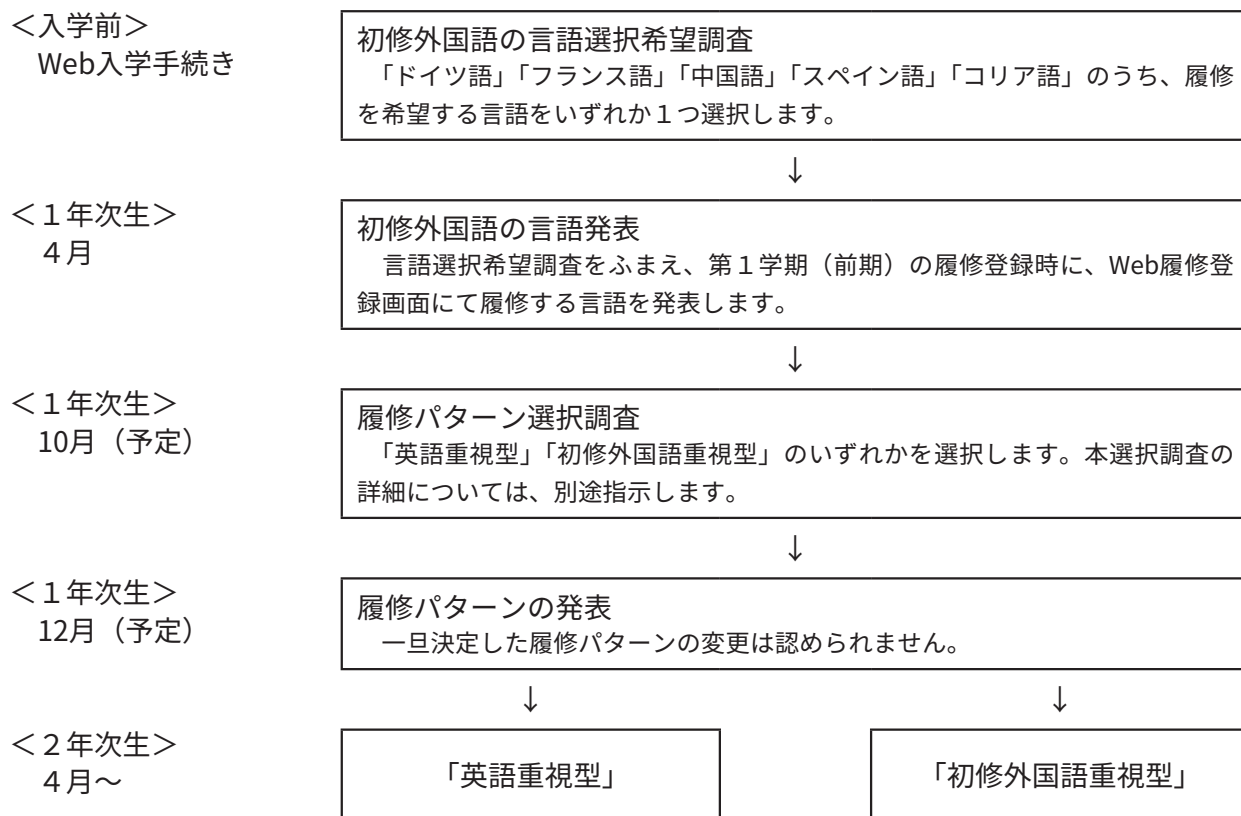
「読む・書く・聴く・話す」といった技能のレベルアップを図るとともに、国際社会において確固とした判断・主張・行動ができるための素地の育成をめざします。

計12単位を必修とし、1年次には英語と初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語のうち1つを選択）を学び、2年次には英語（英語重視型の場合）もしくは初修外国語（初修外国語重視型の場合）のいずれかを学びます。

① 開設科目・配当セメスター（履修パターン別）

1年次		履修パターン	2年次	
第1セメスター 〈4単位〉	第2セメスター 〈4単位〉		第3セメスター 〈2単位〉	第4セメスター 〈2単位〉
<英語 4単位> 英語総合1(A) (週1回：1単位) 英語総合2(A) (週1回：1単位) 英語総合1(B) (週1回：1単位) 英語総合2(B) (週1回：1単位)		英語重視型	<英語 4単位> 英語総合3(A) (週1回：1単位) 英語総合4(A) (週1回：1単位) 英語総合3(B) (週1回：1単位) 英語総合4(B) (週1回：1単位)	
<初修外国語 4単位> I (週2回：2単位) II (週2回：2単位)		初修外国語重視型	<初修外国語 4単位> IIIA (週1回：1単位) IIIB (週1回：1単位) IIIC (週1回：1単位) IIID (週1回：1単位)	

② 初修外国語の言語及び履修パターンの選択スケジュール



③ 習熟度別クラス編成

英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。

1年次クラスは入学時に実施する英語クラス編成テスト（プレイメントテスト）、2年次クラスは1年次の12月頃に実施する英語クラス編成テスト（英語確認テスト）の得点結果によって編成します。

④ 先修制

必修外国語科目のうち以下の科目には先修制が定められています。

授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位数
ドイツ語Ⅱ，ⅢⅠA～ⅢⅠD	ドイツ語Ⅰ（2単位）
フランス語Ⅱ，ⅢⅠA～ⅢⅠD	フランス語Ⅰ（2単位）
中国語Ⅱ，ⅢⅠA～ⅢⅠD	中国語Ⅰ（2単位）
スペイン語Ⅱ，ⅢⅠA～ⅢⅠD	スペイン語Ⅰ（2単位）
コリア語Ⅱ，ⅢⅠA～ⅢⅠD	コリア語Ⅰ（2単位）

⑤ 再履修

必修外国語科目が不合格になった場合は、定められた方法により、再履修しなければなりません。

再履修するには、受講予定者自身が履修登録（本登録）の前に「事前登録」をする必要があります。希望の曜講時を選択し登録してください。

※受講者数が均等になるよう調整するため、担当者やクラスを選択できない場合があります。

※履修方法等については、科目ごとに異なりますので注意してください。

○英語の再履修について

英語総合の再履修	再履修用科目「英語総合（再）」を、必要単位数（不合格となった科目数）履修してください。評価の最高点は79点となります。 <u>なお、すでに単位を修得した「英語総合（再）」と同じ開講期・曜講時に開講する「英語総合（再）」は、再度履修することはできません。</u>
----------	---

例：後期月曜日5講時に開講する「英語総合（再）」の単位を修得した場合、次年度以降、後期月曜日5講時に開講する「英語総合（再）」は履修できません。ただし、前期月曜日5講時やその他の曜日に開講する「英語総合（再）」は履修できます。

○初修外国語の再履修について

初修外国語Ⅰ・Ⅱの再履修	不合格となった科目の再履修クラスあるいは正規クラスを選択して履修してください。 ※クラス名は、別途配布の時間割表やWeb履修登録画面にて確認のこと。
初修外国語ⅢA～ⅢDの再履修	不合格となった科目あるいは再履修用科目（○○○語Ⅲ（再））を履修してください。 例）ドイツ語ⅢCを不合格となった場合、ドイツ語ⅢCあるいはドイツ語Ⅲ（再）を履修。

- ⑥ 選択した履修パターンにある科目以外の必修外国語科目を履修したい場合（2年次生以降）各自が選択した履修パターンにある科目以外で、先修条件を満たしている必修外国語科目は履修することができます。履修を希望する場合は、文学部教務課窓口にある「希望届」を文学部教務課窓口へ提出してください。ただし、「希望届」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などの条件により、許可されない場合があります。

修得した単位数はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

例：1. フランス語を選択している英語重視型の学生が、「フランス語ⅢA」を履修し修得した単位

2. 初修外国語重視型の学生が「英語総合3(A)」を履修し修得した単位

3. 中国語を選択している英語重視型または初修外国語重視型の学生が、「スペイン語Ⅰ」を履修し修得した単位

⑦ 初修外国語の言語を変更したい場合（2年次生以降）

一旦選択した初修外国語の履修を放棄し、他の言語への変更を特に希望する場合は、文学部教務課窓口にある「変更理由書」を、文学部教務課窓口に提出してください。ただし、「変更理由書」の内容、各言語の開講曜日、クラス編成などの条件により、許可されない場合があります。変更が認められた場合は、新たに「Ⅰ」から履修してください。

変更前に修得した言語の単位はフリーゾーンとして卒業要件に含むことができます。

例：「ドイツ語Ⅰ」の単位修得後、フランス語に言語変更した場合、先に修得した「ドイツ語Ⅰ」は「フランス語Ⅰ」として読み替えられませんので注意が必要です。

(3) 選択外国語科目の履修

選択外国語科目には、新しい言語にチャレンジするための入門科目と発展科目が開設されています。より高度な運用能力（読む・聴く・話す・書く）の向上を図るとともに、そのことばが用いられている国・地域の文化的、社会的事情についての理解を深めることをめざします。なお、選択外国語科目は教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

【入門科目】開設言語	【発展科目】開設言語
ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語

また、これらの科目の他に、ポルトガル語、ロシア語、ラテン語、ギリシア語、ペルシア語、トルコ語、アラビア語が開設されており、みなさんの多様な興味・関心に応えることができます。

① 開設科目・配当セメスター

	1年次		2年次		3年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター
【入門科目】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ロシア語				コミュニケーションⅠ (2単位)	コミュニケーションⅡ (2単位)	
【発展科目(英語)】	英語セミナー A1 (2単位)	英語セミナー A2 (2単位)	英語セミナー B1 (2単位)	英語セミナー B2 (2単位)	英語セミナー D1 (2単位)	英語セミナー D2 (2単位)
	英語セミナー G1 (2単位)	英語セミナー G2 (2単位)	英語セミナー C1 (2単位)	英語セミナー C2 (2単位)	英語セミナー H1 (2単位)	英語セミナー H2 (2単位)
	英語セミナー I1 (2単位)	英語セミナー I2 (2単位)	英語セミナー E1 (2単位)	英語セミナー E2 (2単位)	英語セミナー J1 (2単位)	英語セミナー J2 (2単位)
	英語資格試験セミナー (2単位/サマーセッション)		英語セミナー F1 (2単位)	英語セミナー F2 (2単位)		
		海外英語研修(注1) (2単位/集中)				
【発展科目(初修外国語)】 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ロシア語			セミナーⅠA (2単位)	セミナーⅠB (2単位)	セミナーⅡA (2単位)	セミナーⅡB (2単位)
			セミナーⅠC (2単位)	セミナーⅠD (2単位)	セミナーⅡC (2単位)	セミナーⅡD (2単位)
			海外中国語研修講座(注2) (2単位/通年集中)			
ポルトガル語 ロシア語			Ⅰ (2単位)	Ⅱ (2単位)	ⅢA (2単位)	ⅢB (2単位)
ラテン語 ギリシア語			Ⅰ (1単位)	Ⅱ (1単位)		
ペルシア語			Ⅰ (2単位)	Ⅱ (2単位)		
トルコ語 アラビア語			Ⅰ (2単位)	Ⅱ (2単位)		

(注1)「海外英語研修」(2単位)は1年次生と2年次生のみ履修が可能です。グローバル教育推進センターにおいて申込み手続きを行ってください(Web履修登録不要)。

(注2)「海外中国語研修講座」(2単位)は、現地研修に先立ち、グローバル教育推進センターにおいて申込み手続きを行い(Web履修登録不要)、第1学期(前期)には事前指導が行われるので必ず出席してください。

なお、「海外中国語研修講座」(2単位)は、原則、所属する学部教務課へ申し出ることにより、初修外国語重視型「中国語ⅢA～ⅢD(計4単位)」のなかで、2単位まで充当されます。

② 先修制

選択外国語科目のうち以下の科目には先修制が定められています。

授業科目等	履修の要件となる授業科目名および単位数
ドイツ語セミナーⅠA～ⅠD	「ドイツ語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
フランス語セミナーⅠA～ⅠD	「フランス語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
中国語セミナーⅠA～ⅠD	「中国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
スペイン語セミナーⅠA～ⅠD	「スペイン語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
コリア語セミナーⅠA～ⅠD	「コリア語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
ドイツ語セミナーⅡA～ⅡD	「ドイツ語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「ドイツ語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
フランス語セミナーⅡA～ⅡD	「フランス語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「フランス語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
中国語セミナーⅡA～ⅡD	「中国語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「中国語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
スペイン語セミナーⅡA～ⅡD	「スペイン語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「スペイン語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
コリア語セミナーⅡA～ⅡD	「コリア語ⅢA～ⅢD」(計4単位) または 「コリア語セミナーⅠA～ⅠD」(各2単位) より2科目(計4単位)
ドイツ語コミュニケーションⅡ	「ドイツ語Ⅰ」(2単位) または 「ドイツ語コミュニケーションⅠ」(2単位)
フランス語コミュニケーションⅡ	「フランス語Ⅰ」(2単位) または 「フランス語コミュニケーションⅠ」(2単位)
中国語コミュニケーションⅡ	「中国語Ⅰ」(2単位) または 「中国語コミュニケーションⅠ」(2単位)
スペイン語コミュニケーションⅡ	「スペイン語Ⅰ」(2単位) または 「スペイン語コミュニケーションⅠ」(2単位)
コリア語コミュニケーションⅡ	「コリア語Ⅰ」(2単位) または 「コリア語コミュニケーションⅠ」(2単位)
英語セミナー B1, B2, C1, C2, E1, E2, F1, F2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B)」(計4単位)
英語セミナー D1, D2, H1, H2, J1, J2	「英語総合1(A), 1(B), 2(A), 2(B), 3(A), 3(B), 4(A), 4(B)」(各1単位) より4科目(計4単位)
海外中国語研修講座	「中国語Ⅰ,Ⅱ」(計4単位)
ポルトガル語Ⅱ,ⅢA,ⅢB	「ポルトガル語Ⅰ」(2単位)
ロシア語Ⅱ,ⅢA,ⅢB	「ロシア語Ⅰ」(2単位)
ペルシア語Ⅱ	「ペルシア語Ⅰ」(2単位)

4. 教養科目

教養科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の4つの系列に分類されており、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけることを可能にしています。全ての教養科目は自由に選択できますが、選択必修として「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」に設置されている基幹科目（学びの入門となる科目や諸学の基本を学ぶ科目）の中から各1科目（2単位）以上修得する必要があります。なお、「スポーツ科学系科目」及び2単位を超えて修得した基幹科目の単位については、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

人文科学系科目

人文科学は、人間の様々な文化や過去の経験を研究する学問領域で、大きくは文学、哲学、歴史学、宗教学、心理学、教育学などに分かれます。人文科学系科目では、先入観や偏見から自由になってものごとを考える力、芸術作品を鑑賞する能力、感情や意見の表現の仕方、人間の心理を理解する方法などを身につけることを目的にしています。

社会科学系科目

社会科学（社会学、経済学、法学、政治学など）は、絶えず変動し複雑さを増す現代社会を広く見渡すとともに、現代社会の諸問題を多角的に捉え、思考・判断する力を養います。そのために、様々な学問分野が培ってきた「ものの見方」や「考え方」、さらには幅広い知識や知的な諸技法を学びます。

自然科学系科目

自然科学は社会生活を送るうえで重要な分野の一つをなしています。社会人になってからの生活や社会活動の際に必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養います。数学、情報科学、物理学、天文学、科学史、地球科学、生物学、環境学、化学などの主要分野をカバーする科目を開設します。

スポーツ科学系科目

生涯にわたり健康で文化的な生活の基礎を築くとともに、文化としてのスポーツに対する理解を促し、現代社会におけるスポーツの役割や人間の身体がもつ可能性について考える機会とするための科目を設定しています。具体的には実際にスポーツや身体活動を行う実習科目や行動変容を促す講義科目を開設します。

(1) 単位認定の方法

単位は、それぞれの科目ごとに認定されます。

(2) 開講方式および履修方法

- ① すべての科目には配当セメスターが設定されており、配当セメスターより前のセメスターにおいては履修できません。
- ② 同一科目名の授業の中にも、セメスター型、通年型（通年）の開講方式があり、いずれの方式の授業でも履修できます（ただし、1科目のみ）。
- ③ 同一科目名で授業担当者が異なる場合でも同一科目として取り扱います。
よって、同じセメスターにおいて、二つ以上同時に履修することや一度単位認定された科目を再度履修することはできません。
- ④ 同一の科目名でありながら、「〇〇A」「〇〇B」「〇〇C」とある科目や「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」とある科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「〇〇A」という科目を修得していなくても、「〇〇B」の履修は可能です。なお、「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」の「I」「II」「III」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。

※「スポーツ技術学演習」

- ① 「スポーツ技術学演習」を履修するためには、本学で行う健康診断を受けておかなければなりません。健康診断の日程については履修説明会や本学ホームページにて確認してください。
- ② 各演習ともに、第1回目の授業は「体育館メインフロア（2階）」に集合してください。

5. 教養科目、選択外国語科目の予備登録

教養科目、選択外国語科目では、各授業科目の受講者数を適正規模に調整するために「予備登録制」がとられています。

したがって、教養科目、選択外国語科目の受講に際しては、年次にかかわらず、予備登録を行う必要があります。

予備登録を行う際は、予備登録できる上限科目数及び学期ごとに定められている履修登録制限単位数に基づき、履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください。（一部予備登録が不要な科目もありますので、以下の「(5) 予備登録が不要な科目（P53）」を参照してください。）

予備登録の結果、受講が許可された科目は、Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態で表示されます。その場合、登録の取消はできませんので注意してください。

なお、予備登録で希望した科目の受講が許可されなかった場合や、予備登録を行わなかった場合でも、本登録時にWeb履修登録画面に表示されている科目を選択し履修登録（本登録）することができます。

(1) 予備登録の方法

本学ホームページの「ポータルサイト」から、Web予備・事前登録画面にアクセスの上、希望科目を選択します。

予備登録期間については、履修説明会およびポータルサイトで確認してください。

(2) 予備登録できる上限科目数

第1学期（前期）（通年科目含む）：7科目

第2学期（後期）：7科目

なお、4年次生には予備登録科目数の制限はありません。

(3) 予備登録結果発表

予備登録結果はWeb履修登録画面で確認してください。

なお、発表日時（履修登録期間）については、履修説明会およびポータルサイトで確認してください。

(4) 予備登録にあたっての注意事項

- ① 第1学期（前期）履修登録は、第1学期（前期）開講科目と通年科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。第2学期（後期）履修登録は第2学期（後期）開講科目を登録します（ただし、4年次生以上は、第1学期（前期）に第2学期（後期）開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。
- ② 各年次について定められている予備登録できる上限科目数および履修登録制限単位の範囲で予備登録をしてください。
- ③ 重複登録（同一曜講時に2科目以上の予備登録をすること）、二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目はすべて無効となります。

(5) 予備登録が不要な科目

以下の科目は予備登録が不要です。受講を希望する場合は、直接、履修登録（本登録）をしてください。

「人権論A・B」（1年次配当科目）

「海外英語研修」（1年次配当科目。1年次生と2年次生のみ履修可）※

「海外中国語研修講座」（2年次配当科目）※

※「海外英語研修」「海外中国語研修講座」の履修を希望する学生は、グローバル教育推進センターが開催する説明会に参加してください。（開催日等はポータルサイト等で確認してください。）その上で申込み手続きを行ってください。なお「海外中国語研修講座」は「中国語Ⅰ・Ⅱ」の計4単位を修得した学生だけが履修できますので注意してください。

6. 留学生の必修外国語科目（日本語科目等）

留学生は「日本語」および「留学生のための英語入門A」・「留学生のための英語入門B」を必修外国語として12単位履修し修得することを原則とします。

ただし、登録にあたっては必ず文学部教務課窓口で相談してください。

科目名	単位	配当年次	開講形態
日本語	1	1年次以上	Semester 型
留学生のための英語入門A（注1）	1	1年次以上	Semester 型
留学生のための英語入門B（注2）	1	1年次以上	Semester 型

(注1) 学則上の科目名は「英語総合1(B)」です。

(注2) 学則上の科目名は「英語総合2(B)」です

7. 教養教育科目開設科目

(1) 「仏教の思想」科目

◎は必修科目 ○は選択科目

授業科目名	単位	配当 Semester						備 考
		1	2	3	4	5	6	
仏教の思想 A	2	◎						2科目（4単位）必修
仏教の思想 B	2		◎					
歎異抄の思想 I	2			○				
歎異抄の思想 II	2				○			

(2) 言語科目

◎は必修外国語科目 ○は選択外国語科目

授業科目名	単位	配当 Semester						備 考
		1	2	3	4	5	6	
英語総合1 (A)	1	◎						
英語総合1 (B)	1	◎						
英語総合2 (A)	1		◎					
英語総合2 (B)	1		◎					
英語総合3 (A)	1			◎				
英語総合3 (B)	1			◎				
英語総合4 (A)	1				◎			
英語総合4 (B)	1				◎			
ドイツ語 I	2	◎						
ドイツ語 II	2		◎					
ドイツ語 III A	1			◎				
ドイツ語 III B	1				◎			
ドイツ語 III C	1			◎				
ドイツ語 III D	1				◎			
フランス語 I	2	◎						
フランス語 II	2		◎					
フランス語 III A	1			◎				
フランス語 III B	1				◎			
フランス語 III C	1			◎				
フランス語 III D	1				◎			
中国語 I	2	◎						
中国語 II	2		◎					
中国語 III A	1			◎				
中国語 III B	1				◎			
中国語 III C	1			◎				
中国語 III D	1				◎			
スペイン語 I	2	◎						
スペイン語 II	2		◎					

スペイン語ⅢA	1			○		
スペイン語ⅢB	1				○	
スペイン語ⅢC	1			○		
スペイン語ⅢD	1				○	
コリア語Ⅰ	2	○				
コリア語Ⅱ	2		○			
コリア語ⅢA	1			○		
コリア語ⅢB	1				○	
コリア語ⅢC	1			○		
コリア語ⅢD	1				○	
英語セミナーA1	2	○				
英語セミナーA2	2		○			
英語セミナーB1	2			○		
英語セミナーB2	2				○	
英語セミナーC1	2			○		
英語セミナーC2	2				○	
英語セミナーD1	2					○
英語セミナーD2	2					○
英語セミナーE1	2			○		
英語セミナーE2	2				○	
英語セミナーF1	2			○		
英語セミナーF2	2				○	
英語セミナーG1	2	○				
英語セミナーG2	2		○			
英語セミナーH1	2					○
英語セミナーH2	2					○
英語セミナーI1	2	○				
英語セミナーI2	2		○			
英語セミナーJ1	2					○
英語セミナーJ2	2					○
英語資格試験セミナー	2		○			
海外英語研修	2		○			
ドイツ語セミナーⅠA	2			○		
ドイツ語セミナーⅠB	2				○	
ドイツ語セミナーⅠC	2			○		
ドイツ語セミナーⅠD	2				○	
ドイツ語セミナーⅡA	2					○
ドイツ語セミナーⅡB	2					○
ドイツ語セミナーⅡC	2				○	
ドイツ語セミナーⅡD	2					○
ドイツ語コミュニケーションⅠ	2				○	
ドイツ語コミュニケーションⅡ	2					○
フランス語セミナーⅠA	2			○		
フランス語セミナーⅠB	2				○	
フランス語セミナーⅠC	2			○		
フランス語セミナーⅠD	2				○	

1年次生と2年次生のみ履修可

教育課程

教養教育科目

フランス語セミナーⅡA	2					○	
フランス語セミナーⅡB	2						○
フランス語セミナーⅡC	2					○	
フランス語セミナーⅡD	2						○
フランス語コミュニケーションⅠ	2				○		
フランス語コミュニケーションⅡ	2					○	
中国語セミナーⅠA	2			○			
中国語セミナーⅠB	2				○		
中国語セミナーⅠC	2			○			
中国語セミナーⅠD	2				○		
中国語セミナーⅡA	2					○	
中国語セミナーⅡB	2						○
中国語セミナーⅡC	2					○	
中国語セミナーⅡD	2						○
中国語コミュニケーションⅠ	2				○		
中国語コミュニケーションⅡ	2					○	
スペイン語セミナーⅠA	2			○			
スペイン語セミナーⅠB	2				○		
スペイン語セミナーⅠC	2			○			
スペイン語セミナーⅠD	2				○		
スペイン語セミナーⅡA	2					○	
スペイン語セミナーⅡB	2						○
スペイン語セミナーⅡC	2					○	
スペイン語セミナーⅡD	2						○
スペイン語コミュニケーションⅠ	2				○		
スペイン語コミュニケーションⅡ	2					○	
コリア語セミナーⅠA	2			○			
コリア語セミナーⅠB	2				○		
コリア語セミナーⅠC	2			○			
コリア語セミナーⅠD	2				○		
コリア語セミナーⅡA	2					○	
コリア語セミナーⅡB	2						○
コリア語セミナーⅡC	2					○	
コリア語セミナーⅡD	2						○
コリア語コミュニケーションⅠ	2				○		
コリア語コミュニケーションⅡ	2					○	
海外中国語研修講座	2			○			
ポルトガル語Ⅰ	2			○			
ポルトガル語Ⅱ	2				○		
ポルトガル語ⅢA	2					○	
ポルトガル語ⅢB	2						○
ロシア語Ⅰ	2			○			
ロシア語Ⅱ	2				○		
ロシア語ⅢA	2					○	
ロシア語ⅢB	2						○
ラテン語Ⅰ	1			○			
ラテン語Ⅱ	1				○		

ギリシア語Ⅰ	1			○			
ギリシア語Ⅱ	1				○		
ペルシア語Ⅰ	2			○			
ペルシア語Ⅱ	2				○		
トルコ語Ⅰ	2			○			
トルコ語Ⅱ	2				○		
アラビア語Ⅰ	2			○			
アラビア語Ⅱ	2				○		

※下記の科目は留学生のみ履修可能です。

授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
		1	2	3	4	5	6	
日本語	1	◎	◎					学則上の科目名(英語総合1(B)) 学則上の科目名(英語総合2(B))
留学生のための英語入門A	1	◎	◎					
留学生のための英語入門B	1	◎	◎					

(3) 教養科目

●は選択必修科目として開講する基幹科目

○は選択科目

科目区分	授業科目名	単位	配当セメスター						備 考
			1	2	3	4	5	6	
人文学系科目	哲学入門	2	●						1科目(2単位以上)必修
	哲学A	2	●						
	倫理学入門	2	●						
	倫理学A	2	●						
	クリティカル・シンキング	2	●						
	宗教学入門	4	●						
	宗教の世界A	2	●						
	宗教の世界B	2		●					
	中国の思想A	2	●						
	中国の思想B	2		●					
	日本の文学A	4	●						
	日本の文学B	4		●					
	アジアの文学A	2	●						
	アジアの文学B	2	●						
	西洋の文学A	2	●						
	西洋の文学B	2		●					
	文章表現法A	2	●						
	文章表現法B	2		●					
	言語と文化	2	●						
	日本の歴史A	4	●						
日本の歴史B	4		●						

人文学系科目	アジアの歴史A	4	●					
	アジアの歴史B	4		●				
	西洋の歴史A	4	●					
	現代世界の歴史A	2	●					
	現代世界の歴史B	2		●				
	心理学	4	●					
	心の科学A	2	●					
	心の科学B	2		●				
	教育学のすすめA	2	●					
	教育学のすすめB	2		●				
	哲学B	2			○			
	倫理学B	2			○			
	論理学	2			○			
	芸術の世界A	2			○			
	芸術の世界B	2				○		
	日本の文学C	2			○			
	歴史学入門	2			○			
	日本の文化	4				○		
	アジアの文化	2			○			
	西洋の歴史B	2			○			
	西洋の歴史C	2				○		
	応用心理学A	2			○			
	応用心理学B	2				○		
	現代社会と教育A	2			○			
	現代社会と教育B	2				○		
	教育原論A	2			○			
教育原論B	2				○			
学習・発達論A	2			○				
学習・発達論B	2				○			
人文科学セミナー	4				○			
大学論	2			○				
社会科学系科目	日本国憲法	2	●					
	法学のすすめ	2	●					
	政治学のすすめ	2	●					
	社会学のすすめ	2	●					
	地理学のすすめ	2	●					
	経済学のすすめ	2	●					
	経営学のすすめ	2	●					
	国際学のすすめ	2	●					
	文化人類学のすすめ	2	●					
	社会調査のすすめ	2	●					
	社会統計学のすすめ	2	●					
	人権論A	2	○					
	人権論B	2		○				
	現代社会とメディア	2			○			

1科目（2単位以上）必修

社会科学系科目	現代社会と福祉	2			○		
	現代社会と法	2			○		
	環境と社会	2			○		
	平和学A	2			○		
	ジェンダー論	2			○		
	国際社会論	2			○		
	現代社会の諸問題	2			○		
	地域論	2			○		
	企業と会計	2			○		
	現代社会と労働	2			○		
	社会思想史	2			○		
	英語で学ぶ日本の社会A	2	○				
	英語で学ぶ日本の社会B	2	○				
	データサイエンス・AI入門	2	○				
	自然科学系科目	数学入門	2	●			
数学への旅		2	●				
確率・統計入門		2	●				
宇宙の科学Ⅰ		4	●				
地球科学のすすめ		2	●				
物理学の世界		4	●				
時間と空間の科学		2	●				
自然科学史Ⅰ		2	●				
生物学のすすめ		4	●				
生命科学のすすめ		2	●				
生態学のすすめ		4	●				
人類学のすすめ		4	●				
環境学		4	●				
情報科学入門		2			●		
微分と積分		4	○				
行列と行列式		4	○				
数理統計学		4			○		
数理と計算		2			○		
数学の世界		4			○		
数理と論証		2			○		
宇宙の科学Ⅱ		2			○		
地球科学		2		○			
エネルギー入門		2			○		
自然科学史Ⅱ		2			○		
科学論		2			○		
技術論		2				○	
平和学B		2			○		
里山学	2	○					
生命科学	2		○				
日本の自然	4	○					
生命誌	2			○			

1科目（2単位以上）必修

自然科学系科目	植物の自然誌	2			○			
	動物の自然誌	2			○			
	民族の自然誌	2			○			
	人類進化学	2			○			
	人間の生物学Ⅰ	2			○			
	人間の生物学Ⅱ	2				○		
	自然誌実習	4			○			
	野外観察法	2			○			
	情報科学Ⅰ	2				○		
	情報科学Ⅱ	2					○	
	情報科学実習	4		○				
スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2			○			
	現代社会とスポーツ	2		○				
	スポーツ技術学演習	2	○					
	人間とスポーツ	2	○					
	スポーツと人権・平和	2			○			
	スポーツ文化史	2			○			
	スポーツ科学最前線	2	○					
教養教育科目特別講義	教養教育科目特別講義	2	○					4単位科目と2単位科目を複数開講するが、1科目(2単位/4単位)のみ卒業要件単位となる。
	教養教育科目特別講義	4	○					

(注1) 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。(一部例外あり)

(例：1年次配当科目であれば、2年次以降生も受講可能)

(注2) 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。

また、年度により不開講となることがあります。

詳細は時間割冊子およびWeb履修登録画面で確認してください。

III 文学部専攻科目の教育目的および履修方法

1. カリキュラムマップ・必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

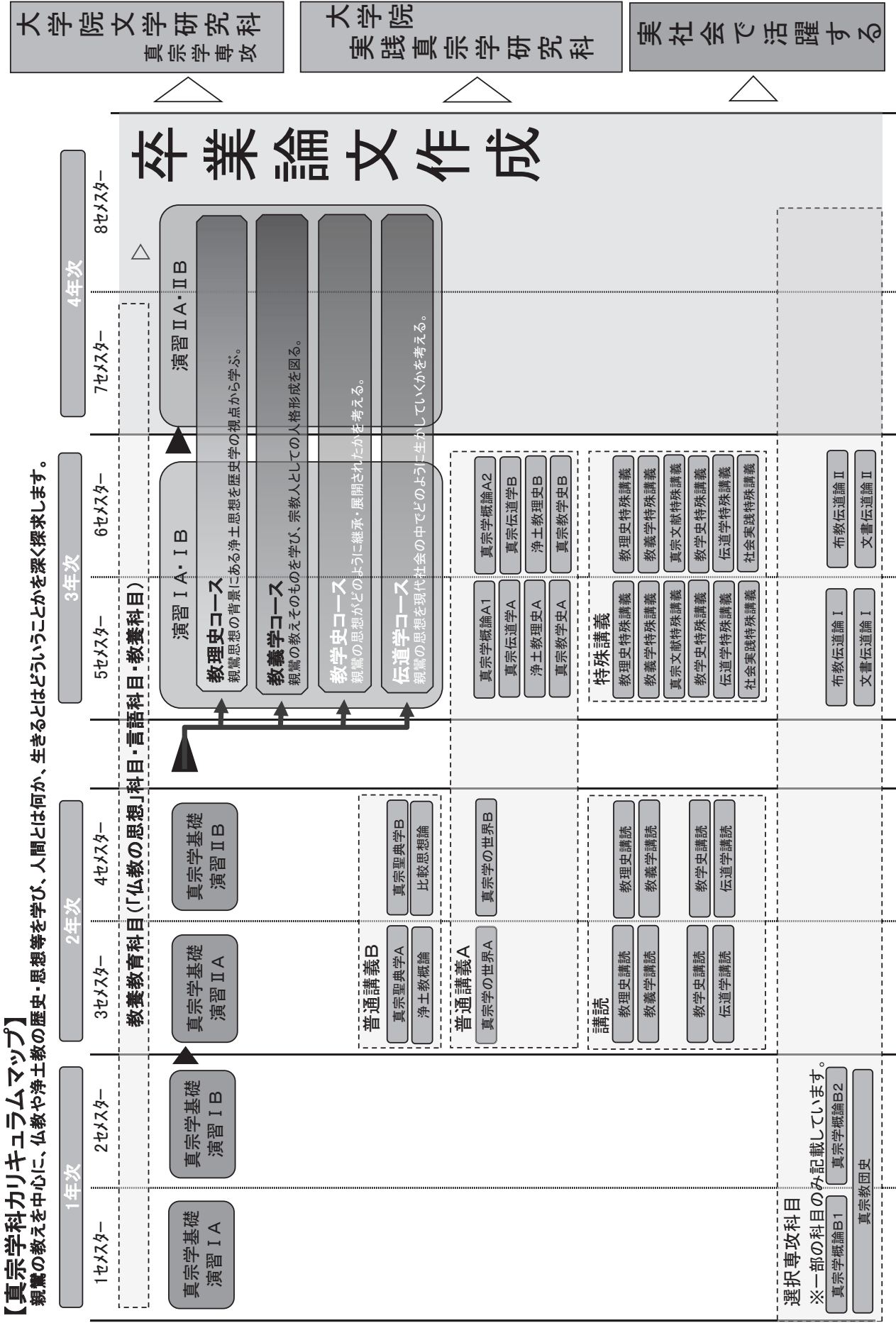
学科・専攻の教育理念・目的に基づき、専攻科目を開設しています。41ページ記載のカリキュラム概念図でも示しているとおり、所属学科・専攻以外の専攻科目（履修できない科目もあります。詳細はこの項目の各学科・専攻の履修上の注意点を参照してください。）も履修できるため、計画的な履修計画を立てる必要があります。

各学科・専攻の開設科目とともにカリキュラムマップも掲載していますので参考にしてください。

☆年度により、開講されない科目があります。開設科目一覧に掲載されていても、時間割表に掲載されていない場合は、その年度は不開講です。また、科目の開講期も変更となる場合もあります。時間割表をよく確認してください。

【真宗学教科カリキュラムマップ】

親鸞の教えを中心に、仏教や浄土教の歴史・思想等を学び、人間とは何か、生きるとはどういうことかを深く探求します。



大学院 文学研究科
真宗学専攻

大学院
実践真宗学研究科

実社会で活躍する

教育課程
血と汗の輝き

■真宗学科 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼真宗学科の教育理念・目的

親鸞によって開頭された浄土真宗の教義を、浄土教理史・真宗教義学・真宗教学史・真宗伝道学の4分野にわたって探究し、広い視野に立って真宗教義の真理性を明らかにするとともに、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 真宗学の世界A(2)【深草】	[300] 真宗学の世界B(2)【深草】
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 真宗聖典学A(2)【大宮】 [300] 浄土教概論(2)【大宮】	[300] 真宗聖典学B(2)【大宮】 [300] 比較思想論(2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 教理史講読A1(2)【深草】 [300] 教理史講読B1(2)【大宮】 [300] 教理史講読C1(2)【大宮】 [300] 教義学講読A1(2)【深草】 [300] 教義学講読B1(2)【大宮】 [300] 教義学講読C1(2)【大宮】 [300] 教義学講読D1(2)【大宮】 [300] 教義学講読E1(2)【深草】 [300] 教学史講読A1(2)【深草】 [300] 教学史講読B1(2)【大宮】 [300] 伝道学講読A1(2)【深草】 [300] 伝道学講読B1(2)【大宮】 [300] 伝道学講読C1(2)【大宮】	[300] 教理史講読A2(2)【深草】 [300] 教理史講読B2(2)【大宮】 [300] 教理史講読C2(2)【大宮】 [300] 教義学講読A2(2)【深草】 [300] 教義学講読B2(2)【大宮】 [300] 教義学講読C2(2)【大宮】 [300] 教義学講読D2(2)【大宮】 [300] 教義学講読E2(2)【深草】 [300] 教学史講読A2(2)【深草】 [300] 教学史講読B2(2)【大宮】 [300] 伝道学講読A2(2)【深草】 [300] 伝道学講読B2(2)【大宮】 [300] 伝道学講読C2(2)【大宮】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 真宗学基礎演習ⅠA(2)【深草】	[200] 真宗学基礎演習ⅠB(2)【深草】	[300] 真宗学基礎演習ⅡA(2)【深草】	[300] 真宗学基礎演習ⅡB(2)【深草】
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

《履修上の注意点》

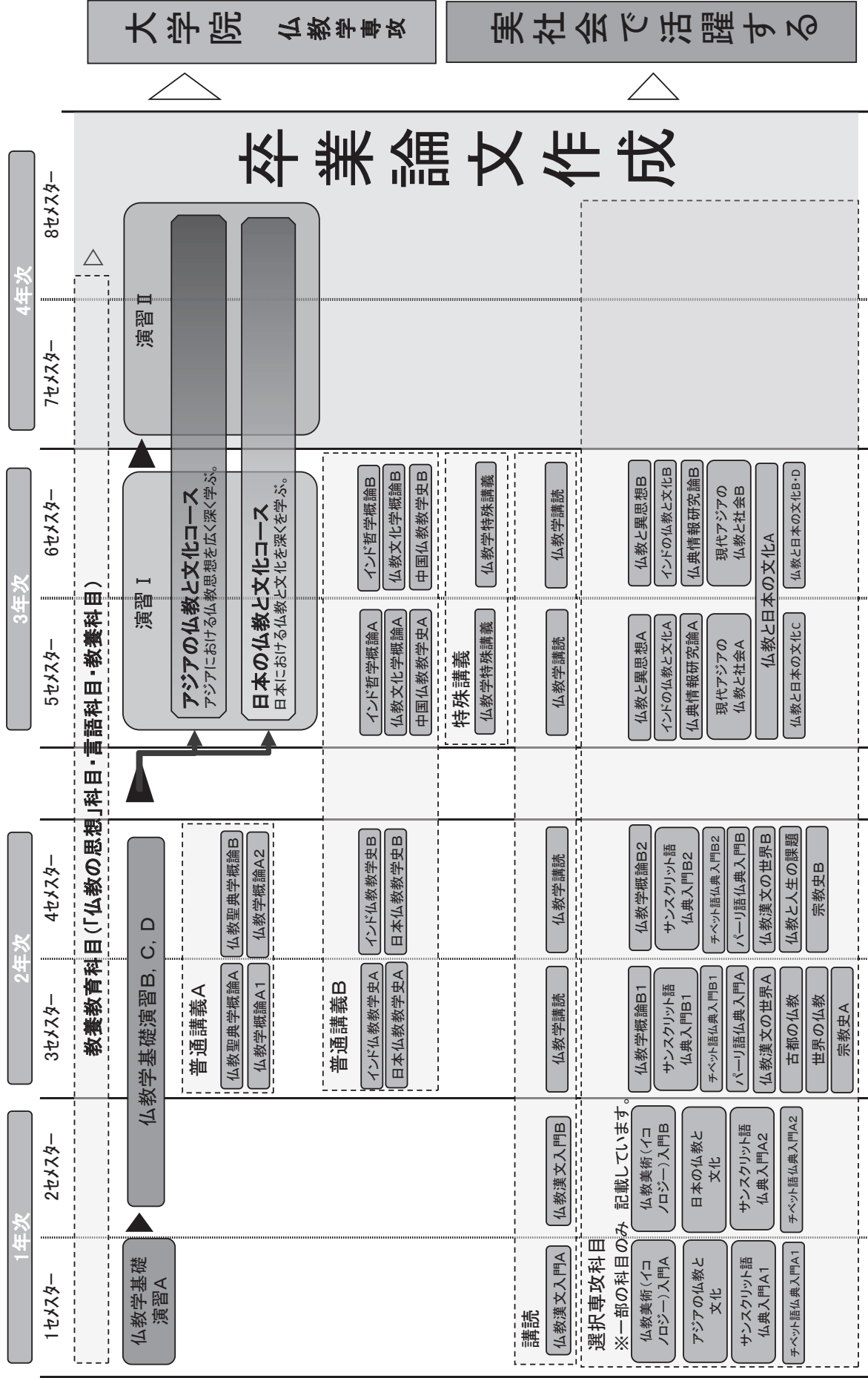
- 「普通講義A」において、規定の単位を超えて履修した単位は、「選択専攻科目」となります。選択する科目グループに関しては、基本的に所属する演習分野と同一の科目を履修してください。
 - ・教理史演習 → 浄土教理史A/B
 - ・教学史演習 → 真宗教学史A/B
 - ・伝道学演習 → 真宗伝道学A/B
- ※教義学演習は特に履修パターンはないため、①～③の科目グループから選択してください。
- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において4単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文(4単位)は、演習II A及び演習II Bを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
[400] 真宗学概論A1(2)【大宮】	[400] 真宗学概論A2(2)【大宮】			「真宗学の世界A・B」「真宗学概論A1・A2」4科目8単位をふくむ合計12単位必修
以下の①②③の科目グループから2科目4単位を履修				
① [400] 浄土教理史A(2)【大宮】	[400] 浄土教理史B(2)【大宮】			
② [400] 真宗教学史A(2)【大宮】	[400] 真宗教学史B(2)【大宮】			
③ [400] 真宗伝道学A(2)【大宮】	[400] 真宗伝道学B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 教理史特殊講義A1(2)【大宮】	[400] 教理史特殊講義A2(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 教理史特殊講義B1(2)【大宮】	[400] 教理史特殊講義B2(2)【大宮】			
[400] 教義学特殊講義A1(2)【大宮】	[400] 教義学特殊講義A2(2)【大宮】			
[400] 教義学特殊講義B1(2)【大宮】	[400] 教義学特殊講義B2(2)【大宮】			
[400] 真宗文献特殊講義A(2)【大宮】	[400] 真宗文献特殊講義B(2)【大宮】			
[400] 教学史特殊講義A1(2)【大宮】	[400] 教学史特殊講義A2(2)【大宮】			
[400] 教学史特殊講義B1(2)【大宮】	[400] 教学史特殊講義B2(2)【大宮】			
[400] 伝道学特殊講義A1(2)【大宮】	[400] 伝道学特殊講義A2(2)【大宮】			
[400] 伝道学特殊講義B1(2)【大宮】	[400] 伝道学特殊講義B2(2)【大宮】			
[400] 社会実践特殊講義A(2)【大宮】	[400] 社会実践特殊講義B(2)【大宮】			
				2科目4単位選択必修
				4科目8単位必修
[400] 教理史演習 I A(2)【大宮】	[400] 教理史演習 I B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修。 同一分野(教理史、教義学、教学史、伝道学)でI A・I Bを履修すること。
[400] 教義学演習 I A(2)【大宮】	[400] 教義学演習 I B(2)【大宮】			
[400] 教学史演習 I A(2)【大宮】	[400] 教学史演習 I B(2)【大宮】			
[400] 伝道学演習 I A(2)【大宮】	[400] 伝道学演習 I B(2)【大宮】			
		[500] 卒業論文(4)【大宮】		卒業論文4単位及び、同一分野の演習II A・II B(教理史、教義学、教学史、伝道学)の4単位、合計8単位必修。
		[500] 教理史演習 II A(2)【大宮】	[500] 教理史演習 II B(2)【大宮】	
		[500] 教義学演習 II A(2)【大宮】	[500] 教義学演習 II B(2)【大宮】	
		[500] 教学史演習 II A(2)【大宮】	[500] 教学史演習 II B(2)【大宮】	
		[500] 伝道学演習 II A(2)【大宮】	[500] 伝道学演習 II B(2)【大宮】	

【仏教学科カリキュラムマップ】

2500年の時を超え世界に広まった仏教を、思想面から追究するとともに、本物の資料をおしてさらに理解を深めます。



大学院 仏教学専攻

実社会で活躍する

卒業論文作成

■仏教学科 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼仏教学科の教育理念・目的

インド・中国・日本等の諸地域に及ぶ仏教の多様な展開を「アジアの仏教と文化」「日本の仏教と文化」の2つの視座から学ぶことによって専門的知識の修得と論理的洞察力の涵養を図り、現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 仏教聖典学概論A(2)【大宮】 [300] 仏教学概論A1(2)【大宮】	[300] 仏教聖典学概論B(2)【大宮】 [300] 仏教学概論A2(2)【大宮】
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] インド仏教教学史A(2)【深草】 [300] 日本仏教教学史A(2)【深草】	[300] インド仏教教学史B(2)【深草】 [300] 日本仏教教学史B(2)【深草】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。	[100] 仏教漢文入門A (2)【深草】	[200] 仏教漢文入門B (2)【深草】	[300] 仏教学講読A1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読B1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読C1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読D1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読F1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読G1 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読H1 (2)【大宮】	[300] 仏教学講読A2 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読B2 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読C2 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読D2 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読F2 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読G2 (2)【大宮】 [300] 仏教学講読H2 (2)【大宮】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 仏教学基礎演習A(2)【深草】		B～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。 仏教学基礎演習B(2)【深草】 仏教学基礎演習C(2)【深草】 仏教学基礎演習D(2)【深草】	
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

《履修上の注意点》

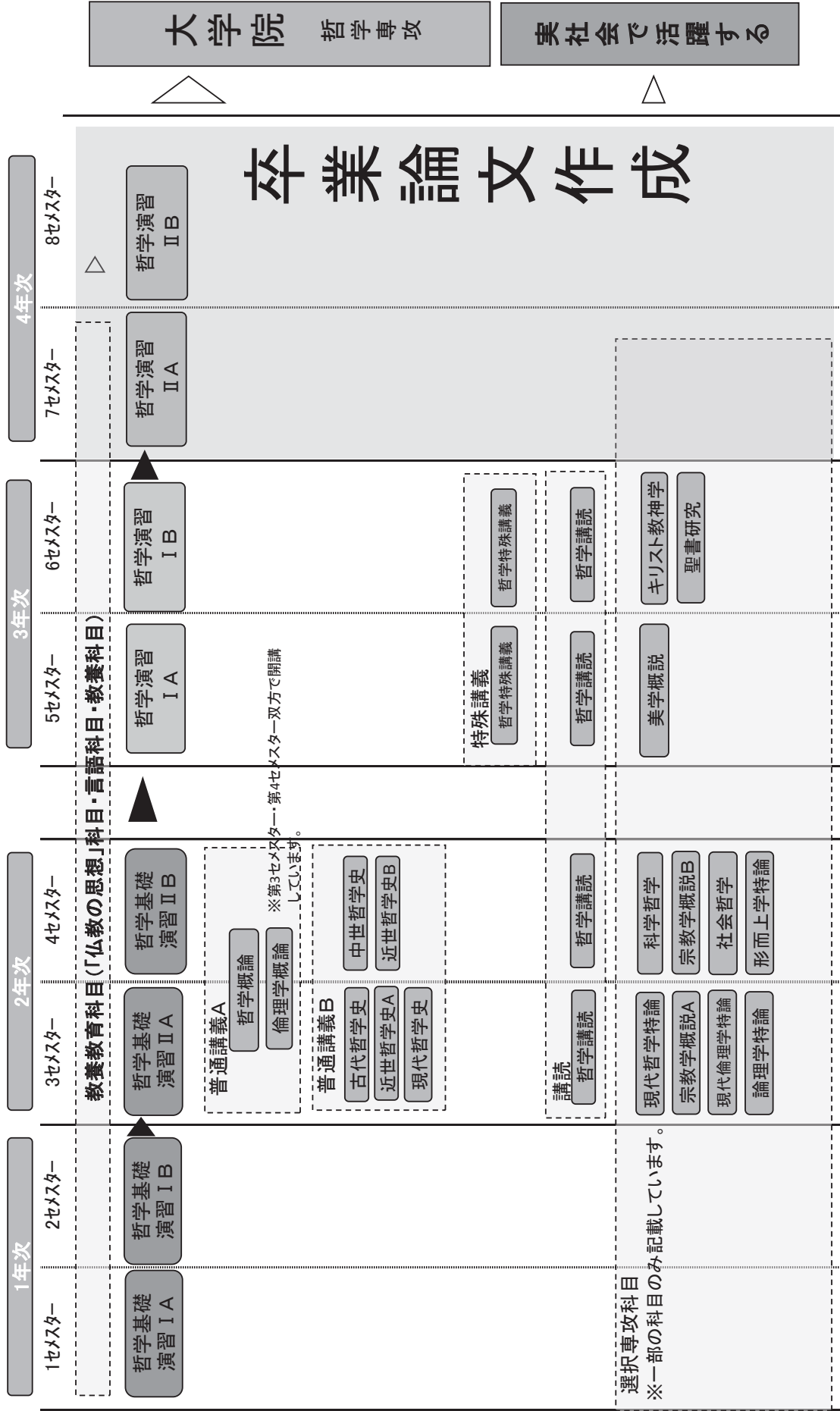
- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において4単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 仏教学基礎演習B～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。
- 卒業論文（4単位）は、仏教学演習IIを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

※ [グレイドナンバー] 科目名(単位数)【開講キャンパス】を表しています。

3年次		4年次		履修規定
第5semester	第6semester	第7semester	第8semester	
				4科目8単位必修
[400] インド哲学概論A(2)【大宮】	[400] インド哲学概論B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 仏教文化概論A(2)【大宮】	[400] 仏教文化概論B(2)【大宮】			
[400] 中国仏教教学史A(2)【大宮】	[400] 中国仏教教学史B(2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義A1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義A2 (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 仏教学特殊講義B1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義B2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義C1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義C2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義D1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義D2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義E1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義E2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義F1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義F2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義G1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義G2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義H1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義H2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義I1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義I2 (2)【大宮】			
[400] 仏教学特殊講義J1 (2)【大宮】	[400] 仏教学特殊講義J2 (2)【大宮】			
[600] 仏教学講読E1 (2)【大宮】	[600] 仏教学講読E2 (2)【大宮】			「仏教漢文入門A」「仏教漢文入門B」4単位と講読科目の中から4単位選択必修の合計8単位必修。
[600] 仏教学講読I1 (2)【大宮】	[600] 仏教学講読I2 (2)【大宮】			
				4科目8単位必修
[400] 仏教学演習 I (4)【大宮】				1科目4単位必修
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		2科目8単位必修
		[500] 仏教学演習 II (4)【大宮】		

【哲学科哲学専攻カリキュラムマップ】

あらゆる偏見・独断・権威を捨てて思想のライブに身を浸し、知の迷宮をさまよいながら、論理的思考力と表現力を身につけます。



大学院 哲学専攻

実社会で活躍する

■哲学科哲学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼哲学科哲学専攻の教育理念・目的

哲学の歴史を深く学び、他者との対話によってあらゆる物事の本質を考えるとともに、現代の諸科学や社会の動向をも吟味しつつ、哲学的・倫理的・宗教的諸問題の解決に寄与する、論理的洞察力に富んだ人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 哲学概論(2)【大宮】 [300] 倫理学概論(2)【大宮】	
普通講義B				※上記2科目は、第3 Semester・第4 Semesterとも開講します。	
				[300] 古代哲学史(2)【大宮】 [300] 中世哲学史(2)【大宮】	
				[300] 近世哲学史A(2)【大宮】 [300] 近世哲学史B(2)【大宮】	
				[400] 現代哲学史(2)【大宮】	
				※年度によって開講期の変更あり	
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 哲学講読G1(2)【深草】 [300] 哲学講読G2(2)【深草】	
				《2年次のみ》 《2年次のみ》	
				[300] 哲学講読H1(2)【深草】 [300] 哲学講読H2(2)【深草】	
				《2年次のみ》 《2年次のみ》	
				[300] 哲学講読I1(2)【深草】 [300] 哲学講読I2(2)【深草】	
				《2年次のみ》 《2年次のみ》	
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的方法を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[100] 哲学基礎演習IA(2)【深草】	[200] 哲学基礎演習IB(2)【深草】	[300] 哲学基礎演習IIA(2)【深草】 [300] 哲学基礎演習IIB(2)【深草】	
演習I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習I」(3年次)および「演習II」(4年次)を開講する。				
演習II 卒業論文					

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

《履修上の注意点》

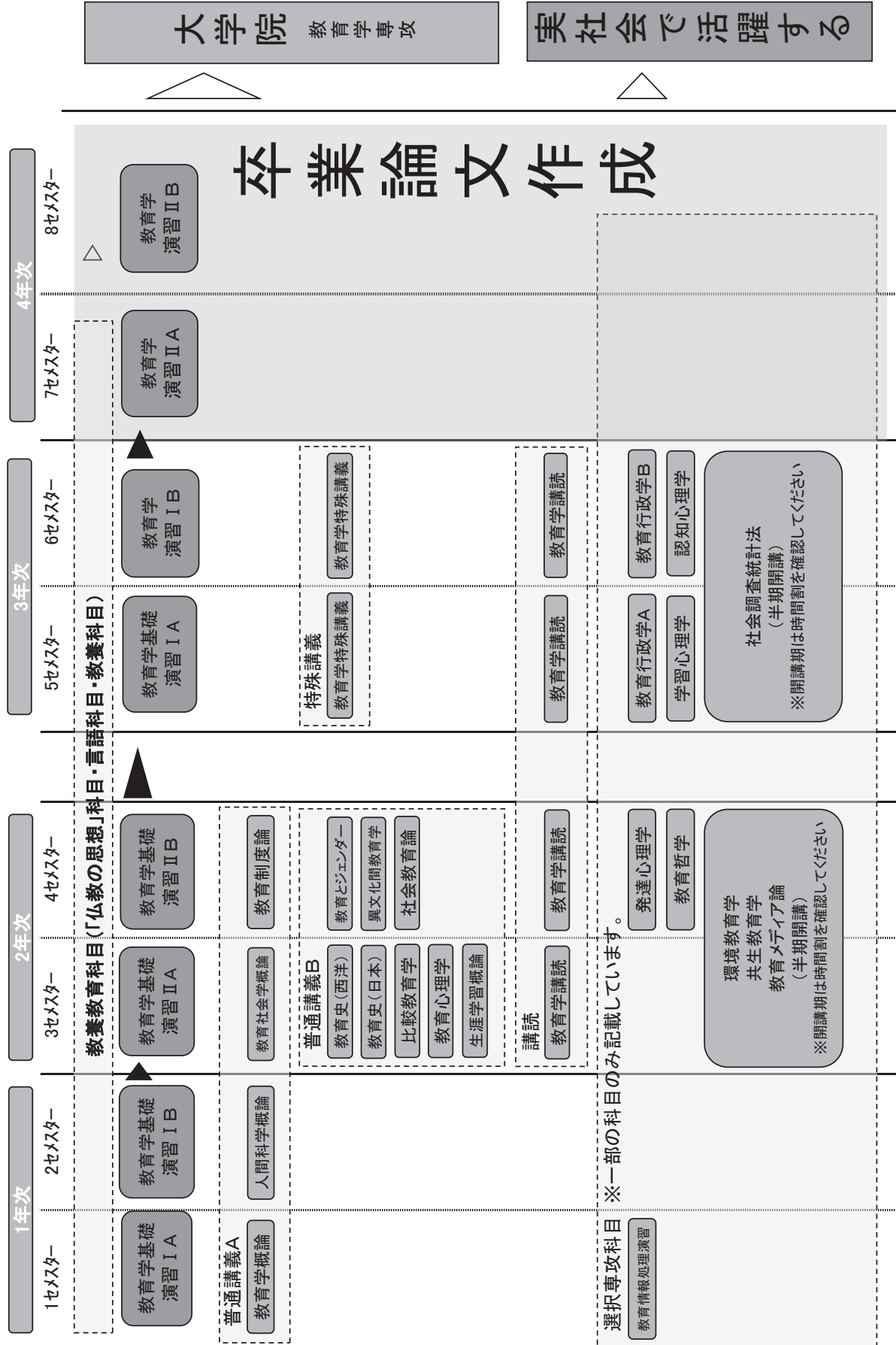
- 「普通講義A」「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

※ [グレイド・ナンバー] 科目名(単位数)【開講キャンパス】を表しています。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
				2科目4単位必修
				4科目8単位選択必修
[600] 哲学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 哲学特殊講義(A)B (2)【大宮】			4科目8単位選択必修
[600] 哲学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 哲学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 哲学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 哲学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[400] 哲学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[400] 哲学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[400] 哲学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[400] 哲学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[400] 哲学講読A1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読A2 (2)【大宮】			4科目8単位選択必修。 年次指定(2年次のみ)4単位修得した上で(3年次以上)履修可能な講読4単位の修得が望ましいが、年次指定が(2年次のみ)の「講読」を修得できなかった場合は、年次指定(3年次以上)の科目を修得し、合計8単位修得しなければなりません。なお、(2年次のみ)の講読は、4単位まで講読分野の卒業要件単位とし、4単位を超えて修得した場合は選択専攻科目とする。
[400] 哲学講読B1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読B2 (2)【大宮】			
[400] 哲学講読C1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読C2 (2)【大宮】			
[400] 哲学講読D1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読D2 (2)【大宮】			
[400] 哲学講読E1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読E2 (2)【大宮】			
[400] 哲学講読F1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読F2 (2)【大宮】			
[400] 哲学講読J1 (2)【大宮】	[400] 哲学講読J2 (2)【大宮】			
[400] 哲学演習ⅠA (2)【大宮】	[400] 哲学演習ⅠB (2)【大宮】			2科目4単位必修
		[500] 卒業論文 (4)【大宮】		3科目8単位必修
		[500] 哲学演習ⅡA (2)【大宮】	[500] 哲学演習ⅡB (2)【大宮】	

【哲学科教育学専攻カリキュラムマップ】

教育のあり方や教育と社会・文化の関係、心理学などについて、これまでの知見を重んじつつ時代に応じた見識と実践力を養います。



■哲学科教育学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼哲学科教育学専攻の教育理念・目的

深い人間理解に基づいて、教育の本質・方法や社会・文化との関係、個人の発達・成長・学習などについての基本的な考え方・見識を養い、人間本来の生き方や発達のメカニズムなどを追究して、生涯学習社会における実践的課題に応えられる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	<p>○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。</p> <p>○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。</p>	[100]教育学概論(2)【深草】	[100]人間科学概論(2)【深草】	[200]教育社会学概論(2)【深草】	[300]教育制度論(2)【深草】
普通講義B				[300]教育史(西洋)(2)【大宮】	[300]教育とジェンダー(2)【大宮】
特殊講義	<p>1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。</p>			[300]教育史(日本)(2)【大宮】	[300]異文化間教育学(2)【大宮】
				[300]比較教育学(2)【大宮】	[300]社会教育論(2)【大宮】
				[200]教育心理学(2)【大宮】	
				[300]生涯学習概論(2)【大宮】	
講読	<p>各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。</p>			[300]教育学講読C1(2)【深草】	[300]教育学講読C2(2)【深草】
				[300]教育学講読D2(2)【深草】	[300]教育学講読D1(2)【深草】
基礎演習	<p>「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。</p>	[100]教育学基礎演習IA(2)【深草】	[200]教育学基礎演習IB(2)【深草】	[300]教育学基礎演習IIA(2)【深草】	[300]教育学基礎演習IIB(2)【深草】
演習I	<p>学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習I」(3年次)および「演習II」(4年次)を開講する。</p>				
演習II 卒業論文					

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

《履修上の注意点》

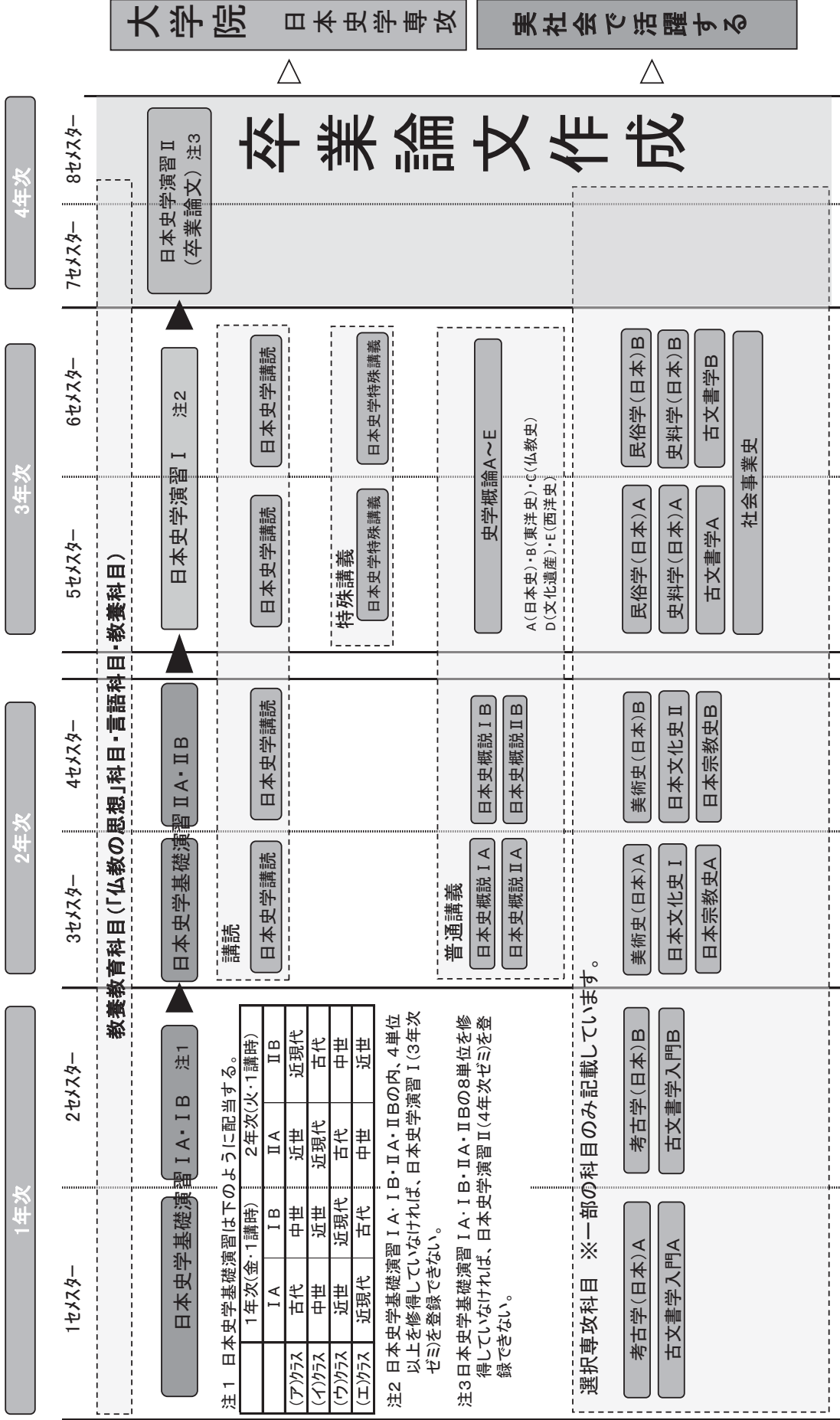
- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、演習ⅡA及び演習ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。
- 「教育学講読」は同一セメスターにおける登録の上限は2単位までとします。

※ [グレイドナンバー] 科目名(単位数)【開講キャンパス】を表しています。

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
				4科目8単位必修
				4科目8単位選択必修 ■「教育心理学」の受講にあたっては、「人間科学概論」の単位を修得していなければ履修することができません。
[500] 教育学特殊講義(A)A(2)【大宮】	[500] 教育学特殊講義(A)B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[500] 教育学特殊講義(B)A(2)【大宮】	[500] 教育学特殊講義(B)B(2)【大宮】			
[500] 教育学特殊講義(C)A(2)【大宮】	[500] 教育学特殊講義(C)B(2)【大宮】			
[500] 教育学特殊講義(D)A(2)【大宮】	[500] 教育学特殊講義(D)B(2)【大宮】			
[500] 教育学特殊講義(E)A(2)【大宮】	[500] 教育学特殊講義(E)B(2)【大宮】			
[500] 教育学特殊講義(F)A(2)【大宮】	[500] 教育学特殊講義(F)B(2)【大宮】			
[500] 教育学特殊講義(G)A(2)【大宮】	[500] 教育学特殊講義(G)B(2)【大宮】			
[500] 教育学特殊講義(H)A(2)【大宮】	[500] 教育学特殊講義(H)B(2)【大宮】			
[500] 教育学特殊講義(I)A(2)【大宮】	[500] 教育学特殊講義(I)B(2)【大宮】			
[500] 教育学特殊講義(K)A(2)【大宮】	[500] 教育学特殊講義(K)B(2)【大宮】			
[400] 教育学講読A1(2)【大宮】	[400] 教育学講読A2(2)【大宮】			1・2それぞれから1科目2単位(計2科目4単位)選択必修
[400] 教育学講読B2(2)【大宮】	[400] 教育学講読B1(2)【大宮】			
				4科目8単位必修
[400] 教育学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 教育学演習ⅠB(2)【大宮】			2科目4単位選択必修。 同一分野(教育学・教育心理学)でⅠA・ⅠBを履修すること。
[400] 教育心理学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 教育心理学演習ⅠB(2)【大宮】			
		[500] 卒業論文(4)【大宮】		卒業論文4単位及び、同一分野の演習ⅡA・ⅡB(教育学・教育心理学)の4単位、合計8単位必修。
		[500] 教育学演習ⅡA(2)【大宮】	[500] 教育学演習ⅡB(2)【大宮】	
		[500] 教育心理学演習ⅡA(2)【大宮】	[500] 教育心理学演習ⅡB(2)【大宮】	

【歴史学科日本史学専攻カリキュラムマップ】

通説に疑問を持ち、独自の見方・考え方で歴史的事実を解明し、現代社会の問題や自分の生き方を明らかにします。



大学院 日本史学専攻

実社会で活躍する

卒業論文作成

■歴史学科日本史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼歴史学科日本史学専攻の教育理念・目的

日本史の各時代・領域に関する教育・研究を通して、専門知識・技能を修得し、併せて批判的精神と確かな歴史認識をもった歴史の主体として、現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 日本史概説 I A (2)【大宮】	[300] 日本史概説 I B (2)【大宮】
				[300] 日本史概説 II A (2)【大宮】	[300] 日本史概説 II B (2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 日本史学講読F1 (2)【深草】	[300] 日本史学講読F2 (2)【深草】
				[300] 日本史学講読G1 (2)【深草】	[300] 日本史学講読G2 (2)【深草】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 日本史学基礎演習 I A(2)【深草】	[200] 日本史学基礎演習 I B(2)【深草】	[300] 日本史学基礎演習 II A(2)【深草】	[300] 日本史学基礎演習 II B(2)【深草】
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習 I」(3年次)および「演習 II」(4年次)を開講する。				
演習 II 卒業論文					

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

《履修上の注意点》

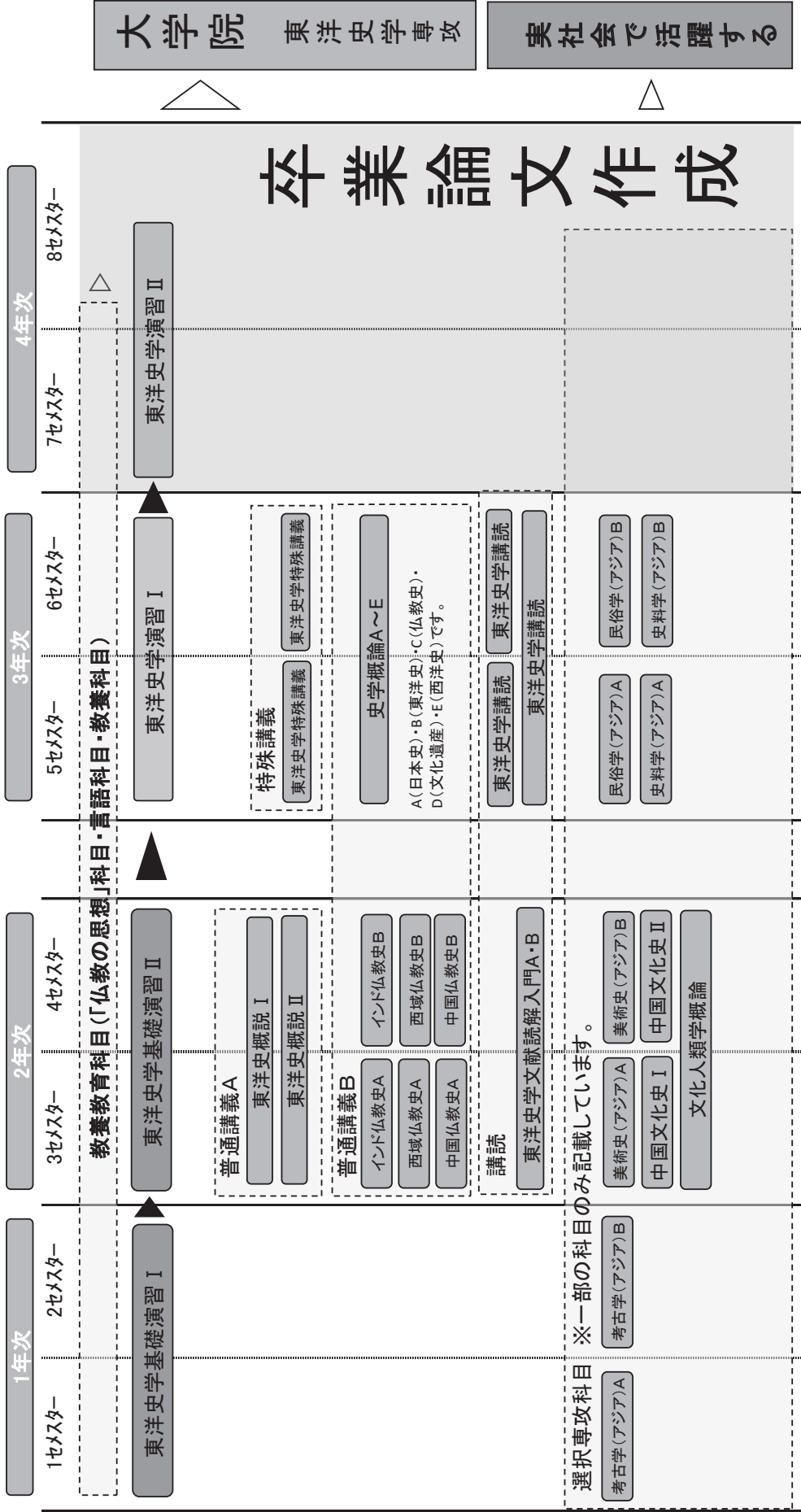
- 「普通講義」のうち「史学概論A～E」を、2科目4単位を超えて修得した単位、または「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は、「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 「日本史学演習Ⅰ」「日本史学演習Ⅱ」「卒業論文」の先修要件について
 - ① 「日本史学演習Ⅰ」の履修については、前年次までに「日本史学基礎演習ⅠA～ⅡB」の中から4単位以上を修得していること。
 - ② 「卒業論文」「日本史学演習Ⅱ」の履修については、前年次までに「日本史学基礎演習ⅠA～ⅡB」の8単位を修得していること。
- 卒業論文（4単位）は、日本史学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

※ [グレイドナンバー] 科目名(単位数)【開講キャンパス】を表しています。

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
[400] 史学概論A(2)【大宮】	[400] 史学概論B(2)【大宮】			史学概論A～Eのうち2科目4単位を含む12単位必修
[400] 史学概論C(2)【大宮】	[400] 史学概論D(2)【大宮】			
[400] 史学概論E(2)【大宮】				
[600] 日本史学特殊講義(A)A(2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(A)B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[600] 日本史学特殊講義(B)A(2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(B)B(2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(C)A(2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(C)B(2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(D)A(2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(D)B(2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(E)A(2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(E)B(2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(F)A(2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(F)B(2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(G)A(2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(G)B(2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(H)A(2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(H)B(2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(I)A(2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(I)B(2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(J)A(2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(J)B(2)【大宮】			
[600] 日本史学特殊講義(K)A(2)【大宮】	[600] 日本史学特殊講義(K)B(2)【大宮】			4科目8単位選択必修
[600] 日本史学講読A1(2)【大宮】	[600] 日本史学講読A2(2)【大宮】			
[600] 日本史学講読B1(2)【大宮】	[600] 日本史学講読B2(2)【大宮】			
[600] 日本史学講読C1(2)【大宮】	[600] 日本史学講読C2(2)【大宮】			
[600] 日本史学講読D1(2)【大宮】	[600] 日本史学講読D2(2)【大宮】			
[400] 日本史学講読E1(2)【大宮】	[400] 日本史学講読E2(2)【大宮】			4科目8単位必修
[400] 日本史学講読H1(2)【大宮】	[400] 日本史学講読H2(2)【大宮】			
				4科目8単位必修
	[400] 日本史学演習Ⅰ(4)【大宮】			1科目4単位必修
		[500] 卒業論文(4)【大宮】		2科目8単位必修
		[500] 日本史学演習Ⅱ(4)【大宮】		

【歴史学科東洋史学専攻カリキュラムマップ】

漢字文化圏やイスラーム文化圏の諸言語を習得しながら、広大なアジア全域の歴史・文化を学び、研究を深めます。



大学院 東洋史学専攻

実社会で活躍する

卒業論文作成

■歴史学科東洋史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼歴史学科東洋史学専攻の教育理念・目的

中国をはじめ、アジア諸地域の歴史・文化・宗教・言語に関する専門的な知識と技能を修得し、明確な歴史認識をもち、広い視野に立ってアジア全体を深く洞察できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 東洋史概説Ⅰ(4)【大宮】	
普通講義B	○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 東洋史概説Ⅱ(4)【大宮】	
普通講義B				[300] インド仏教史A(2)【大宮】	[300] インド仏教史B(2)【大宮】
普通講義B				[300] 西域仏教史A(2)【大宮】	[300] 西域仏教史B(2)【大宮】
普通講義B				[300] 中国仏教史A(2)【大宮】	[300] 中国仏教史B(2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 東洋史学文献読解入門A(2)【深草】	[300] 東洋史学文献読解入門B(2)【深草】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 東洋史学基礎演習Ⅰ(4)【深草】		[300] 東洋史学基礎演習Ⅱ(4)【深草】	
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

《履修上の注意点》

- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」（「東洋史学文献読解入門A・B」を除く）において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、東洋史学演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
				2科目8単位必修
[400] 史学概論A(2)【大宮】	[400] 史学概論B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 史学概論C(2)【大宮】	[400] 史学概論D(2)【大宮】			
[400] 史学概論E(2)【大宮】				
[600] 東洋史学特殊講義(A)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(A)B (2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[600] 東洋史学特殊講義(B)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(B)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(C)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(C)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(D)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(D)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(E)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(E)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(F)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(F)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(G)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(G)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学特殊講義(H)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学特殊講義(H)B (2)【大宮】			
[400] 東洋史学講読(A) (4)【大宮】				「東洋史学文献読解入門A」「東洋史学文献読解入門B」4単位と【3年次以上相当】の講読科目の中から4単位選択必修の合計8単位必修。
[400] 東洋史学講読(B) (4)【大宮】				
[600] 東洋史学講読(C)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学講読(C)B (2)【大宮】			
[400] 東洋史学講読(D)A (2)【大宮】	[400] 東洋史学講読(D)B (2)【大宮】			
[600] 東洋史学講読(E)A (2)【大宮】	[600] 東洋史学講読(E)B (2)【大宮】			
[400] 東洋史学講読(H) (4)【大宮】				
[400] 東洋史学講読(I)A (2)【大宮】	[400] 東洋史学講読(I)B (2)【大宮】			
				2科目8単位必修
[400] 東洋史学演習Ⅰ (4)【大宮】				1科目4単位必修
		[500] 卒業論文(4)【大宮】		2科目8単位必修
		[500] 東洋史学演習Ⅱ (4)【大宮】		

教育課程
学部専攻科目

■歴史学科仏教史学専攻 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼歴史学科仏教史学専攻の教育理念・目的

歴史的な視点に立って、仏教が、それぞれの時代・地域の中でどのように受け入れられ展開してきたのかを考察することにより、歴史的主体として現代社会に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A		[100] 仏教史学入門A(2)【深草】	[200] 仏教史学入門B(2)【深草】	[300] 仏教史概説A1(2)【大宮】	[300] 仏教史概説A2(2)【大宮】
				[300] 仏教史概説B1(2)【大宮】	[300] 仏教史概説B2(2)【大宮】
				[300] 仏教文化史概説A(2)【深草】	[300] 仏教文化史概説B(2)【深草】
普通講義B	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	以下の①～⑦の科目グループから8単位を履修			
				① [300] インド仏教史A(2)【大宮】	[300] インド仏教史B(2)【大宮】
				② [300] 西域仏教史A(2)【大宮】	[300] 西域仏教史B(2)【大宮】
				③ [300] 中国仏教史A(2)【大宮】	[300] 中国仏教史B(2)【大宮】
				④ [300] 日本仏教史A1(2)【大宮】	[300] 日本仏教史A2(2)【大宮】
				⑤ [300] 日本仏教史B1(2)【大宮】	[300] 日本仏教史B2(2)【大宮】
				⑥ [300] 仏教美術史A(2)【大宮】	[300] 仏教美術史B(2)【大宮】
				⑦ [300] 真宗史A(2)【大宮】	[300] 真宗史B(2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次に降りに開講する。			[300] 仏教史学講読F1(2)【深草】	[300] 仏教史学講読F2(2)【深草】
				《2年次のみ》	《2年次のみ》
				[300] 仏教史学講読G1(2)【深草】	[300] 仏教史学講読G2(2)【深草】
				《2年次のみ》	《2年次のみ》
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 仏教史学基礎演習ⅠA(2)【深草】 (後期開講クラスも有)	[200] 仏教史学基礎演習ⅠB(2)【深草】 (前期開講クラスも有)	[300] 仏教史学基礎演習ⅡA(2)【深草】 (後期開講クラスも有)	[300] 仏教史学基礎演習ⅡB(2)【深草】 (前期開講クラスも有)
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

《履修上の注意点》

- 「普通講義A」のうち「仏教史学入門A」「仏教史学入門B」（合計4単位）以外で、規定の単位を超えて修得した単位は、「選択専攻科目」となります。
- 「普通講義B」で、2科目グループ・8単位を超えて修得した場合は「選択専攻科目」となります。
- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A1」を修得した次年度に「講読A1」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、仏教史学演習ⅡA・ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

※ [グレイドナンバー] 科目名(単位数)【開講キャンパス】を表しています。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
[400] 史学概論A(2)【大宮】	[400] 史学概論B(2)【大宮】			「仏教史学入門A」「仏教史学入門B」4単位と「仏教史学入門」4単位を除く普通講義Aの中から4単位選択必修の合計8単位必修。
[400] 史学概論C(2)【大宮】	[400] 史学概論D(2)【大宮】			
[400] 史学概論E(2)【大宮】				
				①～⑦の科目グループから8単位選択必修
[400] 仏教史学特殊講義A1(2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義A2(2)【大宮】			4単位選択必修
[400] 仏教史学特殊講義B1(2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義B2(2)【大宮】			
[600] 仏教史学特殊講義C1(2)【大宮】	[600] 仏教史学特殊講義C2(2)【大宮】			
[400] 仏教史学特殊講義D1(2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義D2(2)【大宮】			
[600] 仏教史学特殊講義E1(2)【大宮】	[600] 仏教史学特殊講義E1(2)【大宮】			
[400] 仏教史学特殊講義F1(2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義F2(2)【大宮】			
[400] 仏教史学特殊講義G1(2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義G2(2)【大宮】			
[400] 仏教史学特殊講義H1(2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義H2(2)【大宮】			
[400] 仏教史学特殊講義I1(2)【大宮】	[400] 仏教史学特殊講義I2(2)【大宮】			年次指定《2年次のみ》4単位及び《3年次以上》履修可能な講読4単位の合計8単位必修。 年次指定が《2年次のみ》の「講読」を修得できなかった場合は、年次指定《3年次以上》の科目で修得しなければなりません。
[600] 仏教史学講読A1(2)【大宮】	[600] 仏教史学講読A2(2)【大宮】			
[600] 仏教史学講読B1(2)【大宮】	[600] 仏教史学講読B2(2)【大宮】			
[400] 仏教史学講読C1(2)【大宮】	[400] 仏教史学講読C2(2)【大宮】			
[400] 仏教史学講読D1(2)【大宮】	[400] 仏教史学講読D2(2)【大宮】			
[400] 仏教史学講読E1(2)【大宮】	[400] 仏教史学講読E2(2)【大宮】			4科目8単位必修
[400] 仏教史学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 仏教史学演習ⅠB(2)【大宮】			2科目4単位必修
		[500] 卒業論文(4)【大宮】		3科目8単位必修
		[500] 仏教史学演習ⅡA(2)【大宮】	[500] 仏教史学演習ⅡB(2)【大宮】	

【歴史学科文化遺産学専攻カリキュラムマップ】

現代まで引き継がれてきた歴史遺産を分析・研究し、将来に残して活用する技術と方法を実践的に習得します。

1年次		2年次		3年次		4年次	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
文化遺産学基礎演習A 普通講義A 文化遺産学概論A 博物館概論	文化遺産学基礎演習B 文化遺産学概論B 博物館資料論	文化遺産学基礎演習C 考古学実習 文化遺産学概説	文化遺産学基礎演習D 文化遺産学概説 普通講義B 日本史概説IA 日本史概説IIA 東洋史概説I 東洋史概説II 仏教史概説A1/B1 講読 古文書学講読A	文化遺産学演習IA 文化財実習 史学概論A~E A(日本史)・B(東洋史)・C(仏教史)・D(文化遺産)・E(西洋史)となっています。	文化遺産学演習IB 文化財実習 史学概論A~E A(日本史)・B(東洋史)・C(仏教史)・D(文化遺産)・E(西洋史)となっています。	文化遺産学演習IIA 文化財実習 文化財資料講読B 日本考古学講読B 文化財科学講読B	文化遺産学演習IIB 文化財実習 文化財資料講読A 文献史学特殊講義A 考古学特殊講義A 美術史特殊講義A 文化財科学特殊講義A 文化財行政特殊講義A
選択専攻科目 ※一部の科目のみ記載しています。 (博)生涯学習概論 博物館教育論	建築史概論 博物館資料保存論 博物館展示論 博物館情報・メディア論	工芸史概論 博物館資料保存論 博物館展示論 博物館情報・メディア論	工芸史概論 博物館資料保存論 博物館展示論 博物館情報・メディア論	工芸史特殊講義B 考古学特殊講義B 美術史特殊講義B 文化財科学特殊講義B 文化財行政特殊講義B	工芸史特殊講義B 考古学特殊講義B 美術史特殊講義B 文化財科学特殊講義B 文化財行政特殊講義B	工芸史特殊講義B 考古学特殊講義B 美術史特殊講義B 文化財科学特殊講義B 文化財行政特殊講義B	工芸史特殊講義B 考古学特殊講義B 美術史特殊講義B 文化財科学特殊講義B 文化財行政特殊講義B
卒業論文作成							
大学院							
実社会で活躍する							
随意科目 ※一部の科目のみ記載しています。 博物館実習							

■歴史学科文化遺産学専攻 専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼歴史学科文化遺産学専攻の教育理念・目的

文化遺産の歴史的意義を考え、将来へと守り伝えるための方法と技法を習得し、地域の文化的媒体として活用できる人材を育成する。あわせて、文化財の調査・研究、その保存と活用を行うための専門教育を通して、仏教美術・寺院建築・仏教儀礼等に向き合い、「建学の精神」を体現した自主的判断能力を持つ感受性の豊かな専門家を育成する。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A		[100] 文化遺産学概論A(2)【深草】	[200] 文化遺産学概論B(2)【深草】	[300] 考古学実習(2)【大宮】	
		[100] 博物館概論(2)【深草】	[200] 博物館資料論(2)【深草】	[300] 文化遺産学概説(4)【深草】	
普通講義B	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。			[300] 日本史概説IA(2)【大宮】	[300] 日本史概説IB(2)【大宮】
				[300] 日本史概説IIA(2)【大宮】	[300] 日本史概説IIB(2)【大宮】
				[300] 東洋史概説I(4)【大宮】	
				[300] 東洋史概説II(4)【大宮】	
				[300] 仏教史概説A1(2)【大宮】	[300] 仏教史概説A2(2)【大宮】
				[300] 仏教史概説B1(2)【大宮】	[300] 仏教史概説B2(2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 古文書学講読A(2)【深草】	[300] 古文書学講読B(2)【深草】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	[200] 文化遺産学基礎演習A(2)【深草】	[200] 文化遺産学基礎演習B(2)【深草】	[300] 文化遺産学基礎演習C(2)【深草】	[300] 文化遺産学基礎演習D(2)【深草】
演習I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習I」(3年次)および「演習II」(4年次)を開講する。				
演習II					
卒業論文					

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

《履修上の注意点》

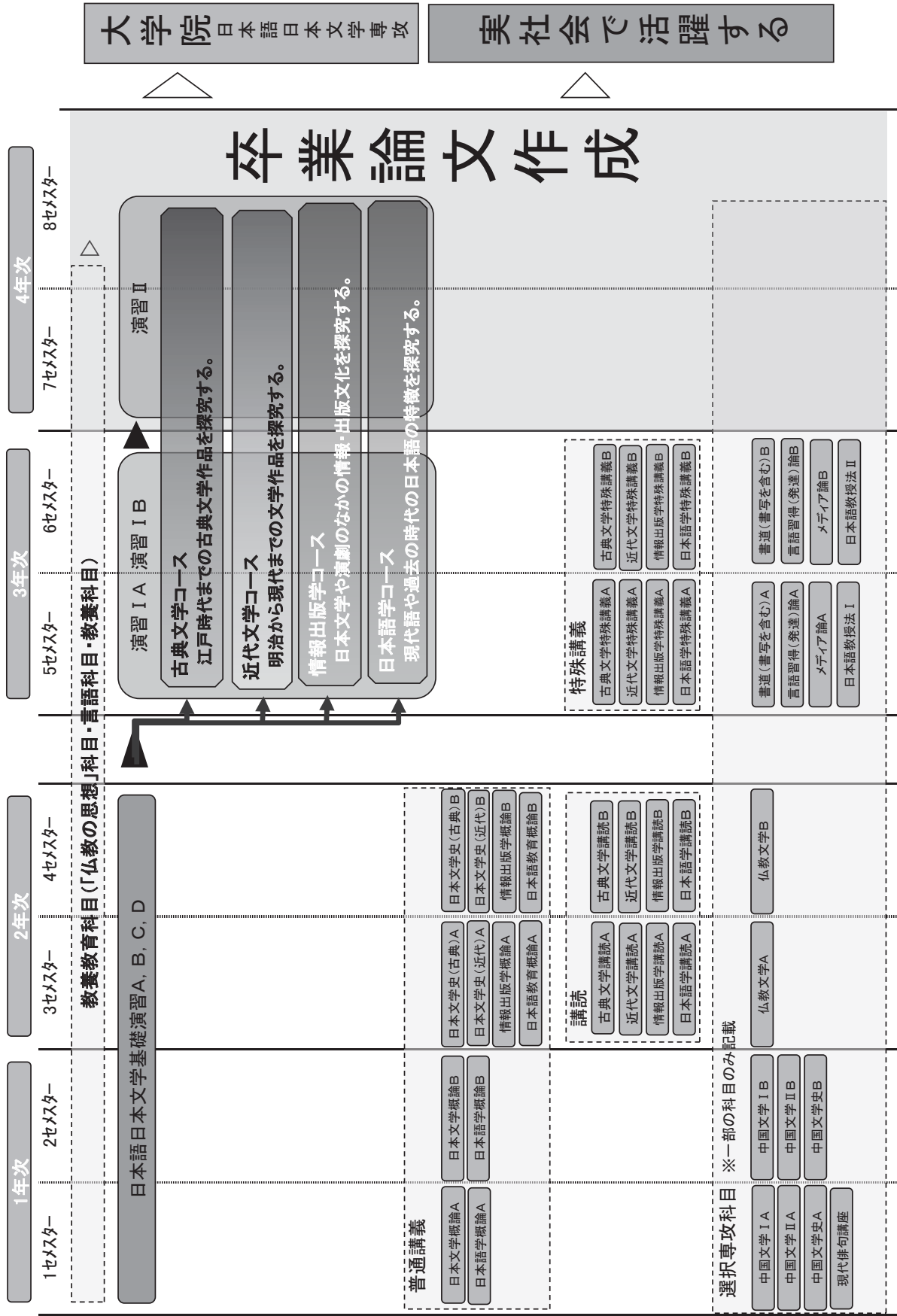
- 「普通講義B」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読A」を修得した次年度に「講読A」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、文化遺産学演習ⅡA・ⅡBを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

3年次		4年次		履修規定
第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
[400] 文化財実習(2)【大宮】				7科目16単位必修
[400] 史学概論A(2)【大宮】	[400] 史学概論B(2)【大宮】			8単位選択必修
[400] 史学概論C(2)【大宮】	[400] 史学概論D(2)【大宮】			
[400] 史学概論E(2)【大宮】				
[400] 文献史学特殊講義A(2)【大宮】	[600] 文献史学特殊講義B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 考古学特殊講義A(2)【大宮】	[400] 考古学特殊講義B(2)【大宮】			
[400] 美術史特殊講義A(2)【大宮】	[400] 美術史特殊講義B(2)【大宮】			
[400] 文化財科学特殊講義A(2)【大宮】	[400] 文化財科学特殊講義B(2)【大宮】			
[400] 文化財行政特殊講義A(2)【大宮】	[400] 文化財行政特殊講義B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[400] 文化財資料講読A(2)【大宮】	[400] 文化財資料講読B(2)【大宮】			
[400] 日本考古学講読A(2)【大宮】	[400] 日本考古学講読B(2)【大宮】			
[400] 文化財科学講読A(2)【大宮】	[400] 文化財科学講読B(2)【大宮】			4科目8単位必修
[400] 文化遺産学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 文化遺産学演習ⅠB(2)【大宮】			2科目4単位必修
		[500] 文化遺産学演習ⅡA(2)【大宮】	[500] 文化遺産学演習ⅡB(2)【大宮】	2科目4単位必修
		[500] 卒業論文(4)【大宮】		1科目4単位必修

【日本語日本文学科カリキュラムマップ】

豊富な古典籍、貴重な資料に囲まれ日本の「言語文化」を学び、日本語・日本文学や情報出版文化の過去・現在・未来を考えます。



大学院 日本語日本文学専攻

実社会で活躍する

■日本語日本文学科 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼日本語日本文学科の教育理念・目的

日本語の正しい理解力、日本の言語文化に関する専門的読解力、論理的思考力、および表現力を修得し、「ことば」によって成り立つ社会の持続的発展に主体的に貢献できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[100] 日本文学概論A(2)【深草】	[200] 日本文学概論B(2)【深草】	[300] 日本文学史(古典)A(2)【大宮】	[300] 日本文学史(古典)B(2)【大宮】
		[100] 日本語学概論A(2)【深草】	[200] 日本語学概論B(2)【深草】	[300] 日本文学史(近代)A(2)【大宮】	[300] 日本文学史(近代)B(2)【大宮】
				[300] 情報出版学概論A(2)【大宮】	[300] 情報出版学概論B(2)【大宮】
				[300] 日本語教育概論A(2)【大宮】	[300] 日本語教育概論B(2)【大宮】
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。			[300] 情報出版学特殊講義(A)A(2)【大宮】	[300] 情報出版学特殊講義(A)B(2)【大宮】
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。			[300] 古典文学講読(A)A(2)【深草】	[300] 古典文学講読(A)B(2)【深草】
				[300] 古典文学講読(B)A(2)【大宮】	[300] 古典文学講読(B)B(2)【大宮】
				[300] 古典文学講読(C)A(2)【大宮】	[300] 古典文学講読(C)B(2)【大宮】
				[300] 古典文学講読(D)A(2)【大宮】	[300] 古典文学講読(D)B(2)【大宮】
				[300] 近代文学講読(A)A(2)【大宮】	[300] 近代文学講読(A)B(2)【大宮】
				[300] 近代文学講読(B)A(2)【大宮】	[300] 近代文学講読(B)B(2)【大宮】
				[300] 近代文学講読(C)A(2)【深草】	[300] 近代文学講読(C)B(2)【深草】
				[300] 情報出版学講読(A)A(2)【大宮】	[300] 情報出版学講読(A)B(2)【大宮】
				[300] 情報出版学講読(B)A(2)【深草】	[300] 情報出版学講読(B)B(2)【深草】
				[300] 情報出版学講読(C)A(2)【大宮】	[300] 情報出版学講読(C)B(2)【大宮】
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探すこと」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	A～Dはクラスにより履修する順序が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。			
		[200] 日本語日本文学基礎演習A(2)【深草】	[200] 日本語日本文学基礎演習B(2)【深草】	[300] 日本語日本文学基礎演習C(2)【深草】	[300] 日本語日本文学基礎演習D(2)【深草】
演習Ⅰ	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習Ⅰ」(3年次)および「演習Ⅱ」(4年次)を開講する。				
演習Ⅱ 卒業論文					

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

《履修上の注意点》

- 「普通講義」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 日本語日本文学基礎演習A～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。
- 卒業論文（4単位）は、演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

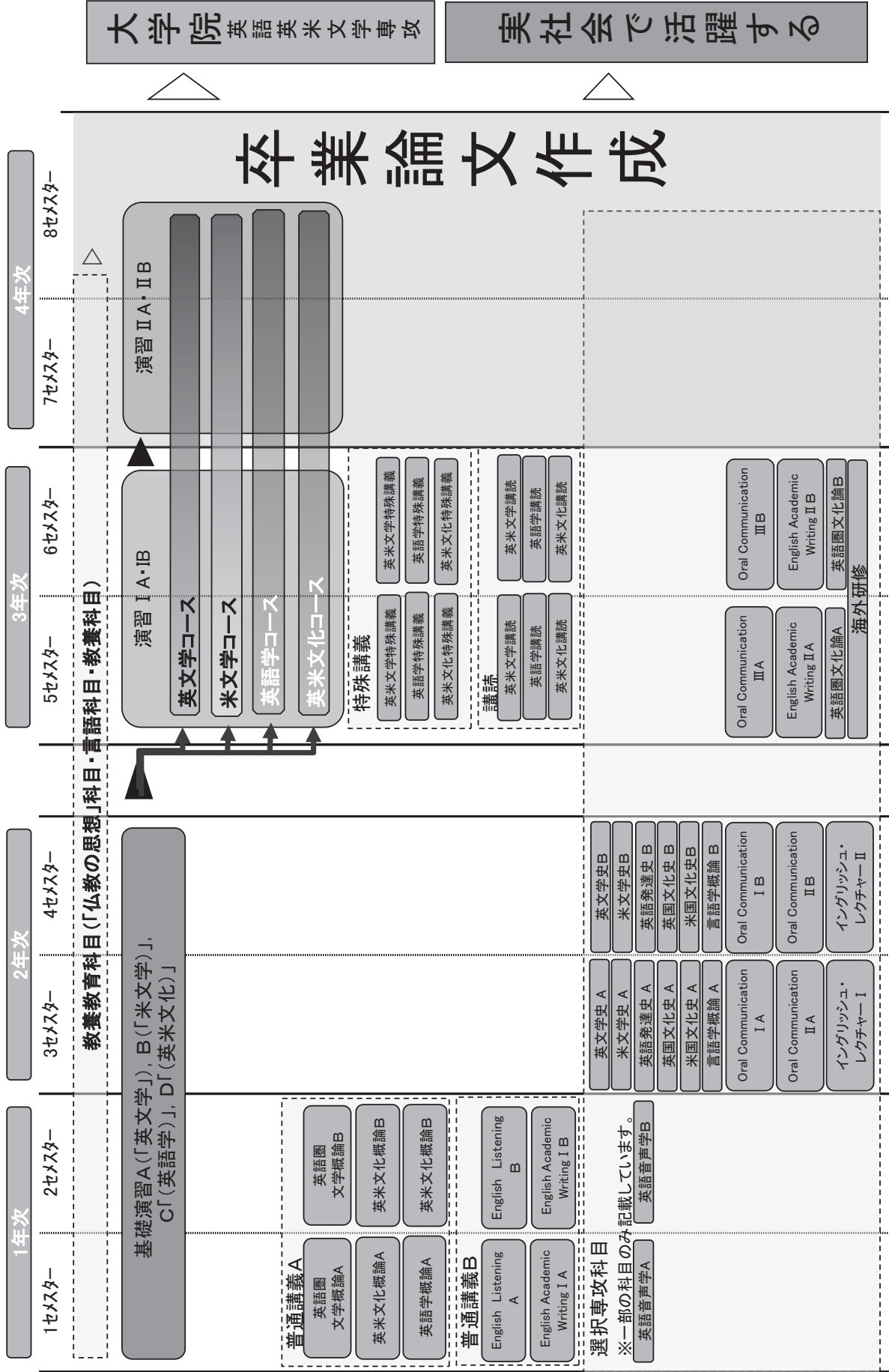
※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

3年次		4年次		履修規定
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
				6科目12単位選択必修
[600] 古典文学特殊講義(A)A(2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(A)B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修
[600] 古典文学特殊講義(B)A(2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(B)B(2)【大宮】			
[400] 古典文学特殊講義(C)A(2)【大宮】	[400] 古典文学特殊講義(C)B(2)【大宮】			
[400] 古典文学特殊講義(D)A(2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(D)B(2)【大宮】			
[600] 古典文学特殊講義(E)A(2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(E)B(2)【大宮】			
[600] 古典文学特殊講義(F)A(2)【大宮】	[600] 古典文学特殊講義(F)B(2)【大宮】			
[400] 近代文学特殊講義(A)A(2)【大宮】	[400] 近代文学特殊講義(A)B(2)【大宮】			
[400] 近代文学特殊講義(B)A(2)【大宮】	[400] 近代文学特殊講義(B)B(2)【大宮】			
[400] 近代文学特殊講義(C)A(2)【大宮】	[400] 近代文学特殊講義(C)B(2)【大宮】			
[400] 情報出版学特殊講義(B)A(2)【大宮】	[400] 情報出版学特殊講義(B)B(2)【大宮】			
[600] 情報出版学特殊講義(C)A(2)【大宮】	[600] 情報出版学特殊講義(C)B(2)【大宮】			
[400] 情報出版学特殊講義(D)A(2)【大宮】	[400] 情報出版学特殊講義(D)B(2)【大宮】			
[400] 日本語特殊講義(A)A(2)【大宮】	[400] 日本語特殊講義(A)B(2)【大宮】			
[400] 日本語特殊講義(B)A(2)【大宮】	[400] 日本語特殊講義(B)B(2)【大宮】			
[600] 日本語特殊講義(C)A(2)【大宮】	[600] 日本語特殊講義(C)B(2)【大宮】			
[400] 日本語特殊講義(D)A(2)【大宮】	[400] 日本語特殊講義(D)B(2)【大宮】			
				4科目8単位選択必修
				4科目8単位必修
[400] 古典文学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 古典文学演習ⅠB(2)【大宮】			2科目4単位選択必修。 同一分野(古典文学、近代文学、情報出版学、日本語学)でⅠA・ⅠBを履修すること。
[400] 近代文学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 近代文学演習ⅠB(2)【大宮】			
[400] 情報出版学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 情報出版学演習ⅠB(2)【大宮】			
[400] 日本語学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 日本語学演習ⅠB(2)【大宮】			
		[500] 卒業論文(4)【大宮】		卒業論文4単位及び、同一分野の演習Ⅱ(古典文学、近代文学、情報出版学、日本語学)の4単位、合計8単位必修。
		[500] 古典文学演習Ⅱ(4)【大宮】		
		[500] 近代文学演習Ⅱ(4)【大宮】		
		[500] 情報出版学演習Ⅱ(4)【大宮】		
		[500] 日本語学演習Ⅱ(4)【大宮】		

教育課程
学部専攻科目

【英語英米文学科カリキュラムマップ】

ネイティブ教員の授業で英語コミュニケーション能力を育成。また、学生の興味に応じて英米文学や文化、言語学などを学びます。



大学院 英語英米文学専攻

実社会で活躍する

卒業論文作成

■英語英米文学科 必修専攻科目 科目区分別 開設科目一覧

▼英語英米文学科の教育理念・目的

英国・米国をはじめとする英語圏に関する言語・文学・文化についての知識を修得し、広い視野に立って英語圏地域を深く洞察する能力を身に付け、国際化する現代社会の諸問題に対応できる人間を育成することを目的とする。

▼必修専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針

- 特に、必修である卒業論文を4年間の学修の集大成として位置づけ、それにむけて各学科・専攻のコアとなる科目群を「普通講義」「特殊講義」「講読」「基礎演習」「演習」に分類して年次指定も含めてバランスよく配置し、人文学の各分野の専門領域を体系的に学べるようにする。
- 課題の探求から発見、追究を経て解決へといたる学修のプロセスに必要な作法や知識、あるいは研究方法や思考力を養うために、4年間を通じて「演習」科目を必修として開講する。

区分	教育課程編成・実施の方針	1年次		2年次	
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
普通講義A	○各学科・専攻の学修を進める上での基礎的・全般的な知識や思考を修得するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。 ○各学科・専攻の専門領域の基礎的な知識・思考を踏まえて人間社会に対する問題意識を醸成するために、概説・概論等を行う「普通講義」科目を開講する。	[100] 英語圏文学概論A(2)【両学舎】 [100] 英米文化概論A(2)【両学舎】 [100] 英語学概論A(2)【両学舎】	[200] 英語圏文学概論B(2)【両学舎】 [200] 英米文化概論B(2)【両学舎】 [200] 英語学概論B(2)【両学舎】		
普通講義B		[100] English Listening A(1)【深草】 [100] English Academic Writing I A(1)【深草】	[200] English Listening B(1)【深草】 [200] English Academic Writing I B(1)【深草】		
特殊講義	1・2年次で学んだ各学科・専攻の専門分野の基本を踏まえて、さらに学修の専門化・深化をはかるために、特定のテーマを取り上げる「特殊講義」を3年次から開講する。				
講読	各学科・専攻の専門分野の基礎的な文献を読解する能力の養成をはかり、それによって人文学の幅広い教養を身につけることができるように、「講読」科目を2年次以降に開講する。				
基礎演習	「読むこと」「書くこと」「探ること」「発表すること」等、大学での学びの基本的な方法やツール等を習得し、基礎的学修能力を養成するために、「基礎演習」(1・2年次)を開講する。	A～Dはクラスにより履修登録を行う順番が異なります。時間割表で登録する科目を確認してください。 [200] 英語英米文学基礎演習A (「英文学」)(2)【深草】 [200] 英語英米文学基礎演習B (「米文学」)(2)【深草】 [200] 英語英米文学基礎演習C (「英語学」)(2)【深草】 [200] 英語英米文学基礎演習D (「英米文化」)(2)【深草】			
演習 I	学生が自主的に設定した学修テーマに基づく発表とディスカッション、レポート作成等を通じて、課題を追究し、解決へと至る能力を養成するために、「演習 I」(3年次)および「演習 II」(4年次)を開講する。				
演習 II 卒業論文					

※年度により、開講されない科目、開講期が変更となる科目があります。時間割表をよく確認してください。

教育課程
学部専攻科目

《履修上の注意点》

- 「普通講義A」「特殊講義」「講読」において規定の単位を超えて修得した単位は「選択専攻科目」となります。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。
- 卒業論文（4単位）は、演習Ⅱを同時に登録または単位修得済みでないと登録できません。

※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

3年次		4年次		履修規定	
第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester		
				4科目8単位選択必修	
				4科目4単位必修	
[400] 英米文学特殊講義(A)A(2)【大宮】	[400] 英米文学特殊講義(A)B(2)【大宮】			2科目4単位選択必修	
[600] 英米文学特殊講義(B)A(2)【大宮】	[600] 英米文学特殊講義(B)B(2)【大宮】				
[400] 英米文学特殊講義(C)A(2)【大宮】	[400] 英米文学特殊講義(C)B(2)【大宮】				
[400] 英米文学特殊講義(D)A(2)【大宮】	[400] 英米文学特殊講義(D)B(2)【大宮】				
[400] 英米文学特殊講義(E)A(2)【大宮】	[400] 英米文学特殊講義(E)B(2)【大宮】				
[400] 英語学特殊講義(A)A(2)【大宮】	[400] 英語学特殊講義(A)B(2)【大宮】				
[400] 英米文化特殊講義(A)A(2)【大宮】	[400] 英米文化特殊講義(A)B(2)【大宮】				
[400] 英米文化特殊講義(B)A(2)【大宮】	[400] 英米文化特殊講義(B)B(2)【大宮】				
[400] 英米文学講読(A)A(2)【大宮】	[400] 英米文学講読(A)B(2)【大宮】				4科目8単位選択必修
[400] 英米文学講読(B)A(2)【大宮】	[400] 英米文学講読(B)B(2)【大宮】				
[400] 英米文学講読(C)A(2)【大宮】	[400] 英米文学講読(C)B(2)【大宮】				
[400] 英米文学講読(D)A(2)【大宮】	[400] 英米文学講読(D)B(2)【大宮】				
[400] 英米文学講読(E)A(2)【大宮】	[400] 英米文学講読(E)B(2)【大宮】				
[400] 英語学講読(A)A(2)【大宮】	[400] 英語学講読(A)B(2)【大宮】				
[400] 英語学講読(B)A(2)【大宮】	[400] 英語学講読(B)B(2)【大宮】				
[400] 英米文化講読(A)A(2)【大宮】	[400] 英米文化講読(A)B(2)【大宮】				
[400] 英米文化講読(B)A(2)【大宮】	[400] 英米文化講読(B)B(2)【大宮】				
				4科目8単位必修	
[400] 英文学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 英文学演習ⅠB(2)【大宮】			2科目4単位選択必修。 同一分野(英文学、米文学、英語学、 英米文化)でⅠA・ⅠBを履修すること。	
[400] 米文学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 米文学演習ⅠB(2)【大宮】				
[400] 英語学演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 英語学演習ⅠB(2)【大宮】				
[400] 英米文化演習ⅠA(2)【大宮】	[400] 英米文化演習ⅠB(2)【大宮】				
		[500] 卒業論文(4)【大宮】		卒業論文4単位及び、同一分野の演習ⅡA・ⅡB(英文学・米文学・英語学・英米文化)の4単位、合計8単位必修。	
		[500] 英文学演習ⅡA(2)【大宮】	[500] 英文学演習ⅡB(2)【大宮】		
		[500] 米文学演習ⅡA(2)【大宮】	[500] 米文学演習ⅡB(2)【大宮】		
		[500] 英語学演習ⅡA(2)【大宮】	[500] 英語学演習ⅡB(2)【大宮】		
		[500] 英米文化演習ⅡA(2)【大宮】	[500] 英米文化演習ⅡB(2)【大宮】		

2. 選択専攻科目 開設科目一覧

■履修方法

- 以下の表から自由に選択し、24単位以上（哲学科哲学専攻・歴史学科仏教史学専攻は20単位以上、歴史学科文化遺産学専攻は16単位以上）を修得しなければなりません。規定の単位を超えて修得した単位は、「フリーゾーン」の単位として卒業要件単位に含めることができます。
- 各学科・専攻ごとに定められた必修専攻科目の規定の単位を満たし、それを超えて修得した必修専攻科目については、選択専攻科目として扱われます（下表の備考欄に詳細は記載しています）。
- 「特殊講義」「講読」は、修得済みの場合でも繰り返して履修登録することができます。例えば、「講読（A）」を修得した次年度に「講読（A）」を再度履修登録することができます。

	1年次		2年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
真宗学科関係科目	真宗学科必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、			
	[200] 真宗学概論B1(2)【深草】	[200] 真宗学概論B2(2)【深草】		
	[200] 真宗教団史(4)【深草】			
仏教学科関係科目	仏教学科必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、特殊講義、			
	[100] 仏教美術(イコノロジー)入門A(2)【深草】	[200] 仏教美術(イコノロジー)入門B(2)【深草】	[300] サンスクリット語仏典入門B1(2)【大宮】	[300] サンスクリット語仏典入門B2(2)【大宮】※
	[100] アジアの仏教と文化(2)【深草】	[200] 日本の仏教と文化(2)【深草】	[300] チベット語仏典入門B1(2)【大宮】	[300] チベット語仏典入門B2(2)【大宮】※
	[100] サンスクリット語仏典入門A1(2)【深草】	[200] サンスクリット語仏典入門A2(2)【深草】※	[300] パーリ語仏典入門A(2)【大宮】	[300] パーリ語仏典入門B(2)【大宮】※
	[100] チベット語仏典入門A1(2)【深草】	[200] チベット語仏典入門A2(2)【深草】※	[300] 仏教漢文の世界A(2)【深草】	[300] 仏教漢文の世界B(2)【深草】
			[300] 古都の仏教(2)【深草】※	[300] 仏教と人生の課題(2)【深草】
			[300] 世界の仏教(2)【深草】※	
			[300] 仏教学概論B1(2)【深草】	[300] 仏教学概論B2(2)【深草】
			[300] 宗教史A(2)【大宮】	[300] 宗教史B(2)【大宮】
哲学科哲学専攻関係科目	哲学科哲学専攻必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、特殊講義、			
	[200] 宗教と倫理(2) 【キャンパスプラザ京都】	[200] 宗教と平和(2) 【キャンパスプラザ京都】	[300] 宗教学概説A(2)【大宮】	[300] 宗教学概説B(2)【大宮】
			[300] 現代倫理学特論(2)【大宮】	[300] 社会哲学(2)【深草】
			[300] 論理学特論(2)【大宮】	[300] 形而上学特論(2)【大宮】
			[300] 現代哲学特論(2)【大宮】	[300] 科学哲学(2)【深草】
哲学科教育学専攻関係科目	哲学科教育学専攻必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、			
	[200] 現代社会論(4)【深草】		[300] 矯正教育論Ⅰ(2)【深草】	[300] 矯正教育論Ⅱ(2)【深草】
		[200] 心理学史(2)【深草】		[200] 発達心理学(2)【深草】
				[300] 教育哲学(2)【大宮】
			[300]「環境教育学」(2)【大宮】	
			[300]「共生教育学」(2)【大宮】	
			[300]「教育メディア論」(2)【大宮】	
			(半期開講)	
			※開講期は時間割を確認してください	
歴史学科関係科目	歴史学科日本史学専攻必修専攻科目：普通講義、			
	歴史学科東洋史学専攻必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、特殊講義、			
	歴史学科仏教史学専攻必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、特殊講義、			
	歴史学科文化遺産学専攻必修専攻科目：普通講義A、普通講義B、特殊講義、			
	[200] 考古学(日本)A(2)【深草】	[200] 考古学(日本)B(2)【深草】	[300] 美術史(日本)A(2)【大宮】	[300] 美術史(日本)B(2)【大宮】
	[200] 考古学(アジア)A(2)【深草】	[200] 考古学(アジア)B(2)【深草】	[300] 美術史(アジア)A(2)【大宮】	[300] 美術史(アジア)B(2)【大宮】
	[200] 古文書学入門A(2)【深草】※	[200] 古文書学入門B(2)【深草】※	[300] 日本文化史Ⅰ(2)【深草】	[300] 日本文化史Ⅱ(2)【深草】
			[300] 中国文化史Ⅰ(2)【深草】	[300] 中国文化史Ⅱ(2)【深草】
			[300] 文化人類学概論(4)【大宮】	
			[300] 日本宗教史A(2)【大宮】	[300] 日本宗教史B(2)【大宮】
			[300] 建築史概論(2)【大宮】	[300] 工芸史概論(2)【大宮】

▼選択専攻科目に関する教育課程編成・実施の方針《抜粋》

○学生の多様な興味・関心を喚起し、学修意欲を促進するために、どの科目を履修するかはすべて学生の選択に任せられている「選択科目」を開講する。

※ [グレイドナンバー] 科目名 (単位数) 【開講キャンパス】を表しています。

3年次		備考
第5セメスター	第6セメスター	
特殊講義、講読の科目		真宗学科以外の学生
[400] 布教伝道論Ⅰ(2)【大宮】	[400] 布教伝道論Ⅱ(2)【大宮】	
[400] 文書伝道論Ⅰ(2)【大宮】	[400] 文書伝道論Ⅱ(2)【大宮】	
講読(仏教漢文入門A・Bを除く)の科目		仏教学科以外の学生
[400] 仏教と異思想A(2)【大宮】	[400] 仏教と異思想B(2)【大宮】	■語学科目の先修制について サンスクリット語仏典入門A2・B2、チベット語仏典入門A2・B2、パーリ語仏典入門Bの受講にあたっては、それぞれA1・B1、Aの科目の単位を修得していなければ履修することができません。 ■「古都の仏教」、「世界の仏教」は隔年開講。
[400] インドの仏教と文化A(2)【大宮】	[400] インドの仏教と文化B(2)【大宮】	
[400] 仏典情報研究論A(2)【大宮】	[400] 仏典情報研究論B(2)【大宮】	
[400] 現代アジアの仏教と社会A(2)【大宮】	[400] 現代アジアの仏教と社会B(2)【大宮】	
[400] 仏教と日本の文化A(4)【大宮】		
[400] 仏教と日本の文化C(2)【大宮】	[400] 仏教と日本の文化B(2)【大宮】	
	[400] 仏教と日本の文化D(2)【大宮】	
講読(3年次以上受講可能な科目のみ)の科目		哲学科哲学専攻以外の学生
[400] 美学概説(2)【大宮】	[400] キリスト教神学(2)【大宮】	
	[400] 聖書研究(2)【大宮】	
特殊講義、講読の科目		哲学科教育学専攻以外の学生
[600] 教育行政学A(2)【大宮】	[600] 教育行政学B(2)【大宮】	■「学習心理学」「認知心理学」の受講にあたっては、「人間科学概論」の単位を修得していなければ履修することができません。
[400] 社会教育計画(4)【大宮】		
[400] 社会教育特講Ⅰ(4)【大宮】		
[400] 社会教育特講Ⅱ(4)【大宮】		
[400] 社会教育特講Ⅲ(4)【大宮】		
[400] 学習心理学(2)【大宮】※	[400] 教育心理学研究法(2)【大宮】	
	[300] 認知心理学(2)【大宮】※	
	[300] 特別支援教育論(2)【大宮】	
[200]「社会調査統計法」【大宮】(半期開講)		
※開講期は時間割を確認してください		
特殊講義、講読の科目		歴史学科日本史学専攻以外の学生
講読(3年次以上受講可能な科目のみ)の科目		歴史学科東洋史学専攻以外の学生
講読(3年次以上受講可能な科目のみ)の科目		歴史学科仏教史学専攻以外の学生
講読(受講指定された科目を除く)の科目		歴史学科文化遺産学専攻以外の学生
[400] 民俗学(日本)A(2)【大宮】	[400] 民俗学(日本)B(2)【大宮】	■「古文書学入門A・B」は、歴史学科日本史学専攻の学生のみ受講可。
[400] 民俗学(アジア)A(2)【大宮】	[400] 民俗学(アジア)B(2)【大宮】	
[400] 史料学(日本)A(2)【大宮】	[400] 史料学(日本)B(2)【大宮】	
[400] 史料学(アジア)A(2)【大宮】	[400] 史料学(アジア)B(2)【大宮】	
[400] 古文書学A(2)【大宮】	[400] 古文書学B(2)【大宮】	
[400] 社会事業史(4)【大宮】		

日本語日本文学科関係科目	日本語日本文学科専攻必修専攻科目:普通講義、			
	[100] 中国文学ⅠA(2)【深草】※	[200] 中国文学ⅠB(2)【深草】※	[300] 仏教文学A(2)【大宮】	[300] 仏教文学B(2)【大宮】
	[100] 中国文学ⅡA(2)【大宮】※	[200] 中国文学ⅡB(2)【大宮】※	[300] 情報処理法Ⅰ(2)【両学舎】	[300] 情報処理法Ⅱ(2)【両学舎】
	[100] 中国文学史A(2)【大宮】	[200] 中国文学史B(2)【大宮】	[300] 画像映像処理法Ⅰ(2)【大宮】	[300] 画像映像処理法Ⅱ(2)【大宮】
	[100] 現代俳句講座(2)【深草】			
英語英米文学科関係科目	英語英米文学科専攻必修専攻科目:普通講義A、			
	[200] 英語音声学A(2)【深草】	[200] 英語音声学B(2)【深草】	[300] 英文学史A(2)【大宮】	[300] 英文学史B(2)【大宮】
			[300] 米文学史A(2)【大宮】	[300] 米文学史B(2)【大宮】
			[300] 英語発達史A(2)【大宮】	[300] 英語発達史B(2)【大宮】
			[300] 英国文化史A(2)【大宮】	[300] 英国文化史B(2)【大宮】
			[300] 米国文化史A(2)【大宮】	[300] 米国文化史B(2)【大宮】
			[300] 言語学概論A(2)【大宮】	[300] 言語学概論B(2)【大宮】
			[300] Oral CommunicationⅠA(2)【両学舎】	[300] Oral CommunicationⅠB(2)【両学舎】
			[300] Oral CommunicationⅡA(2)【大宮】	[300] Oral CommunicationⅡB(2)【大宮】
			[300] イングリッシュ・レクチャー(英米の ポップ・カルチャー)Ⅰ(2)【深草】	[300] イングリッシュ・レクチャー(英米の ポップ・カルチャー)Ⅱ(2)【深草】
教職課程関係科目	[100] 教育情報処理演習(2)【両学舎】	[100] 教育情報処理演習(2)【両学舎】	[300] 日本史A(2)【大宮】	[300] 日本史B(2)【大宮】
	前期・後期の両方に開講されます。		[300] 東洋史A(2)【大宮】	[300] 東洋史B(2)【大宮】
			[300] 西洋史(4)【大宮】	
			[300] 人文地理学(4)【大宮】	
			[300] 歴史地理学(4)【大宮】	
			[300] 社会学概説(4)【大宮】	
博物館学芸員課程関係科目	[100] (博)生涯学習概論(2)【深草】	[200] 博物館資料論(2)【深草】	[300] 博物館経営論(2)【大宮】	[300] 博物館資料保存論(2)【大宮】
	[100] 博物館概論(2)【深草】			[300] 博物館展示論(2)【大宮】
	[100] 博物館教育論(2)【深草】			[300] 博物館情報・メディア論(2) 【深草・瀬田】※
矯正・保護課程関係科目 (特別研修講座「矯正・保護課程」 提供科目)		[200] 矯正・保護入門(2)【深草】	[300] 矯正概論(4)【深草】	
			[300] 更生保護概論(4)【深草】	
			[300] 矯正教育学(4)【深草】	
			[400] 成人矯正処遇(2)【深草】	[400] 保護観察処遇(2)【深草】
留学関係科目[RIP(Ryukoku Intercultural Program)関係科目は除 く。(RIP(Ryukoku Intercultural Program)関係科目は111ページ参照)]	国際文化交流研修(2)～(8)【詳細は111・112ページ参照】			
文学部共通科目	[100] 探究型科目PBL入門【深草】			
キャリア開発科目	キャリア形成論(2)【深草】 《1・2年次のみ》	キャリア形成論(2)【深草】 《1・2年次のみ》		
	前期・後期の両方に開講されます。			[400] 犯罪学(2)【深草】

※他学部開講科目についても受講できる場合があります。その場合、掲示板・ポータルサイトでお知らせします。

特殊講義、講読の科目		日本語日本文学科以外の学生
[400] 書道(書写を含む)A(2)【大宮】	[400] 書道(書写を含む)B(2)【大宮】	■「中国文学ⅠA・ⅠB」と「中国文学ⅡA・ⅡB」は隔年開講 ■「日本語教育実習A・B」の先修制について 日本語教育実習A・Bの受講にあたっては、日本語教育概論A・Bのうちいずれか2単位を修得していなければ履修することができません。
[400] 言語習得(発達)論A(2)【大宮】	[400] 言語習得(発達)論B(2)【大宮】	
[400] メディア論A(2)【大宮】	[400] メディア論B(2)【大宮】	
[400] 日本語教授法Ⅰ(2)【大宮】	[400] 日本語教授法Ⅱ(2)【大宮】	
[300] 日本語教育実習A(1)【大宮】	[300] 日本語教育実習B(1)【大宮】	
特殊講義、講読の科目		英語英米文学科以外の学生
[400] Oral Communication ⅢA(2)【大宮】	[400] Oral Communication ⅢB(2)【大宮】	
[400] English Academic Writing ⅡA(2)【大宮】	[400] English Academic Writing ⅡB(2)【大宮】	
[400] 英語圏文化論A(2)【大宮】	[400] 英語圏文化論B(2)【大宮】	
[400] 経済原論(4)【大宮】		■「博物館情報・メディア論」は、深草学舎と瀬田学舎の両方で開講されます。
[400] 法学概論(4)【大宮】		
[400] 政治学原理(4)【大宮】		
[400] 地理学(地誌)(4)【大宮】		
[400] 自然地理学(4)【両学舎】		
[400] 被害者学(4)【両学舎】		■この一覧に記載される科目を履修登録(本登録)し、履修すれば、卒業要件単位として認定されます。
[400] 矯正社会学(4)【深草】		
[400] 犯罪心理学(4)【両学舎】		
	[400] 青少年問題(2)【深草】	
	[400] 矯正医学(2)【深草】	
[400] 海外研修(4)【詳細は114ページ参照】		
[400] 探究型科目PBL演習【大宮】		
[400] キャリア開発論(2)【大宮】 《3年次のみ》		

3. 随意科目 開設科目一覧

※「レボ・ナバ」科目名(単位数)【開講ヤルカス】を表しています。

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
■教職課程科目 (※履修方法等については、2024年度入学生用教職課程ガイドブックを参照のこと)			生徒 進路指導論(2)【深草】		道徳教育指導法(2)【大宮】		教育実習指導ⅡA(中免用実習)(4)【大宮】	
			学校教育社会学(2)【深草】	学校教育社会学(2)【深草】	総合的な学習の時間・特別活動論(2)【大宮】		教育実習指導ⅡB(高免用実習)(2)【大宮】	
			前期・後期の両方に開講されます。		教育実習指導Ⅰ(1)【大宮】		教職実践演習(中・高)(2)【大宮】	
			教職論(2)【深草】	教育課程論(2)【深草】	教育相談(2)【大宮】			
			介護等体験(2)【深草】		宗教科教育法Ⅰ(2)【大宮】			
			宗教科教育法A(2)【深草】	宗教科教育法B(2)【深草】	宗教科教育法Ⅱ(2)【大宮】			
			国語科教育法A(2)【深草】	国語科教育法B(2)【深草】	国語科教育法Ⅱ(2)【大宮】			
			英語科教育法A(2)【深草】	英語科教育法B(2)【深草】	英語科教育法Ⅱ(2)【大宮】			
			英語科教育法A(2)【深草】	体育実技(1)【深草】	社会科・地歴科教育法Ⅰ(2)【大宮】			
				(臨床心理学科/歴史科文化遺産学専攻のみ受講可)	社会科・公民科教育法Ⅰ(2)【大宮】			
			教職コンピュータ基礎(2)【深草】	教職コンピュータ基礎(2)【深草】	社会科・公民科教育法Ⅱ(2)【大宮】			
			前期・後期の両方に開講されます。					
■博物館学芸員課程科目								博物館実習(3)【大宮】
■図書館司書課程科目 (2012年度以降入学生対象科目)	(同)図書館司書概論(2)【深草】	(同)図書館サービス概論(2)【深草】	(同)図書館情報技術論(2)【深草】	(同)情報サービス実習A(1)【深草】	(同)図書館実習(1)【深草】			
	(同)生涯学習概論(2)【深草】	(同)図書館サービス概論(2)【深草】	(同)情報サービス実習B(1)【深草】	(同)図書館制度・経営論(2)【深草】	(同)図書館総合演習(2)【深草】			
	(同)図書館情報源概論(2)【深草】	(同)図書館情報源概論(2)【深草】	(同)情報資源組織実習A(1)【深草】	(同)情報資源組織実習B(1)【深草】				
	(同)図書・図書館史(2)【深草】	(同)児童サービス論(2)【深草】	(同)情報資源組織論(2)【深草】					
	(同)図書館基礎特論(2)【深草】	(同)情報サービス実習A(1)【深草】	(同)情報資源組織論(2)【深草】					
		(同)情報サービス実習B(1)【深草】	(同)図書館情報源特論(2)【深草】					
			(同)図書館サービス特論(2)【深草】					
			(同)図書館施設論(2)【深草】					
	■学校図書館司書教諭課程科目							
		(学)学校経営と学校図書館(2)【深草】	(学)学習指導と学校図書館(2)【深草】					
		(学)学校図書館とメディアの構成(2)【深草】	(学)読書と豊かな人間性(2)【深草】					
			(学)情報メディアの活用(2)【深草】					
	■本願寺派教師資格課程科目							
		動式(4)【深草】						
		宗門法規(2)【深草】						
	教化法(4)【深草】	※深草・大宮ともに開講されるが科目の修得でよい						
	(本山教師)仏教史(1)【深草】							
	(本山教師)宗教概説(1)【深草】							

IV その他の教育課程・教育プログラム

文学部の教育課程の他にも、みなさんが受講できる多様な教育課程・教育プログラムがあります。詳細は、ホームページ、配布冊子などで確認するとともに、各担当窓口にお問い合わせください。

1. データサイエンス・AIリテラシープログラム

本学が全学的に展開するデータサイエンス教育として、「データサイエンス・AIリテラシープログラム」を開設します（2022年度以降入学生対象）。

日本政府は、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（物理空間）が高度に統合された社会「Society5.0」を提唱しています。このような社会では、フィジカル空間の膨大なデータをサイバー空間に蓄積し、そのデータをAI（人工知能）で解析し、その結果をフィジカル空間にフィードバックすることで、経済発展や社会課題の解決が実現されると考えられています。

このような新しい社会の到来に備えて、ビッグデータから有用な情報を可視化し、意思決定を行い、機械学習などのAI技術で結果を分析・予測するスキルを身につけることが重要です。

そのために、これから社会に出る大学生には、データサイエンス・AIに関する基礎的な知識やスキルが不可欠です。また、社会の変化に対する意識を持つことや、データを扱う上での倫理観が求められます。本学ではこれらのことを学ぶために「データサイエンス・AIリテラシープログラム」を全学的に展開しています。

(1) プログラムの概要

データサイエンス・AIリテラシープログラムは、以下の①②で構成されます。

- ①教養教育科目「データサイエンス・AI入門」
- ②教養教育科目、学部専攻科目、学部共通コース科目のうちプログラム科目として指定する科目

(2) プログラムの修了要件

データサイエンス・AIリテラシープログラムは、教養教育科目「データサイエンス・AI入門」（2単位）を必修科目として、教養教育科目、学部専攻科目、学部共通コース科目のうちプログラム科目として指定する科目※1の中から2単位以上を選択して修得し、合計4単位以上を修得することがプログラム修了の要件です。

(3) 修了の認定

データサイエンス・AIリテラシープログラムの修了要件を満たした学生については、各年度末に修了認定の結果をポータルサイトを通じてお知らせします（希望する学生にはプログラム修了証を発行します）。

<データサイエンス・AIリテラシープログラム>

「データサイエンス・AI入門」
(教養教育科目)
必修2単位

プログラム科目として指定する科目※1
(教養教育科目、学部専攻科目、学部共通コース科目)
選択2単位以上



合計4単位以上の修得でプログラム修了

※1 教養教育科目のうちプログラム科目として指定する科目






〈教養教育科目のうち指定する科目〉

科目名	単位数	配当年次	備考
社会統計学のすすめ	2	1年次～	深草学舎・瀬田学舎開講
確率・統計入門	2	1年次～	深草学舎開講
生活の中の統計技術	2	1年次～	瀬田学舎開講

2. 留学／国際交流プログラム・単位互換制度・各種実習プログラム

留学／国際交流プログラム	担当窓口・関係情報
<p>龍谷大学では、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成及び「多文化共生キャンパスの実現」を目的として、学生の海外派遣及び外国人留学生の受入を積極的に推進するため、様々な留学制度や国際交流プログラムを整備しています。交換留学や私費留学に加えて、龍谷大学の海外拠点を活用して展開されるRI (Ryukoku Intercultural) Program留学や短期海外派遣プログラム等の多様なプログラムが展開されています。また、グローバルコモンズにおいては、英会話レッスンのほか、本学に留学中の学生から多言語、文化を学ぶ機会や異文化交流イベントを実施しています。ランゲージスタディエリア(LSA)ではTOEIC®、TOEFL®、IELTS™等の英語資格試験や初修外国語の教材も幅広く取り揃えているため、検定試験対策はもちろんのこと、備え付けのパソコンを利用した海外とのコミュニケーション等、幅広い活用が可能です。</p> <p>経済、社会、文化、政治などあらゆる局面でグローバル化が急速に進む現在、海外の大学での学修、国内外での異文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。</p>	<p>(担当窓口)</p> <p>グローバル教育推進センター 深草学舎 和顔館1階／瀬田学舎 智光館2階 ※単位認定に関する相談は文学部教務課〔1・2年次生は深草学舎6号館(紫英館)1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階〕</p> <p>(関係情報)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「留学ガイド」グローバル教育推進センターで配布 ・グローバル教育推進センターホームページ (URL) https://intl.ryukoku.ac.jp <p>(QRコード)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・龍谷大学グローバル教育推進センター 交換留学マンスリーレポート (URL) https://www.mrepo.jp/ <p>(QRコード)</p> 

大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都では、京都地域の約50の大学・短期大学が協定を締結し、各大学の科目を履修できる「単位互換授業」の制度を設置しています。</p> <p>一部の科目は、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」で開講されます。</p> <p>なお、出願については、大学コンソーシアム京都のホームページの「単位互換・京カレッジポータルサイト」から出願手続きを行ってください。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課〔1・2年次生は深草学舎6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階〕 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、文学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 単位互換制度特設サイト (URL) https://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/index.html</p>  
「放送大学科目」履修制度	担当窓口・関係情報
<p>放送大学とは、テレビ・ラジオ、またその記録媒体等を効果的に活用して、大学教育の機会を多くの人々に提供していく正規の大学で、放送大学学園法に基づき設立されています。</p> <p>本学と放送大学が単位互換に関する協定を締結したことにより、本学部が指定した「放送大学科目」を受講することによって修得した単位を卒業要件単位として認定されます。この「放送大学科目」を受講する学生は、放送大学では「特別聴講学生」として扱われます。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課〔1・2年次生は深草学舎6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階〕 ※受講希望者は、「特別聴講学生出願票」を文学部教務課窓口に提出してください（提出期限は例年6月中旬です）。</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> <p>(関係情報) ・放送大学 (URL) https://www.ouj.ac.jp</p>  

<p>RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム</p>	<p>担当窓口・関係情報</p>
<p>本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして企業・団体等と協定を締結して「RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム」を実施しています。</p> <p>このプログラムは、建学の精神にもとづくきめ細かな実習前後の学修を通じて、職業観・勤労観を醸成する本学独自の特色あるプログラムです。</p> <p>2022年度入学生からは、「教養教育科目特別講義（キャリア入門）」を実習前の学修と位置づけ、この特別講義を登録および受講することで、夏期休業期間中に開講される1・2年次生対象の「キャリア実習・実習指導」を履修することができます。</p> <p>このプログラムに積極的に参加することでコミュニケーション力や人に働きかけ巻き込む力、主体性や行動力等社会で求められる様々な能力を身につけることができます。</p> <p>少しでも興味を持った方は、履修要項WEBサイトの「(3) 就業体験を伴うプログラム」を確認し、4月に開催する説明会に参加しましょう。</p>	<p>(担当窓口) キャリアセンター 深草学舎 5号館1階／瀬田学舎 1号館1階</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html </p> <p>(関係情報) インターンシップ・キャリア実習 (URL) https://career.ryukoku.ac.jp/support/internship.html </p> <p>RYUKOKUキャリア・スタート・プログラム 「キャリア実習・実習指導」パンフレット (URL) https://career.ryukoku.ac.jp/statistical/ </p>
<p>大学コンソーシアム京都 「産学連携教育プログラム」</p>	<p>担当窓口・関係情報</p>
<p>大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム（コーオブ教育）として、1998年度より全国に先駆けて開始しています。単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い満足度を得ています。</p> <p>「学生ならではの経験がしたい！」 「社会人になる力をつけたい！」 「“働く”をイメージしたい！」 「自分の強みや課題に気づきたい！」 「地域・社会に貢献したい！」 「他大学生と交流したい！」</p> <p>1つでもあてはまる方に、 【大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラム】をお勧めします。</p>	<p>(担当窓口) 【単位認定に関する問い合わせ】 文学部教務課〔1・2年次生は深草学舎6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階〕 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、文学部教務課で確認してください。</p> <p>【プログラムに関する問い合わせ】 公益財団法人大学コンソーシアム京都 産学連携教育事業推進室 〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル キャンパスプラザ京都内 TEL：075-353-9106</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html </p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 産学連携教育プログラムサイト (URL) https://consortiumkyoto-internship.jp/ </p>

教育課程
その他の
教育課程

3. 留学の単位認定について

1) RIP (Ryukoku Intercultural Program) 留学

(1) 5-week summer program、5-week spring program

- ① 上限認定単位：6単位
- ② 単位認定科目等

受講科目	単位数	認定科目名	認定分野
Integrated Skills	2	English language (Ryukoku Intercultural Program)	教養
浄土真宗センターにおける開講科目	2	Lecture (Ryukoku Intercultural Program)	教養
Community Service Learning	2	Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)	※

※Volunteer (Ryukoku Intercultural Program) の単位認定については、受講生が専攻科目、教養教育科目のいずれかの分野への認定を選択することができます。専攻科目で単位認定された場合は【選択専攻科目】、教養教育科目で単位認定された場合は【教養選択科目】として扱われます。

(2) Fall semester program、Spring semester program

- ① 上限認定単位：18単位
- ② 単位認定科目等

受講科目	単位数	認定科目名	認定分野
①Integrated Skills	10	英語総合1(A)(B) 2(A) 2(B) ※	教養
②Integrated Skills (もしくはBusiness English)		英語総合3(A)(B) 英語総合4(A)(B) ※	教養
③Communication Skills		English language (Ryukoku Intercultural Program) ※	☆
浄土真宗センターにおける開講科目	4	Lecture (Ryukoku Intercultural Program)	☆
Community Service Learning	4	Volunteer (Ryukoku Intercultural Program)	☆

※留学期間中に配当されるセメスター分の言語必修科目（必修外国語：英語）として単位認定可能です。また、未履修である言語必修科目（必修外国語：英語）についても認定が可能です。言語必修科目（必修外国語：英語）認定後の余剰分の単位については「English language (Ryukoku Intercultural Program)」として単位認定を行います。

☆English language (Ryukoku Intercultural Program)・Lecture (Ryukoku Intercultural Program)・Volunteer (Ryukoku Intercultural Program) の単位認定については、受講生が専攻科目、教養教育科目いずれかの分野への認定を選択することができます。専攻科目で単位認定された場合は【選択専攻科目】、教養教育科目で単位認定された場合は【教養選択科目】として扱われます。

2) 国際文化交流研修

この科目は、通常の開設科目とは異なり、学生が自主的に行う海外での国際文化交流に対して単位を認定するものです。大学が全て用意したパック研修ではなく、学生の個性と自主性にもとづいた国際文化交流（短期研修・語学研修・個人留学・交換留学等）を評価し、単位を認定します。研修旅行や留学の目的・期間・行先等を、学生自身で計画し、実行することができます。履修登録を希望する学生は、定められた手続きにしてください。

(1) 受講対象

文学部1年次以上の正規学生

(2) 科目名等

「国際文化交流研修」選択専攻科目として卒業要件単位となります。

(3) 認定単位

2～8単位（履修制限単位に含まれません）

※次の基準で単位数は定められています。

2単位：3週間程度の研修期間で、4,000字程度の「国際文化交流研修報告書」を提出した場合

4単位：5週間程度の研修期間で、8,000字程度の「国際文化交流研修報告書」を提出した場合

8単位：6か月以上の正規留学期間で、12,000字程度の「国際文化交流研修報告書」を提出した場合

※8単位以内であれば、単位を分割して複数回同科目を履修登録することができます。ただし、在学中修得できるのは8単位が上限です。

(4) 履修申込手続き

① 所定の「国際文化交流研修計画書」を文学部教務課窓口へ下記期日までに提出してください。この計画書の内容にもとづいて、履修登録の許可が判定されます。

夏休みに実施する場合：6月末日（土日を除く）

春休みに実施する場合：1月の授業再開日【4年次生は春休みの実施不可】（土日を除く）

② 正規留学（私費留学または交換留学）で、この科目を履修登録しようとする場合は、計画書の提出期限については個別対応になります。留学前の早い時期に文学部教務課窓口へ申し出てください。

ア) 研修先は海外であるならば、特に限定はありません。ただし、必ず海外で国際文化交流研修を行わなければなりません。

イ) 研修期間は次の2通りに分けられます。

○正規留学ではない短期研修の場合

授業期間外及び定期試験期間外を研修期間としなければなりません。必然的に、夏期休業中が主な研修期間になります。しかし、通常の授業科目履修の障害とならない研修期間の設定が他にある場合は、文学部教務課窓口にご相談してください。

○正規留学（個人留学または交換留学）として本学において認められた場合

正規留学として認められた留学期間が研修期間に該当します。

ウ) 海外旅行傷害保険の加入

履修登録の許可された学生は、必ず海外旅行傷害保険に加入してから研修に出発してください。

(5) 単位認定・成績評価

① 履修登録を許可された学生は帰国した後、海外での国際文化交流で得た成果を「国際文化交流研修報告書」にまとめて、夏休み実施の場合は1月の授業再開日までに、春休み実施の場合は帰国後1週間以内に文学部教務課窓口へ提出してください。報告書には所定の表紙があるので報告書提出前に文学部教務課窓口で受け取ってください。なお、「国際文化交流研修報告書」の提出がなかった場合の評点は「0点」となります。

② 研修先で「修了証明書」等が交付されている場合は、「国際文化交流研修報告書」とともに提出してください。

③ 「国際文化交流研修報告書」には指定の様式はありません。認定単位数に応じた字数となるように、自由に報告書を作成できます。

④ 単位認定結果・成績評点については、卒業年次生に対しては卒業判定とともに郵送します。それ以外の学生は、成績表で確認してください。

⑤ 履修登録許可時に発表された単位数は、提出された「国際文化交流研修報告書」の内容に応じて変更されることがあります。

3) 交換留学・私費留学における単位認定

(1) 認定の上限及び分野：原則として、言語科目、選択専攻科目、フリーゾーンの範囲内

(2) 1単位の認定にあたっての学修時間の目安

講義科目：675分の授業時間をもって1単位を認定します（90分×15回÷2）

語学科目・実技科目：1,350分の授業時間をもって1単位を認定します（90分×15回）

★留学にあたって必要な書類

（※印のあるものは単位認定にあたって必要な書類です。希望者のみ提出してください）

【出発前】注）単位認定を希望する場合は出発前に手続きを行ってください。

書 類	所定用紙	提 出 先
渡航方法連絡票・滞在先連絡票	グローバル教育推進センターホームページ	(交換留学) →グローバル教育推進センター (私費留学) →文学部教務課
※単位認定の申込について	文学部教務課	文学部教務課
※国際文化交流研修の申込について		
※国際文化交流研修計画書		
卒業保留願い(卒業年次生のみ) [注1]		

注1) 卒業要件単位を全て満たしている卒業保留希望者は、原則として帰国後の単位認定は行いません。

【帰国後】

書 類	所定用紙	提 出 先
留学生帰国報告書	グローバル教育推進センターホームページ	(交換留学) →グローバル教育推進センター (私費留学)
留学帰国レポート		文学部教務課→グローバル教育推進センター
成績証明書	留学先大学	(交換留学) グローバル教育推進センター (私費留学)
修了証明書		文学部教務課
※単位認定申請書	文学部教務課	文学部教務課
※講義科目報告書		
※国際文化交流研修報告書(レポート)		
※履修科目の登録確認表等(時間割・単位数等が記入されたもの)	留学先大学	文学部教務課
※学年暦		
※シラバス		
※受講時間割		

☆卒業年次生で帰国後卒業を希望する学生の書類提出期日は1月末日です。

(3) 卒業年次に留学する場合の注意点

留学終了後直ちに卒業するためには次の条件をすべて満たす必要があります。書類での手続きが必要なため、事前に文学部教務課に相談に来てください。

- ① 留学終了後に認定が確実な科目を除いて、卒業年次の残単位数が「演習Ⅱ」「卒業論文」の8単位以下であること。
- ② 卒業論文の内容が、留学先での勉学と密接に関係があり、留学先の教員による論文作成指導を受けることができること。
- ③ 留学中においても、文学部指導教員および文学部教務課と定期的に連絡をもてるようにすること。

一番よくある問い合わせ

(4) 後期から留学する場合の通年開講の演習科目の取扱い

前期に演習科目を登録しているので、後期から1年間留学すると通年科目の登録が無効となります。しかし、指導教授が認めた場合、演習科目に限っては、帰国後、後期に演習科目の後期開講部分を履修することにより単位を認定することができます。ただし、対象となる科目は通年開講「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業論文」の5科目に限られています。詳細については、文学部教務課に相談に来てください。

4) 海外研修

【単位認定についての問い合わせ先：文学部教務課、プログラムの内容についての問い合わせ先：グローバル教育推進センター】

① 科目の趣旨

この科目は、通常の開設科目とは異なり、米国及び英国等の大学がもつ英語集中プログラムに学生が自主的に参加して、そこで得た成績に対して文学部が評価を与えるものです。4月中旬に説明会を予定しています。

② 対象学生

文学部3年次以上の正規学生

③ 科目名等「海外研修」

選択専攻科目として卒業要件単位となります。

④ 認定単位

4単位（履修制限単位には含まれません）

⑤ 研修先（説明会時に発表します）

⑥ 履修申し込み手続

履修希望者は、説明会に出席し、具体的な手続を進めてください。

⑦ 成績評価

研修先で得た成績に対して文学部が評価します。帰国後研修先で得た「修了証明書」等を文学部教務課窓口へ提出してください。

⑧ 研修期間

4週間から6週間

⑨ 研修費用

各大学とも授業料は1,000ドル程度

第3部 諸課程

文学部では、大きく10の資格課程が設置されています。4年間で卒業という前提と1週間34講時という時間割の制限のもとでの資格取得であるので、複数の資格の取得を必ずしも保証することはできません。したがって、皆さんは、卒業までの履修計画と卒業後の将来計画に応じて、取得すべき資格を選択する必要があります。特に学問分野の異なる複数の資格の取得を目指す場合は、4年間もしくはそれ以上にわたる綿密な履修計画を立てなければなりません。

また教育実習や博物館実習のように、一定期間を実習に専念しなければならない科目もあるため、職業や家庭の事情等で履修が困難であると予想される場合には、本人の努力によって、それらを解決し、履修を可能とするために調整する必要があります。学生の個々の事情に対するすべての調整を大学側に求めることはできません。学生個々の事情により履修が不可能であると最終的に判断された場合には、当然のことながら資格取得を断念しなければなりません。

I 諸課程




1. 諸課程



教職課程	116
学校図書館司書教諭課程	116
図書館司書課程	116
本願寺派教師資格課程	117
博物館学芸員課程	117
社会福祉主事課程	117
本願寺派学階課程	118
児童指導員任用資格・児童の遊びを指導する者任用資格	118
2. 特別研修講座・各種講座・試験	119

I 諸課程


1. 諸課程

教職課程	担当窓口・関係情報
<p>教職課程は、教員免許状の取得を目指す学生を対象とした課程です。教科等に関する確かな専門的知識はもちろん、広く豊かな教養、人間の成長・発達への深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を基盤とした実践的な指導力を養成することを目的に設置しています。教職課程の履修にあたっては、「履修要項別冊 教職課程ガイドブック」を熟読してください。</p> <p>また、教職センターでは、教職課程履修者を対象に教員採用試験突破のための基礎力・実践力養成講座なども実施しています。</p>	<p>(担当窓口) 教職センター 深草学舎 紫英館 1階 大宮学舎 西翼 1階 瀬田学舎 3号館 1階</p> <p>(関係情報) 教職センターHP (URL) https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyoshoku</p> 
学校図書館司書教諭課程	担当窓口・関係情報
<p>司書教諭とは、小学校・中学校・高等学校等の図書館で専門的職務に従事する教員のことをいいます。1997年の学校図書館法の改正により、2003年度から12学級以上の規模を持つすべての小中高の図書館への司書教諭の配置が義務づけられました。</p> <p>司書教諭は学校司書と同じく、学校図書館における専門的職務であり、深い人間理解に基づく、豊かな読書指導を行うことはもとより、読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を開催したり、児童・生徒の学習に対して図書館の利用に関する指導を行うこと等を職務としています。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草キャンパス6号館(紫英館)1階、 3・4年次生は大宮キャンパス西翼1階)</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 
図書館司書課程	担当窓口・関係情報
<p>図書館司書とは、図書館等で資料の選択、収集、整理(分類、目録)、情報サービスなどを行う専門的職員です。公共図書館、大学図書館、専門図書館、学校図書館などで働いています。</p> <p>生涯学習社会といわれる現代において図書館司書が果たす役割は大きく、利用者に対して質の高いサービスを提供でき、多様なニーズに対応できる人材が求められています。また図書資料だけにとどまらず国際化・情報化の時代にふさわしく情報メディアの収集・管理、情報検索などについての自在な活用能力も求められています。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草キャンパス6号館(紫英館)1階、 3・4年次生は大宮キャンパス西翼1階)</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 

本願寺派教師資格課程	担当窓口・関係情報
<p>本願寺派教師資格課程は、浄土真宗本願寺派における寺院の住職や布教使になるために必要となる資格課程です。本学では、本願寺派教師資格に関する養成施設としての認定を受け、資格課程にかかわる科目を開設しており、1回生から受講することが可能です（受講する場合は、科目一覧を確認のうえ、履修登録をしてください）。</p> <p>この課程は、最終的には浄土真宗本願寺派が実施する本資格に関連する試験・研修を受けなければなりません。</p> <p>資格制度の詳細について、不明な点等がありましたら、浄土真宗本願寺派僧侶養成部に尋ねてください。</p> <p>履修に関する詳細については、担当窓口にて尋ねてください。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草学舎6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮学舎西翼1階)</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 
博物館学芸員課程	担当窓口・関係情報
<p>資料の収集・保管・展示および調査研究等の業務に携わり、博物館の事業全般をサポートする博物館学芸員を養成します。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草キャンパス6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮キャンパス西翼1階)</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 
社会福祉主事課程	担当窓口・関係情報
<p>社会福祉主事とは、都道府県および市町村の設置する福祉に関する事務所において、生活保護法・児童福祉法・老人福祉法・身体障害者福祉法等に定める援護・育成または更正の措置に関する事務を行うことを職務とするものです。その資格は、学校教育法にもとづく大学において、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修得し卒業することで取得できます。ただし、あくまでもこれは「任用資格」であり、地方自治体に採用となり、福祉に関する事務所に配置されて、はじめて「資格」としての意味をなすものです。</p> <p>また、この資格は、必要科目を修得して卒業することが条件であるため、卒業後に不足の科目を科目等履修によって補うことはできません。必ず卒業までに取得要件科目をすべて修得しておかなければなりません。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草キャンパス6号館（紫英館）1階、3・4年次生は大宮キャンパス西翼1階)</p> <p>(関係情報) 履修要項WEBサイト (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 

本願寺派学階課程	担当窓口・関係情報
<p>学階とは、浄土真宗本願寺派（西本願寺）における、教師（同派末寺の住職になれる僧侶）の資格のひとつです。真宗学、仏教学に通じた者に与えられる学位で、得業・助教・輔教・司教・勧学の5段階あります。</p> <p>本学において、所定の科目の単位修得等の要件を満たすと学階を受けるための予試・本試が免除され、直接、殿試（初めて学階授与を願う者が受けるための試験）を受験することが可能となります。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草キャンパス6号館(紫英館)1階、 3・4年次生は大宮キャンパス西翼1階)</p> <p>(関係情報) 履修要項WEBサイト (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 
児童指導員任用資格・児童の遊びを指導する者任用資格	担当窓口・関係情報
<p>児童施設において直接児童とかかわる職種を目指す場合に有効な資格として、「児童指導員任用資格」、「児童の遊びを指導する者」があります。</p> <p>「児童指導員」は児童養護施設で、「児童の遊びを指導する者」は、児童厚生施設で必置とされる職種です。</p> <p>文学部哲学科教育学専攻を卒業すると、この任用資格が得られますが、法律の定めにより、これら職種に任用されるための条件があります。</p>	<p>(担当窓口) 文学部教務課 (1・2年次生は深草キャンパス6号館(紫英館)1階、 3・4年次生は大宮キャンパス西翼1階)</p> <p>(関係情報) 履修要項WEBサイト (URL) https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/prog.html</p> 

2. 特別研修講座・各種講座・試験

課程・講座	目的・内容	担当部署
国際伝道者養成課程	<p>広く国際的な素養として英語で仏教・浄土真宗を学修することや、海外の仏教事情に関心を持つ方を対象にした課程であり、また同時に、将来、浄土真宗本願寺派の海外開教区で伝道者として活躍できる人材養成を目的とした講座です。</p>	(深草／大宮) 文学部教務課
矯正・保護課程	<p>刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員や、犯罪をおかしたり非行をおこなった人たちの社会復帰を手助けする保護観察官等の専門職やボランティアを養成するために、実務に即した教育プログラムを提供しています。</p>	矯正・保護総合センター事務部 深草学舎 4号館2階 〈各学舎申し込み窓口〉 (深草) 法学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (大宮) 文学部教務課 大宮学舎 西翼1階 (瀬田) 社会学部教務課 瀬田学舎 6号館1階
法職課程	<p>各種公務員試験（国家一般職、地方上級等）の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、法律科目を体系的かつ効率的に学習できる講座や最新の試験情報などを提供しています。また、法職カウンセラーが常駐し、学習方法や受験対策のアドバイスをを行っています。</p>	法学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (URL) https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/syokatei/houshoku/ 
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※開講する学舎が限定されている講座があります。	<p>キャリアアップに向けた資格取得や公務員試験などの対策が必須の就職を支援するために、各種講座を開講しています。資格取得等に信頼と実績のある有名予備校等と提携し、一人ひとりの目標や夢の実現をバックアップします。</p> <p>〈資格系〉 宅地建物取引士講座／旅行業務取扱管理者講座／社会福祉士国家試験講座 〈語学系〉 TOEIC® Listening & Reading Test対策講座 〈就職対策〉 公務員講座／エアライン就職対策講座</p>	キャリアセンター 深草学舎 5号館1階 大宮学舎 東翼2階 瀬田学舎 1号館1階
手話講座	<p>社会福祉法人全国手話研修センターとの連携事業により、「手話コミュニケーションコース」「手話ステップアップコース」「手話通訳コース」を実施します。「手話コミュニケーションコース」では全国手話検定試験2級レベルを、「手話ステップアップコース」では全国手話検定試験1級レベルを目指し、「手話通訳コース」では手話通訳者全国統一試験に備える力を養います。</p> <p>2024年度の講座実施については、実施が決定次第、ポータルサイト等で案内します。</p>	REC事務部 深草学舎 4号館2階 社会福祉法人全国手話研修センターホームページ (https://www.com-sagano.com/kenshu/ryukoku) 

第4部 学修生活の手引き

I	窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室	122
1.	窓口事務	
2.	保健管理センター	
3.	障がい学生支援室	
II	授業等の休講措置に関する取扱基準 (自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について)	123
III	学籍の取り扱い	124
1.	学籍とは	
2.	学籍簿	
3.	学生証	
4.	学籍の喪失	
5.	休学と復学	
6.	再入学	
7.	編入学・転入学	
8.	9月卒業	
IV	大学院文学研究科・実践真宗学研究科	128

I 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室

1. 窓口事務

各学部教務課の窓口事務については、履修要項WEBサイトに掲載していますので、確認してください。(https://cweb.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/)

主に次の情報を掲載しています。

- (1) 窓口取扱時間
- (2) 届出書・願書および各種証明書
- (3) 各種証明書の交付について
- (4) 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて



2. 保健管理センター

保健管理センターの利用については、本学HP『保健管理センター』に掲載しています。(https://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php)

毎年、4月には学生の定期健康診断が実施されますので、日程をHPで確認するようにしてください。

その他、主に次の情報を掲載しています。

- (1) 緊急時には
- (2) 学校感染症に罹患した場合には
- (3) カウンセラーに相談したい
- (4) 保健師・看護師に相談したい
- (5) 医師の診療を受けたい
- (6) 急な怪我をした
- (7) タバコをやめたい
- (8) 健康チェックをしたい
- (9) 健康診断
- (10) 健康診断証明書・健康診断書発行について
- (11) AEDについて知りたい



3. 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、すべての学生が社会参加に向けて主体的に取り組むことを支援するという視点に立ち、障がいのある学生の学修や学生生活上の困難に対し、様々な相談、支援を行っています。また、障がいのある学生とサポートをする学生、その他すべての学生や教職員が互いに理解し、尊重し合える関係づくりを目指し、サポーター養成や研修会、交流会などにも取り組んでいます。詳しくは、本学HP『障がい学生支援室』に掲載しています。

(https://www.ryukoku.ac.jp/support/index.php)

HPでは主に次の情報を掲載しています。

- (1) 障がいのある学生への支援について
- (2) 支援を希望される方へ
(支援の内容、支援の申し出方法、障がい学生支援室の紹介)
- (3) 支援をしたい方へ（学生スタッフ募集）
- (4) 教職員のみなさんへ
- (5) 障がいのある受験生の方へ
- (6) アクセス・お問い合わせ



II 授業等の休講措置に関する取扱基準 （自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について）




自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱については、「授業等の休講措置に関する取扱基準」によります。

- 授業等の休講措置に関する取扱基準：

https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/classinfo/disaster.html



「授業等の休講措置に関する取扱基準」に定める自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無については、以下の方法で確認することができます。

確認方法		説明
(1) 龍谷大学ホームページ https://www.ryukoku.ac.jp/		トップページに「重要なお知らせ」として授業実施の有無を記載します。
(2) ポータルサイト https://portal.ryukoku.ac.jp		ポータルサイトのログイン画面に、ホームページと同様の情報を記載します。
(3) 公式X (旧Twitter)「龍谷大学 (緊急連絡用)」 https://x.com/Ryukoku_univ (@Ryukoku_univ)		大学全体に関わる緊急情報の速報発信を目的として、本学公式X (旧Twitter) アカウントを開設しています。ここからホームページと同様の情報を発信します。

※緊急時は、大学ホームページおよびポータルサイトへのアクセスが集中し、サイトを閲覧できなくなる可能性がありますので、公式X(旧Twitter)「龍谷大学(緊急連絡用)」の利用を推奨します。

III 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の学籍番号が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明証（学生証）の番号でもありませんから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

L	24	0	001
┆	┆	┆	┆
L：文学部	入学年度(西暦)の下2桁	学生区分(主たる学生区分を記す)	学部内における個人番号
E：経済学部		学部生：0～7	
B：経営学部		編転入生：8	
J：法学部		再入学生：9	
T：理工学部		修士課程：M	
C：社会学部		博士後期課程：D	
W：国際文化学部		短大専攻科生：A	
H：政策学部		専門職学位課程生：F	
U：国際学部		研究生：R	
N：農学部		特別専攻生：S	
Y：先端理工学部		科目等特別履修生：U	
V：心理学部		科目等履修生：V	
S：短期大学部		外国人特別留学生・交換留学生：Y	
M：実践真宗学研究科			
R：留学生別科			

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。頭のアルファベット（学部等をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にするものとして、学籍簿（入学手続き時に各自がWeb入学手続きにて登録）が編成されます。学籍簿に登録される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに文学部教務課窓口へ届け出てください。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ① 試験を受けるとき。
 - ② 各種証明書の発行を受けるとき。
 - ③ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - ④ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - ⑤ 図書館を利用するとき。
 - ⑥ その他、本人であることを確認することが必要なとき。
- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用しますので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する「在籍確認シール」(学生証裏面に貼付)は、毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら(在学は、必ず前年度のシールをはがしたうえで)、速やかに新しいシールを貼ってください。
シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。
なお、当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は、無効として取り扱いますので注意してください。
- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに文学部教務課窓口にてその内容を届け出てください。ただし、「在籍確認シール」に記載されている“通学区間情報”を変更する場合は、ポータルサイトの“連絡先・通学情報登録”画面にて変更のうえ、文学部教務課窓口で「在籍確認シール」の交付を受けてください。
- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに文学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再発行願」(紛失・破損届)に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署(交番)・生協事務室に紛失届等の提出をしてください。
- (5) 学生証の再発行については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再発行願を出力できますので、所定の手続きを文学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再発行には、2日以上を要するので注意してください。
- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。
- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- (8) 除籍・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに文学部教務課窓口にて返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失(本学の学生でなくなる)する場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

- (1) 退学
 - ① 依願退学
依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失(本学の学生でなくなる)することです。

依願退学は、学生の意志によるものであることから、いつでも願い出ることができますが、次の諸手続きが必要です。

ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。

イ 当該学期分の学費を納入していること（学費の納入と学籍の取得は対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学をする場合は、学部で個別に対応しますので相談してください）。

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることができません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要がある場合があります。このため本学ではこれを除籍として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ① 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- ② 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ③ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、休学を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ① 大学所定の書式により願い出ること。
- ② 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ③ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

- ① 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。

1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31日までに文学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。なお、受付は窓口の開室日に限ります。

- ② 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ③ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料（100,000円(年間)）を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。復学の願い出は、学期開始日の前1ヶ月以内にしなければなりません。

(5) 休学による学年進行

学年進行するためには、各年度末の時点で当該学年における1年以上の在学歴が必要となります。例えば1年生の時に第1学期もしくは第2学期のいずれか1学期間の休学をした場合、在籍2年目となる翌年度の一年間も1年生の扱いとなります。このことにより、在籍2年目も1年生対象の科目しか受講できない可能性がありますので、休学する場合は履修計画に注意してください。

6. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせてください。

7. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を文学部教務課窓口へ速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがある。
(学則第13条)
【文学部には3年次への転学科・転専攻の制度しかありません。】
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。
(学則第15条)
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。
(学則第18条の3)

※本学の他学部（学科・専攻）への転入学の場合は、学則19条に基づく退学の手続きが必要となります。

8. 9月卒業

第1学期（前期）末（9月30日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、届出期間内に9月卒業の希望申込をした場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません）。詳細については文学部教務課窓口で相談してください。

IV 大学院文学研究科・実践真宗学研究科

1. 大学院

龍谷大学は、10の研究科を設置しています。

9専攻を擁する文学研究科（修士課程・博士後期課程）は、各分野のエキスパートである指導教員と、国内外に知られた豊富な蔵書があり、各自の専門分野の研究を深く究めることができます。

実践真宗学研究科（修士課程）は、複雑化・多様化する現代の問題に、実践的・具体的に臨む宗教者のあり方を学修し、社会的実践者にふさわしい高度な専門的素養の修得を目指します。

2. 入学試験

※入学試験の実施時期等は、2023年度までの実績です。入学試験に関する詳細については、大宮学舎・文学部教務課（大学院窓口）へお尋ねください。

（1）文学研究科（修士課程）

一定の学力基準を満たした卒業見込者を対象とする学内推薦入試（7月）に加え、外国語、専門科目、口述試験で実施する一般入試と社会人入試を秋期試験（9月）、春期試験（2月）の年2回実施しています。

（2）実践真宗学研究科（修士課程）

一定の学力基準を満たした卒業見込者を対象とする学内推薦入試（7月）、グループ討論、レポート、専門科目、面接で実施する自己推薦入試（9月～11月）、外国語、専門科目、口述試験で実施する一般入試と社会人入試を2月に実施しています。

3. 文学部生の大学院文学研究科開講科目の早期履修制度

本学文学部卒業年次生のうち、本学大学院文学研究科へ進学する者で、特に優秀で勉学意欲の旺盛な者に対する教育上の特例措置として、学士課程における修学に支障のない範囲で、本学大学院文学研究科科目の履修を認める制度です。

対象科目、申請時期、単位認定等の詳細については、履修登録期間に文学部教務課掲示板等でお知らせします。

第5部 ルーブリック

I 「ルーブリック」とは	130
II 文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック	131
III 卒業論文ルーブリック	132

Ⅰ 「ルーブリック」とは

ルーブリックとは評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」により構成されたものです。ルーブリックを活用することにより、学修の目標が明確にされます。また、先生と学生の皆さんの双方が現時点の達成水準を客観的に把握することができます（中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』2012年8月28日参照）。

卒業論文ルーブリックは文学部の4年間の学修の集大成である卒業論文の自分の達成水準を知るために使うものです。また、アカデミック・リテラシー・ルーブリックは文学部の皆さんが卒業の時までに備えてほしい基礎的な能力です。いずれも右の列に行くほど達成水準が高くなっていきます。これらのルーブリックを活用することで、学生の皆さんが卒業時までに習得していかなければならない能力を事前に知るとともに、今自分がどの位置にいるのかを知ることができます。

なお、ここで示したルーブリックはあくまでも一例です。これによる評価が皆さんの単位認定に関わる評価にそのまま結びつくとは限りません。特に、卒業論文ルーブリックについては各学科専攻の形式に合わせた形のをスタディガイドに掲載しています。詳しいことは学科・専攻の教員の指示に従ってください。

II 文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック

- *1 このアカデミックスキル・ルーブリックは学生の皆さんが、龍谷大学の文学部生として求められるスキルを、どの程度達成できているかを確認するためのものです。
- *2 おりにふれて、このルーブリックで自分の学修状況を振り返り、自身の学修に足りないものを確認し、各自の学修を深めるツールとして利用してください。

		相当の努力を要する	やや努力を要する	十分満足できる	期待している以上である
①：建学の精神の具現化	建学の精神の意義について理解している。	大学の主催する宗教行事などに全く参加しておらず、建学の精神も理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにあまり参加しておらず、建学の精神があまり理解できていない。	大学の主催する宗教行事などにある程度参加し、建学の精神を理解しようと努めている。	大学の主催する宗教行事などに積極的に参加し、建学の精神を体現・実行できている。
②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得	人間社会において「言語(ことば)」の持つ影響力について深く理解し、人文学の幅広い知識を身につけている。	「言語(ことば)」の持つ力をまったく理解できていないため、テキストの読解ができず、人文学の幅広い知識の修得もできていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が必ずしも理解できていないため、テキストを正確に読解できず、人文学の幅広い知識の修得も不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が一定程度理解できているため、一定程度テキストの読解ができ、幅広い人文学を学んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、「言語(ことば)」の持つ力が深く理解できているため、テキストの正確な読解ができ、人文学の幅広い知識が身につけている。
	日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解を分かりやすく伝達するための方法を身につけている。	正確な日本語能力がなく、自らの意見を伝えることができない。	学科・専攻の教育理念に基づき、日本語能力を持ち、自らの意見をなんとか伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見を伝えることができる。	学科・専攻の教育理念に基づき、正確な日本語能力を持ち、自らの意見をわかりやすく伝えることができる。
	外国語運用能力や豊かな教養を身につけている。	外国語運用能力をはじめとした教養の学修にまったく取り組めていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語をはじめとした教養の学修に必ずしも積極的に取り組んでいない。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語をはじめとした教養の学修にある程度積極的に取り組んでいる。	学科・専攻の教育理念に基づき、外国語をはじめとした教養の学修に積極的に取り組んでいる。
③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)の発展・向上	他者との相互理解を可能とするような対話能力を身につけている。	他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を行う対話能力が一定程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との相互理解を円滑に行う対話能力が身につけている。
	自らが設定した課題について、探求、発見、追究、解決という一連のプロセスを達成する能力を多角的に身につけている。	課題の探求から解決にむけた能力がまったく身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が必ずしも身につけていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、課題の探求から解決にむけた能力が十分身につけている。
	論理的思考力を培い、現代社会が問いかける問題に対して、多角的に思考・判断することができる。	現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、判断できない。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、判断することが不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、ある程度判断できる。	学科・専攻の教育理念に基づき、現代社会が問いかける問題に論理的、かつ多角的な思考をもって、十分判断できる能力がある。
④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上	多様な価値観を認め、言語(ことば)の学修をはじめとした学びを通じて自己の認識を広げ、異なる価値観を受容することができる。	多様な価値観に対する理解がなく、共生の理念に対する理解がない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念が明確に理解できていない。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解と共生の理念がある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、多様な価値観に対する理解を持ち、共生の理念を体現できている。
	他者との交流や異なる価値観の受容を通じて、自己を客観視し、他者と協働することができる。	他者との交流や協働することができない。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との交流や協働を通じた異なる価値観の受容や自己を客観視することが不十分である。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との交流や協働を通じた異なる価値観の受容や自己を客観視することがある程度身につけている。	学科・専攻の教育理念に基づき、他者との交流や協働を通じた異なる価値観の受容や自己を客観視することが十分身につけている。
	社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。	職業観や勤労観、持続可能な就業力が身につけていない。	職業観や勤労観、持続可能な就業力が必ずしも身につけていない。	職業観や勤労観、持続可能な就業力がある程度身につけている。	職業観や勤労観、持続可能な就業力が身につけている。

III 卒業論文ルーブリック

※卒業論文にかかわる学修進度の目安です。あくまで一例ですから、詳細は各学科・専攻の教員の指導に従ってください。

		1	2	3	4	5
先行研究		国内の先行研究を把握できていない。	国内の先行研究を把握しているが、整理して説明できない。	国内の先行研究を把握し、整理して説明できる。	国外の先行研究も把握しているが、整理して説明することができない。	国内外の先行研究を把握し、整理して説明できる。
問題設定		問題の設定が曖昧である。	ある程度明確な問題を設定しているが、適切な問題であるとはいえない。	ある程度、明確で適切な問題を設定している。	適切で明確な問題を設定しているが、独創性はない。	適切で明確な問題を設定しており、独創性がある。
資料	選択	適切ではない資料を使用しているか、資料を使用していない。	適切な単一の資料(翻訳)を使用している。	適切な単一の資料(原語)を使用している。	適切な複数の資料(翻訳)を使用している。	適切な複数の資料(原語)を使用している。
	読解	ほぼ全体を通して、資料を正しく読解できていない。	資料が正確に読解できている部分とできていない部分が半々である。	7割方読解できている。	若干の問題はあるが、ほぼ正確に資料を読解できている。	資料を正確に読解できている。
	分析	資料が適切に分析できていない。	概ね適切に分析できているが、説明が不十分である。	概ね適切に分析し、それを説明することができている。	資料を適切に分析できているが、説明が不十分である。	資料を正確に分析し、それを十分に説明できている。
考察		資料の分析に基づいておらず、論理的整合性にも欠ける。	概ね資料の分析に基づいているが、論理的整合性に欠ける。	概ね資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	資料の分析に基づき、論理的整合性をもった考察を加えている。
表現	文章化	伝達したい内容を的確に文章化できていない。	伝達したい内容を、あまり的確に文章化できていない。	伝達したい内容を、7割方は的確に文章化できている。	伝達したい内容をほぼ的確に文章化できている。	伝達した内容を全体的に的確に文章化できている。
	誤字・脱字	誤字・脱字が非常に多い。	誤字・脱字がやや目立つ。	誤字・脱字が3、4箇所ある。	若干(1、2箇所)の誤字・脱字がある。	誤字・脱字が全くない。
基本的技術	典拠・典拠箇所の明示	典拠・典拠箇所が殆ど明示されていない。	典拠は示されているが、典拠箇所が明示されていない。	典拠・典拠箇所の明示が欠けている部分がある。	典拠・典拠箇所がほぼ明示されている。	典拠・典拠箇所が全て明示されている。
	参考文献表の作成	参考文献がリスト化されていない。	参考文献表に欠落・余分があり、書式も適切ではない。	適切な書式ではあるが、参考文献表に欠落・余分がある。	参考文献表に欠落・余分はないが、書式が適切ではない。	適切な書式で、欠落・余分なく参考文献表が作成されている。
	論文の書式	指定の書式に全く従っていない。	指定の書式にあまり従っていない。	指定の書式に7割方従っている。	指定の書式にほぼ従っている。	指定の書式に全て従っている。

編集発行

龍谷大学文学部教務課

(大宮学舎)

〒600-8268 京都市下京区七条大宮東入大工町125番地の1

TEL (075) 343-3311 (代表)

FAX (075) 343-4302

(深草学舎)

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

TEL (075) 642-1111 (大代表)

FAX (075) 645-6444

<https://www.ryukoku.ac.jp/>

2024.4 株式会社 言行堂印刷

